



神戸大学大学院 国際文化学研究科

Graduate School of Intercultural Studies, Kobe University

グローバル社会のフロントランナーを育成する

2013-2014

研究科への招待

コース紹介

異文化・メディア・国際交流

充実した研究・教育サポート体制

Invitation

Courses

神戸から始まる 新しい国際文化研究

神戸大学大学院国際文化学研究科は、2007年に総合人間科学研究科を改組して設立された研究科です。1992年10月の国際文化学部創設以来、学部と同じ名称の大学院に改組することによって、学部から大学院までを通じた教育や研究を推進する体制が整備されたこととなります。

冷戦体制の崩壊後、グローバル化の進展に伴って、人と文化のハイブリッド化がますます進んでいます。まさにグローバルに展開する社会の変化をどう捉え、その意味をどう読み解くか。現象の変化と同時にそれを捉える枠組み自体が大きく問われています。中でも、国民国家の枠組みを前提とした思考様式・認識枠組みは、その見直しを鋭く求められています。それは、国家やネーションを所与とし、国民国家の学として体系化されてきた、近代以来の人文科学・社会科学の枠組みを問い直す試みと言い換えてもよいでしょう。

私たちの研究科・学部は、現代世界の変容と持続、両者の織りなす多様な諸相を、「文化」という視点から探求する

ことを教育・研究の課題としています。国際文化学というのは、単一のディスプリンを指すものではありません。多様な文化のあり方や文化相互の関連性を共通のテーマとして、さまざまディスプリンから学際的にアプローチしていく研究分野です。研究科を構成する15のコースに示されていますように、複眼的視点をいかに確保していくか、そのこと自体を自覚的に推進してきました。

全国の国立大学で最初の国際文化学を標榜する大学院として成立した私たちの研究科は、「文化」という視点を中心に、そしてそうした切り口の有効性をも批判的に検証しつつ、先端的な研究領域と分析手法を切り開いていくことを目指しています。門戸は開かれています。新しい知の枠組みをどのように構築していくのか。

知的好奇心あふれる若いみなさんとの協同作業を私たちは心から切望しています。

国際文化学研究科長

阪野 智一



研究科の理念と目標

国際文化学研究科は、異文化共存を見据えた文化研究の先端的領域を開発し、人類文化を把握するための新たなパラダイムを構築することをその理念としています。

そしてそれを実現するために、以下の5つの研究目標を設けています。

- (1) 文化を複合体と捉え、異文化間の関係性を視座として文化研究を行う。
- (2) 複合体としての文化を、衝突、融合、交渉などの異文化間の相互作用という視座から、動的に研究する。
- (3) グローバル化する現代世界の文化変容を多角的に研究する。
- (4) 言語や情報に関わる先端的コミュニケーション研究の開発を行なう。
- (5) 中心/周縁、文明/未開、先進/後進などの一元的で単眼的なパラダイムから、多元的で複眼的なパラダイムへのシフトを実現し、現代世界の文化動態に則した研究方法を開拓する。

アドミッション・ポリシー

国際文化学研究科では、高い異文化理解能力と自在なコミュニケーション能力を有し、豊かな学識と創造的な研究能力を備えた人材を育成することを目指しています。

上記の教育研究上の目標をふまえ、本研究科が求めるのは次のような学生です。

前期課程 Master's Program	<ul style="list-style-type: none">・文化を複合体として捉え、異文化間の関係性を多角的に探究することに強い意欲を持ち、それを達成する基礎的な能力を有する学生・言語情報コミュニケーションの動態を深く理解し、現代のグローバル社会の諸課題に取り組むことに強い意欲を持ち、それを達成する基礎的な能力を有する学生・高い専門性の上に立った学際的研究を行うことに強い意欲を持ち、それを達成する基礎的な能力を有する学生
後期課程 Doctoral Program	<ul style="list-style-type: none">・複合体としての文化の構造と動態を究明し、文化研究の先端的な領域を主体的に開拓することに強い意欲を持ち、それを達成する基礎的な能力を有する学生・言語情報コミュニケーションの諸問題を探求し、グローバル化する現代世界を多角的に研究することに強い意欲を持ち、それを達成する基礎的な能力を有する学生・高度な専門性の上に立った領域横断的な研究を行うことに強い意欲を持ち、それを達成する基礎的な能力を有する学生

ディプロマ・ポリシー

国際文化学研究科は、高い異文化理解能力と自在なコミュニケーション能力を有し、豊かな学識と創造的な研究能力を備えた人材を育成することを目指しています。

この人材育成目標、及び全学で定めた学位授与に関する4つの目標をふまえ、本研究科では、教育課程を通じて授与する学位に関して、以下に示した2つの方針に従って当該学位を授与します。

前期課程 Master's Program	本研究科に原則として2年間在学し、修了に必要な所定の単位を修得し、修士論文または修了研究レポートの審査に合格する。 本研究科学生が、修了までに達成を目指す目標は次のとおりである。 <ul style="list-style-type: none">・文化を複合体として捉え、異文化間の関係性を多角的に探究することができる。・言語情報コミュニケーションの動態を深く理解し、現代のグローバル社会の諸課題に取り組むことができる。・高い専門性の上に立った学際的研究を行うことができる。
後期課程 Doctoral Program	本研究科に原則として3年間在学し、修了に必要な所定の単位を修得し、博士論文の審査に合格する。 本研究科学生が、修了までに達成を目指す目標は次のとおりである。 <ul style="list-style-type: none">・複合体としての文化の構造と動態を究明し、文化研究の先端的な領域を主体的に開拓することができる。・言語情報コミュニケーションの諸問題を探求し、グローバル化する現代世界を多角的に研究することができる。・高度な専門性の上に立った領域横断的な研究を行うことができる。

目次

国際文化学研究科への招待

アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー	1
研究科の構成・研究科の育成する人材	2
博士前期課程・博士後期課程	3

15の多様な専門コース

日本学	4-5
アジア・太平洋文化論	6-7
ヨーロッパ・アメリカ文化論	8-9
文化人類学	10-11
比較文明・比較文化論	12-13
国際関係・比較政治論	14-15
モダニティ論	16-17
先端社会論	18-19
芸術文化論	20-21
言語コミュニケーション	22-23
感性コミュニケーション	24-25
情報コミュニケーション	26-27
外国語教育システム論	28-29
外国語教育コンテンツ論	30-31
先端コミュニケーション論	32

異文化・メディア・国際交流

国際シンポジウム	33
異文化研究交流センター	34
メディア文化研究センター	35
留学案内	36

充実した研究・教育サポート体制

研究サポート	37
国際文化学研究科の就職と進学	38-39
全学の研究支援施設・学生寮・奨学金	40
研究会・研究誌の紹介	41
論文題目	42-43
教員一覧	44-45

Invitation to the Graduate School of Intercultural Studies

15 Diverse Specialized Courses	50-57
--------------------------------	-------

国際文化学研究科への招待

INVITATION TO THE GRADUATE SCHOOL OF INTERCULTURAL STUDIES

研究科の構成 世界とかわり、世界で生きるための15の専門コース

専攻と領域

現代社会の文化のあり方を比較考察し、文化間の対立・紛争といった現代的な課題に取り組むには、個別地域の文化及び異文化間の相互関係を考察すると同時に、グローバル化する世界の文化の動向それ自体を考察する能力を培うことが不可欠です。

そのため、国際文化学研究科では、個別地域文化研究を踏まえ、異文化間の相互作用のあり方や特質を多角的に解明する「文化関連専攻」と、グローバル化による文化の現代的位相を解明する「グローバル文化専攻」の2専攻を置いています。

「文化関連専攻」には、各地域固有の文化特性や文化の変容を学際的に研究する「地域文化系領域」、異文化の接触・対立・交流の実態を多角的に探求する「異文化コミュニケーション系領域」を置き、(1) 個別地域文化の理解、(2) 異文化間の関係性・相互作用の理解、(3) 異文化

コミュニケーション能力の育成を目指します。

「グローバル文化専攻」には、グローバル化に伴う西洋近代原理の揺らぎの中にある、現代の社会的・文化的状況をトータルに研究する「現代文化システム系領域」、言語・非言語的コミュニケーション活動と多様な情報メディアの利用に関わる諸問題を探求する「言語情報コミュニケーション系領域」、外国語教育に関する先進的研究と当該分野の卓越した実践者の養成を目標とする「外国語教育系領域」、さらに、後期課程では、国際電気通信基礎技術研究所(ATR)との連携の下に、連携講座「先端コミュニケーション論」を置いています。そして、これらの領域を通して、(1) グローバル化による文化変容の解明と新たな公共文化の構築、(2) 先進的なグローバルコミュニケーションの開発、(3) グローバル化時代の外国語教育システムの開発を目指します。

専攻	領域	コース
文化関連 個別地域文化研究を踏まえ、異文化間の相互作用のあり方や特質を多角的に解明する	地域文化系 各地域固有の文化特性や文化の変容を学際的に研究する	日本学 アジア・太平洋文化論 ヨーロッパ・アメリカ文化論
	異文化コミュニケーション系 異文化の接触・対立・交流の実態を多角的に探求する	文化人類学 比較文明・比較文化論 国際関係・比較政治論
グローバル文化 グローバル化による文化の現代的位相を解明する	現代文化システム系 グローバル化に伴う西洋近代原理の揺らぎの中にある、現代の社会的・文化的状況をトータルに研究する	モダニティ論 先端社会論 芸術文化論
	言語情報コミュニケーション系 言語・非言語的コミュニケーション活動と多様な情報メディアの利用に関わる諸問題を探求する	言語コミュニケーション 感性コミュニケーション 情報コミュニケーション
	外国語教育系 外国語教育に関する先進的研究と当該分野の卓越した実践者の養成を目標とする	外国語教育システム論 外国語教育コンテンツ論
	連携講座（博士後期課程に設置）	先端コミュニケーション論

研究科の育成する人材 世界へ広がるキャリアパス

博士前期課程

文化関連専攻

—専門職として—

- ・ 国連、JICA 等国際機関の専門職
- ・ 日本文化の紹介・交流などを企画する各種団体職員・公務員
- ・ 博物館・美術館の文化プランナー
- ・ 高度な専門知識を備えた中学校・高等学校教員（英語系）
- ・ 地方自治体・企業における文化交流事業の企画立案者
- ・ 外資系・合併企業の研修担当者
- ・ 文化活動・異文化理解を先導する地域NPO リーダー

—実践対応力をもったビジネスプロとして—

- ・ 外資系・合併企業社員
- ・ 商社等企業社員
- ・ 日本企業の海外進出要員

グローバル文化専攻

—専門職として—

- ・ 音楽・美術等の芸術に通じた文化政策専門職員、アートマネジャー
- ・ ジェンダー・公共性等、変容する現代文化の諸問題に取り組むジャーナリスト、公務員
- ・ 高度な専門知識を備えた中学校・高等学校教員（英語系）
- ・ 語学教育系企業の社員・教員
- ・ 言語教育教材等の編集者
- ・ 留学生センター研究員・専門職員・アドバイザー
- ・ 日本語教員
- ・ 通訳・翻訳家
- ・ 言語系・IT系企業研究所職員

—実践対応力をもったビジネスプロとして—

- ・ ソフトウェア技術者
- ・ システムエンジニア

博士後期課程

世界の「国際文化学研究」を推進する先進的研究者

—専門職として—

- ・ 国際機関 / 研究所研究員
- ・ 国公立 / 企業系研究所等研究員
- ・ 大学・短期大学・高等専門学校教員

取得できる学位

- 博士前期課程 修士（学術）
- 博士後期課程 博士（学術）

取得できる資格（博士前期課程）

- 中学校教諭専修免許状（英語）
- 高等学校教諭専修免許状（英語）
- 学芸員資格（* 博士後期課程も可）

博士前期課程 — 夢に応じた2つの「学び」の形 —

国際社会のキーパーソンを育てる<キャリアアップ型>、時代をリードする新進研究者を育てる<研究者養成型>
— 入口から出口まで、目的に応じた多様なスタイル —

	キャリアアップ型	研究者養成型
入試 (一般入試、社会人特別入試及び外国人留学生特別入試)	1.基礎科目 *外国語 (一般入試及び社会人特別入試。日本学コース及び情報コミュニケーションコースは外国語に代えて「コース一般問題」を選択可能) *日本語 (外国人留学生特別入試。情報コミュニケーションコース、外国語教育システム論コース及び外国語教育コンテンツ論コースについては募集要項を参照してください。) 2.専門科目 3.口述試験	1.基礎科目 *外国語 (一般入試及び社会人特別入試。情報コミュニケーションコースは外国語に代えて「コース一般問題」を選択可能) *日本語 (外国人留学生特別入試。情報コミュニケーションコース、外国語教育システム論コース及び外国語教育コンテンツ論コースについては募集要項を参照してください。) 2.専門科目 3.口述試験
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ●キャリアアップのための高度な外国語能力・情報処理能力・プレゼンテーション能力を育成する演習科目 ●一方通行でないインタラクティブな少人数制「特殊講義」を中心に履修 ●所定の単位の修得と修了研究レポートの提出で修士号が取得可能 	<ul style="list-style-type: none"> ●指導教員による充実した個人指導(チュートリアル) ●研究者としての基礎学力を培う「高度専門演習」を中心に履修 ●後期課程の「特別演習」履修も可能 ●修士論文、または複数業績を組み合わせた「修士フォリオ」の提出
進路像	修士号を取得し、専門職として国際的に活躍する	後期課程入試を経て、後期課程に進学を希望する学生に対応。研究者や高度専門家としての道を歩む

2つの教育プログラム

博士前期課程にはキャリアアップ型プログラムと研究者養成型プログラムがあります。一般入試及び社会人特別入試志願者については、入学願書提出に際して、どちらかひとつを選択します。外国人留学生特別入試志願者については、入学後に、いずれかを選択します。

キャリアアップ型プログラム

前期課程修了後、就職を希望する学生に対応した教育プログラムです。幅広い専門的知識と実践的な応用能力の修得によって、キャリアの高度化を目指します。

特殊講義を中心とした所定単位の修得と、キャリアデザインに即した修了研究レポートの提出によって、修士号が取得できます。

研究者養成型プログラム

前期課程修了後、後期課程入試を経て、後期課程への進学を希望する学生に対応した教育プログラムです。

研究者や高度専門家の養成を目指したカリキュラムが提供されています。高度専門演習を中心とした所定単位の修得と修士論文(または修士フォリオ)の提出が修了要件になります。

アカデミック・スキル演習

各分野で研究を進めるうえで必要な方法論・技術などのアカデミック・スキルを効率的に修得することを学習目標とします。

- ITスキル実習
- アカデミック・コミュニケーション(英語)
- アカデミック・ライティング(英語)
- アカデミック・ライティング(日本語)
- 社会研究方法論
- フィールド調査
- 統計・計量分析法

修士フォリオ

修士フォリオとは、修士論文に代えて提出できる、一つのテーマのもとでゆるやかに関連する複数の研究成果から構成されるものです。単一の論文という形式にとらわれず、従来は修士論文として認められなかった多様な研究成果作品・調査報告などがフォリオの一部として認められます。職業や職場との関連をふまえた実践的な研究が行いやすくなり、また複数回にわけて提出するため、計画的な執筆や調査が可能になります。

博士後期課程 — 自立した研究者を育てる「学び」のスタイル —

専門分野を深く究める<コースワーク型>
— 3年間で博士号を取得するための多様で柔軟なサポート —

コースワーク型	
研究テーマ	コースの研究分野に即したテーマ
カリキュラム	個人研究
研究指導体制	指導教員が中心となりコース全教員がサポート
博士号取得のプロセス	<1年次> コースの共同演習で構想を発表、学術論文の投稿、博士基礎論文の提出 <2年次> 学術論文の投稿、学会発表、博士予備論文の提出 <3年次> 毎月1回、部分草稿をコースの共同演習に提出、全教員から指導とサポートを受ける。博士論文の提出
期待される成果	個人の自由な発想と獨創性を最大限に生かした学術的研究成果

日本学コース



日本学コースでは、世界の多様な文化の中で日本文化を相対化しつつ、日本という地域における人間の営みを、文化の面から明らかにします。文学・芸術・宗教・思想などの文化や社会に関する古代から現代にいたるきわめて広範囲の諸問題に取り組み、共に研究し学んでいこうと考えています。

日本の文化や社会を深く理解するためには、古文書解読や資料調査を求められることも多いのですが、そのための専門的な能力を高める機会も提供しています。

また、留学生には、通俗的な日本論に惑わされることなく学問的手続きを踏んで日本の文化や社会について論じられるようになるための専門的訓練も行います。高度の専門的技法と学問的能力をもって日本を論じられる人材を育てることを目指しています。

進路実績 (前期課程) 関西学院大学職員 船井電機 アップオン(株) NEXCO中日本(中日本高速道路(株)) 兵庫県立高校教諭他。
(後期課程) 学芸員(芸北民俗芸能保存伝承館・高知県立歴史民俗資料館・茶道資料館・平和祈念展示資料館)、兵庫県庁職員、高校教諭(群馬県立高校、私立灘中高他)、大学研究機関専門職員(神戸大学百年史資料室)、上海外国語大学日本文化経済学院准教授、関西学院大学言語教育研究センター朝鮮語常勤講師、大学非常勤講師(立命館大学、京都精華大学他)―他。尚、廣田吉崇さんの博論著書「近現代における茶の湯家元の研究」(慧文社、2012)が、芸能史研究会で「林屋辰三郎藝能奨励賞」を受賞されました(2013)。

在籍学生数 (前期課程) 1年2名(内キャリアアップ型2名)
2年以上4名(内キャリアアップ型1名)
(後期課程) 1年1名 2年1名 3年以上4名

論文テーマ例 (前期課程) 「職員会議の変化と1980年代」「神戸市の男女共同参画事業と少子化」「日本の「軍楽」と江戸期以前」「但馬城崎「温泉寺縁起帳」の成立と背景」「18世紀初頭の花道思想」「『今昔物語集』にみる歴史観」「近代来日音楽家のジャポニスム」他
(後期課程) 「中世説話文学にみる神仏と寺社の起源」「嘶し田の「芸能化」」「近世「藩儒」の社会的役割と文化ネットワーク」「『日本霊異記』に見る冥界観の変貌」「米軍占領下沖縄における文化政策とラジオ」「領主権力との関連における近世説話の考察」他

所属教員の紹介

板倉 史明 准教授 日本文化表象論特殊講義ほか

日本映画・映画学。映画学の方法論をベースにして、国際的かつ歴史的な視座から日本映画を研究しています。

長 志珠絵 教授 日本社会変容論特殊講義ほか

近現代日本の文化史、ジェンダー史。最近のテーマは戦争の記憶論、米軍占領下日本の文化研究。

木下 資一 教授 日本伝承文化論特殊講義ほか

伝承されてきた物語や説話を研究対象とし、その変容・展開の背後にある宗教、文化、社会、時代意識などの問題を考えます。

昆野 伸幸 准教授 日本言語文化論特殊講義ほか

日本思想史。1920年代から40年代にかけてのナショナリズムについて、歴史意識や宗教といった視点から研究しています。

寺内 直子 教授 日本芸能文化論特殊講義ほか

日本伝統音楽・芸能論。日本列島の文化を、身体を用いて表現する音や芸能などに注目し、アジア、世界の様々な文化との関連の中で動的にとらえます。

所属学生からのメッセージ

望月 愛さん

(博士前期課程 2年・研究者養成型プログラム)

研究テーマは「1930年代の来日音楽家のジャポニスムについて」。

私は、昭和初期に来日した音楽家たちが、実際に日本で体験し学んだことが、どのように彼らの音楽思想や作品の創作活動に影響を及ぼしたのかについて研究しています。彼らの音楽思想は、日本の音楽家たちとの交流を通して、日本の音楽界にも少なからず影響を及ぼしたと考えられ、近代日本の音楽史においても、彼らは見過ごすことができない存在です。また、彼らの音楽思想には、日本の芸能や音楽だけでなく、日本の他の文化や歴史、宗教、社会状況などが反映されています。日本学コースでは、さまざまな専門分野の先生方のご指導のもと、日本の文化を学ぶことができ、日本文化を研究するための専門的な能力を身に付ける機会が得られます。さまざまな研究分野の院生の方々と意見交換しながら、音楽の見地だけではなく、多角的な視点で研究を深められる環境が整えられています。

潘 寧さん

(博士後期課程3年)

神戸大学国際文化学研究所博士前期課程修了。研究テーマは「古代説話における日中信仰の比較研究」。

国際化が進む中、国と国との交流を更に深めるためには、お互いの文化や歴史を理解し合い、お互いに学ぶことが大事です。その思いで、大学卒業後、私は学生時代に学ぶ機会を得た神戸大学に留学、大学院に進学することを決意し、日本のことをもっと深く勉強しようとして、日本学コースに入ることにしました。留学生の中には私以外にも、日本の伝統、或いは現代文化に心を惹かれ、日本に興味を持つようになり、更に日本の事情をもっと知りたくなった方がきっと少なくありません。しかし私たちはどのように日本文化を理解すればよいのか、学問的な方法を身に付けられない限り、既知の通俗の一般論に止まるという問題に直面しています。

日本学コースでは、日本の歴史や思想や映画などの「新しい」文化、そして古典文学や芸能のような「古い」文化が学べると同時に、それらの文化を研究する方法を習得することができます。特に、後期課程に入ると、博士論文指導演習があり、多様な専門領域で活躍されるコース全体の諸先生方から様々な視点でご指導頂けることは魅力的です。

日本の「古今」の文化に興味を持っている留学生、そして日本研究を専門として目指している方に、日本学コースの魅力を是非知ってもらいたいと思います。

修了学生からのメッセージ

謝 秦さん

(2006年博士後期課程修了)

神戸大学国際文化学研究所博士後期課程修了。

2007年上海外国語大学日本文化経済学院専任講師 現在、同副教授。

研究テーマは「漢籍受容を通じての中世日本文化研究」。

神戸大学での7年間の留学生活は、私にはたくさんのものを与えてくれました。まずは多くの出会いです。さまざまな分野で研究を広げる先生方のゼミを通して、新しい友人と出会い、新しい思考と出会い、そして新しい世界が広がりました。毎日経験していること、考えていることはいつも新鮮なものばかりでした。大学を卒業して一度社会人になっていた私には、このような象牙の塔と言われる生活は、素朴でありながらも、なにより楽しい日々でした。もちろん学業に励むことはそう楽しいものばかりではありません。研究が進まないときの辛さに耐えるのも常に生活の一部です。ここには留学生活が私にもたらしてくれた二つ目の贈り物があります。大輪の花を咲かせるのには心静かにして待つのが必要ということが分かったのです。現在教壇に立つ立場になってから、学生時代でしか経験できないことがいっぱいあることに気づきました。志願者の皆様にこれからの大学生活を大事に生かしてもらいたいと思います。

Q&A

文学研究科の教育・研究内容との違いは何ですか？

国際的な関係ということ意識しながら教育・研究を行っています。また、文学研究科では扱われることの少ない研究分野や研究テーマを積極的に取り上げています。

仕事をしながら教育課程を修了することができますか。

これまで在職中の院生に対しては、6時限目や休日に開講するなどの対策を取ってきました。事前にコース教員と相談されることをお勧めします

アジア・太平洋文化論コース



現代のアジア・太平洋地域は、経済や国際交流等の面で激しい変動を経験しながら急速に発展しています。その意味では今まさに地球上でも最もホットな地域の一つであると言えるわけですが、それらの表面的な発展の流れを追うのみではこの地域の持つ特質は理解できません。東アジアにせよ、東南アジアや太平洋地域にせよ、各地域が古くから保持してきた複雑きわまりない多彩な伝統というものが、その伝統がグローバル化の波をかぶりつつ変容してきた結果が、現在の姿なのです。したがって、この地域の特質を深く理解しようと思えば、社会構造、宗教、歴史、経済状況等々の諸方面から掘り下げた専門的な研究が不可欠となります。本コースでは、それらの専門的な研究視点、研究方法を多様な教授陣が様々な専門領域の授業で伝授し、指導する体制を整えています。

所属教員の紹介

伊藤 友美 准教授 東南アジア社会文化論特殊講義ほか
東南アジア地域研究、タイ研究、仏教と女性研究などの分野を主として研究しています。

王 柯 教授 中国社会文化論特殊講義ほか
近現代中国思想史、民族問題などの分野を主として研究しています。

窪田 幸子 教授 オセアニア社会文化論特殊講義ほか
オセアニア地域の文化人類学などの分野を主として研究しています。

就職実績 (前期課程) アジア・太平洋地域関連で活動している諸企業、諸団体等への就職が予想されます。
(後期課程) 日本での大学・短大・高专・各種研究所、企業などへの就職の他、留学生の場合には出身国での大学や企業における専門職への就職等も期待されます。平成23年3月修了者の就職先:中国・内蒙古大学近現代史研究所専任講師。

在籍学生数 (前期課程) 1年4名(内キャリアアップ型0名) 2年6名(内キャリアアップ型2名)
(後期課程) 1年2名 2年1名 3年2名

- 論文テーマ例**
- 中国における児童福祉事業の発展
 - 日本人夫を持つタイ人妻の研究
 - 明代(14-17世紀)の雲南麗江ナシ族・木氏土司
 - インドネシアにおける大学生の恋愛と性をめぐる葛藤
 - 清代外モンゴルにおける書記および書記の養成に関する研究

貞好 康志 准教授 東南アジア国家統合論特殊講義ほか
インドネシア現代史、華僑華人研究などの分野を主として研究しています。

萩原 守 教授 モンゴル社会文化論特殊講義ほか
東洋史学、特に清代から近現代におけるモンゴルと中国の歴史などの分野を主として研究しています。

谷川 真一 准教授(2013年10月着任予定) 中国社会経済論特殊講義ほか
現代中国の政治・社会運動などの分野を主として研究しています。

所属学生からのメッセージ

山本 絵麻さん

(博士前期課程 2年・研究者養成型プログラム)

武庫川女子大学卒業。研究テーマは「国際交流事業が与える影響—東南アジア青年の船におけるネットワークの可能性について—」。



タイの首都バンコクでのホームステイ中にワットポー寺院にて、ステイメイト・ホストシスターとともに。右端が私。

私は大学3年次に内閣府国際交流事業「東南アジア青年の船」という事業に参加し、もっと東南アジアのことが知りたい(研究したい!)と強く感じたことからアジア・太平洋文化論コースへの進学を決めました。現在は自分自身が参加した事業を研究対象とし、国際協力としての側面も持つ国際交流事業の可能性や広がりについての研究を進めています。

実際の授業ではアジア・太平洋地域において多彩な専門分野を持つ先生方が、生徒の幅広い関心に合わせて熱心

に指導して下さいます。学部時代とは全く違う分野の研究を始めることに不安はありましたが、先生方や同じコースの先輩・同輩のサポートのお陰で充実した研究生生活を送ることができています。また、多くの先生方やコースの仲間たちと意見を交わすことにより、自分の専門分野以外の知識を深め、広い視野を持って研究に取り組むことが出来ます。これもアジア・太平洋文化論コースならびに研究科の特徴であり、私自身の研究にも大いに役立っていると考えています。

私の時間割(平成23年度、主な履修科目)

東南アジア国家統合論特殊講義

受講生それぞれの研究分野における先行研究や関係のある論文について発表し、全員で意見を出し合います。興味や関心の違うメンバーから様々な意見を聞くことができ、自分自身の研究について考える良い機会になります。

アジア・太平洋文化論演習

指定された論文について順番に発表し、詳しく取り上げながら論文全体の評価について検討します。今後研究する上で必要となる論文を読み解く力を養うことができます。

地域研究方法論

アジア・太平洋文化論コースの先生方が交代で講義を担当し、専門的な知識や研究方法に限らず、研究における心構えなど大学院での研究に関するあらゆることを学びます。

阿拉木斯(アラムス)さん

(博士後期課程 3年)

モンゴル草原の遊牧民出身。神戸大学総合人間科学研究科博士前期課程修了。研究テーマは、「清代内モンゴルにおける農地所有とその契約に関する研究—帰化城トゥム旗を中心に—」

私はモンゴル草原で農耕が始められた頃の歴史を探り、農業文化と遊牧文化との文化摩擦や双方向の影響について研究しています。私の所属するアジア・太平洋文化論コースでは、このような様々な地域、民族の歴史、文化、経済などを研究し、多言語、多文化を身に付けることができます。思いもつけない国や民族からの留学生と触れ合って、その国や民族の歴史、文化、言語、習慣などを身近に感じるといことも出来ます。



内モンゴルの東部に位置するバーリン草原。私が生れて、育った故郷です。

Q&A

留学生や社会人入学の院生もいますか？

本コースでは日本人と留学生の両方が在学しており、過去に社会人入学の院生もいました。

ヨーロッパ・アメリカ文化論コース



ヨーロッパ・アメリカ文化論コースでは、近代以降、世界の政治・経済・文化などで中心的な役割を果たしてきたヨーロッパとアメリカの社会と文化について、多様な角度から総合的に教育・研究します。これらの地域で発展した文化は世界へと広まりましたが、現在、批判的に再検討されていることは周知の通りです。それに加えて、最近では、欧米の中にありながら近代成立の過程で周縁にあった社会と文化に関する研究も進展してきています。このコースでは、以上のような成果を踏まえて、現代の我々の生活と意識に深く根付いているように見える欧米的な思考や価値観を再検討し、その21世紀における意義を探っていきます。歴史・言語・宗教・思想・文学・芸術・社会制度など、幅広い分野にわたって具体的な考察を積み重ねることで、いまだ知られざるヨーロッパやアメリカの深奥に迫りたいと思います。

進路実績 (前期課程) クボタ、東洋学園教諭、富永貿易、有限会社「かずきれいこ」、エクコムグローバル株式会社、中国航空工業集団、神戸大学大学院後期課程進学、他
(後期課程) 神戸大学非常勤講師、神戸松蔭女子学院大学非常勤講師、大和大学非常勤講師、神戸大学大学院国際文化学研究所異文化研究交流センター (IRec) 協力研究員

在籍学生数 (前期課程) 1年4名(内キャリアアップ型2名) 2年5名(内キャリアアップ型3名)
(後期課程) 1年1名 2年1名 3年1名

論文テーマ例 グリム兄弟『ドイツ伝説集』、ウィリアム・モリス研究、『ハリー・ポッター』に見るヴィクトリア文化の受容、現代フランスのファッション、チェコロマ文学・バロック研究、アメリカイタリヤ移民、プロンテの自然観、I Love Lucyにおける視覚的ギャグの分析、ポルトガルにおけるミランダ語の成立、戦間期アメリカ合衆国における平和主義、孤立主義、ポピュリズム、他

所属教員の紹介

青島 陽子 講師 スラヴ社会文化論特殊講義ほか

ロシア・東欧の近代史を専門としています。とくに、前近代に多民族・他宗教の社会が共存した当地域において、社会の近代化に付随して、ナショナリズムや「民族」の衝突がどう生じたのかに関心をもっています。

石塚 裕子 教授 イギリス市民文化論特殊講義ほか

ヴィクトリア朝のイギリス文化・社会と文学を中心に研究しています。文学ではディケンズやギャスケル、ギッシングなどの小説作品に興味があり、またたとえば、社会問題、王室、余暇、教育、ジェンダー、絵画など当時の一般大衆の関心となった文化・社会を多角的に検討します。

井上 弘貴 准教授 アメリカ多民族社会形成論特殊講義ほか

政治学をベースにしなから、19世紀末から20世紀のアメリカ合衆国における知識人たちやデモクラシーの歴史を中心に、アメリカ研究をしています。

小澤 卓也 准教授 ラテン・アメリカ文化交流論特殊講義ほか

ラテンアメリカ、とりわけ中央アメリカの近現代史が専門です。最近ではグローバルな歴史的視点に立ちながら、中米社会を大きく規定している民族問題や輸出作物生産文化の研究を進めています。

坂本 千代 教授 フランス文化表象論特殊講義ほか

専門はフランス文化学、特にフランスの女性作家とその作品に興味があります。19世紀の女性作家ジョルジュ・サンドやマリー・ダグー、ロマン主義、ジャンヌ・ダルク等について研究しています。授業ではもっと幅広く、ヨーロッパの女性の歴史や表象の問題を取り上げたいと考えています。

谷本 慎介 教授 ドイツ・オーストリア表現文化論ほか

近代ヨーロッパ文化が研究対象です。特にワーグナー、ニーチェを研究対象の核心に据えて、ロマン主義から世紀末におけるヨーロッパの「文化危機」の実態解明を目指しています。

西谷 拓哉 教授 アメリカ言語映像文化論特殊講義ほか

文学と映画を中心として、アメリカ合衆国の多様な文化状況や表現の独自性などについて研究しています。専門は19世紀中葉のアメリカン・ルネサンス期の文学ですが、小説の映画化という観点から両者のナラティブとしての特徴を比較することにも関心を持っています。

野谷 啓二 教授 イギリス宗教文化論特殊講義ほか

イギリスとアメリカの文化・文学とキリスト教の関係について研究しています。宗教が文化の形成にどのように関わっているか、個人と文化のアイデンティティ構成要素としての宗教に関心があります。

所属学生からのメッセージ



尾家 和隆さん

(博士前期課程 2年・キャリアアップ型プログラム)
神戸大学国際文化学部卒業。研究テーマは「デンマーク教育史」。

デンマーク教育史を研究しています。もともとはデンマークにおけるキャリア形成に関する文化の役割に関心がありました。現在は主として、グルントヴィと呼ばれる人物が持つ教育思想の現代教育制度に対する影響を分析し、どのように現代デンマーク教育の形成に貢献したのかを考察しています。デンマークに関する専門の先生はいらっしゃいませんが、指導教員も他分野に関わらず熱心に相談に乗ってください、また本コースでは修士論文・修了研究レポートの構想発表や中間発表、最終報告はコース全体で行われるので、複数の先生方から意見がいただけます。自分の専門分野のみならず、異分野から新しい視点を得られる学際性と寛容性がある環境で研究できることが、この研究科、このコースの醍醐味だと思います。



秋田 真吾さん

(博士後期課程 2年)
中央大学文学部史学科西洋史学専攻卒業。神戸大学国際文化学研究科博士前期課程修了。研究テーマは「アメリカのインテレクチュアル・ヒストリー」。

民主主義とは熟議なき多数決のことなのか?世論とは何か?そんな問いに導かれ、私はアメリカ合衆国の政治思想史を専攻しています。アメリカ合衆国は、ヨーロッパや中南米などと相互に影響を与えています。また政治思想という分野を扱う上で、文学や文化、宗教という視点は欠かせません。つまり、アメリカ合衆国のみを学んだのでは、アメリカ合衆国を学んだことにはならないのです。このことは、他の専門分野にもあてはまることでしょう。さまざまな専門分野を持つ先生方による集団指導を通じて、多様な視点を得られること、自分の研究を、地理的にも思想的にも、より広い文脈に位置づけられることが、このコースの魅力であると思います。

修了学生からのメッセージ



吉田 菜穂子さん

(2011年度博士前期課程修了)
早稲田大学第一文学部(現・文学部)卒業。神戸大学国際文化学研究科博士前期課程修了。
研究テーマは「イギリスのパブリックスクール小説」。
現在、有限会社「かつきれいこ」勤務。

ヨーロッパ・アメリカ文化論コースで、私はイギリスでヴィクトリア朝時代に急増したパブリックスクールを舞台とした小説について研究を行いました。ヴィクトリア朝時代から現在に至るまで時代とともに小説の在り方がどのように変化し、どのように伝統的な要素が受け継がれてきたのかについて、その時代背景も含め考察を行いました。本コースでは、専門とする分野だけでなく、他分野の先生や院生と交流できる機会が多く、広い視野を持って研究を行うことができます。また、少人数での講義が多く毎回密度の濃い授業が受けられることも本コースの魅力の一つです。



上野 陽平さん

(2012年度博士前期課程修了)
滋賀大学経済学部卒業。神戸大学国際文化学研究科博士前期課程修了。
研究テーマは「アメリカのイタリア移民」。
現在、エクスクムグローバル株式会社勤務。

私は大学時代に経済学部にも所属しておりましたが、その当時からアメリカの文化や歴史に興味がありアメリカがどのようにして現在のよう大国になったか深く学びたい思い、神戸大学国際文化学研究科ヨーロッパ・アメリカ文化論コースに入学しました。当コースのキャリア・アップ型プログラムにおいて、自身の研究テーマに関することから就職後も役に立つスキルまで授業で教えていただき、修士号を取得後現在は企業に就職しています。大学院ならではの少人数制による議論や発表中心の授業や先生方によるフィードバックは卒業後も必要な力をつけさせてくれました。また私は大学の交換留学制度も利用しており、研究対象としていたアメリカで歴史の授業を受けながら移民研究もすることができました。留学しながら研究をするのはとても大変でしたが、このような経験をさせていただいて本当に感謝しております。短い時間の中でも神戸大学国際文化学研究科ヨーロッパ・アメリカ文化論コースでは充実した2年を過ごすことができました。

Q&A

社会人ですが、仕事をしながらの入学は可能でしょうか？

規定年限で修了を目指す場合、博士前期課程では少なくとも1年次においては週に1～2回以上の登校が必要ですが、「長期履修制度」を利用すれば最長4年まで修了年限を伸ばせますので、登校日と学期毎の履修単位をかなり少なくすることができます。また、博士後期課程の場合は、指導教員との相談により柔軟な受講が可能な場合もあります。

外国語の知識はどの程度必要ですか？

英語の文献が読める程度の知識が必要です。どこかの地域に関することを専門的に研究する場合は、当該地域の言語(フランス語、ドイツ語、ロシア語、等々)の知識を持っている必要があります。前期(修士)課程の「キャリアアップ型プログラム」では、それほど高度な外国語力がなくても大丈夫でしょう。

専門の先生がいない地域や領域のことを研究テーマにすることはできますか？

教員は数が多く、また幅広い地域や領域をフォローしていますので、かなり柔軟に対応することができます。受験を考えている場合は、いずれかの教員と連絡を取って、具体的なテーマについて相談してください。

文化人類学コース



本コースでは、多様なテーマと地域を研究対象にする文化人類学の専門スタッフが、充実した教育研究カリキュラムを提供しています。今日の文化の諸問題は、グローバル化に伴うさまざまな文化と価値観の対立、分裂、統合と融和、生成と消滅といったダイナミズムを特徴としています。本コースでは、地に足のついた研究調査（フィールドワーク）から世界を見渡す広くしなやかな視点をもつことで、深い異文化理解をもとに多様な文化が対話可能となるような方法をともに考えていきます。文化をめぐる複雑な問題に積極的にとり組み、国際的に活躍する専門家、研究者をめざす学生、文化人類学の高度な研究を志す留学生も歓迎します。

就職実績（前期課程）多摩美術大学(助手)、広東貿易職業技術学校(講師)、中日新聞社、イオン、旭化成、東京三菱銀行、モバゲー、活水女子大学、韓国法務省、バンダイ、大阪府高校教員、青年海外協力隊(コスタリカ派遣)、アビームコンサルティング、東京国際貿易、三菱総研DCS、関西福祉科学大学
（後期課程）島根大学(准教授)、外務省専門調査員、帝塚山大学(非常勤講師)、浙江大学(専任講師)

在籍学生数（前期課程）1年1名(内キャリアアップ型0名) 2年5名(内キャリアアップ型1名)
（後期課程）1年2名 2年2名 3年5名

論文テーマ例（前期課程）カーゴカルト、カザク・アイデンティティ、観光、ポスト・ソヴィエト時代、ポスト・コロニアル、マルチカルチュラル・オリエンタリズム、中国の女性の地位、悪石島のボゼ、ローカル・ハワイアン、プリミティブ・アート、在日ベルー人、映像人類学、クラ交易、 Bangladesh のフェアトレード、国民文化と教育、在日コリアン、国際結婚、在日ベトナム人、奄美出身者同郷団体、文化遺産、伝統の創造、多文化共生、朝鮮族、映像、アイデンティティ・ポリティクス、ポピュラー音楽の表象、ジャマイカのペンテコステ教会、在米カリビアン、カーニバル、在米コリアン・アイデンティティ、ラストファリ運動、ジャマイカのエチオピア正統教会、キリスト教と文化の文脈化、日系アルゼンチン人、ドミニカ共和国野球移民、スポーツ移民とトランスナショナルリティ、在米華人、エスニック・コミュニティとメディア、マルチレイシャル、在日ブラジル人、移民の子弟教育、メキシコ女性と住民参加型開発、カナダ先住民、ディアスポラ・アイデンティティ、日系ハワイ人、帰米二世、ヒスパニック、カリフォルニア州バイリンガルズム
（後期課程）文化の真正性、ヴァヌアツ・アネイチュム、歴史人類学、難民、カレンジー、ホームステイ、在日ベトナム人、ケアと家族、朝鮮族村落変容、朝鮮族移民の女性化、華僑・華人、ベトナム観光、オーストラリア・アポリジニ、「問題飲酒」、先住民と先住民、カリブ海地域、ジェンダー、男性性、ダンスホール文化、ダンスホール・ゴスペル、ポピュラー音楽、カリブソ、ソカ、ナショナル・アイデンティティ、人種と民族ポリティクス、混血の表象、当事者性

所属教員の紹介

梅屋 潔 准教授 民族学特殊講義ほか

社会人類学、東アフリカ民族誌、妖術・邪術研究、日本の民俗宗教、開発の人類学などの分野を主として研究しています。

岡田 浩樹 教授 民族誌論特殊講義ほか

朝鮮半島、日本を中心とした東アジア諸社会およびベトナム、植民地主義および近代化過程における家族、宗教の再編成、マイノリティと多文化主義、宇宙人類学などの分野を主として研究しています。

齋藤 剛 准教授 文化人類学特殊講義ほか

社会人類学、中東民族誌学、人類学的イスラーム研究、モロッコ、グローバル化と宗教・民族などの分野を主として研究しています。

柴田 佳子 教授 現代人類学特殊講義ほか

文化人類学、カリブ海地域研究、ディアスポラ、クレオール、人種・民族、グローバル化、教育などの分野を主として研究しています。

吉岡 政徳 教授 社会人類学特殊講義ほか

文化人類学、オセアニア研究、都市および都市文化、プリミティブ・アートの人類学的研究などの分野を主として研究しています。

所属学生からのメッセージ



土取 俊輝さん

(博士前期課程・研究者養成型プログラム)
北海道大学文学部卒。
研究テーマは「妖怪学」についての文化人類学的研究。

私の研究テーマは、「妖怪学とは何か?」というものです。日本の文化に詳しい人であれば、妖怪がなぜ研究対象になり得るのか、と思う人もいるかもしれません。現在、文化人類学や民俗学などを含む、総合的な研究として、妖怪学というものが提唱されています。しかし、この妖怪学において扱われる「妖怪」とは、定義が漠然としていて、かつ範囲がとても広いものです。また、妖怪学における「妖怪」は、日本だけでなく、海外にも存在するとされています。このようなことをふまえると、妖怪とはそもそも何であるのか、妖怪学とは何を研究する学問なのかという問題が見えてきます。これらのことを明らかにして、妖怪や妖怪学に近付くのが私の研究なのです。

本研究科には、私の研究テーマのような、一見異色に見えるものでも、指導して下さる先生方がおられます。各先生方の担当される授業では、幅広い知識を身につけることや、論文を批判的に読む能力を養うことができます。先生方のサポートの下で、私たち学生は、自分自身の研究を進めていくのです。



鈴木 亜望さん

(博士後期課程)
神戸大学国際文化学部卒業。研究テーマは「バングラデシュにおけるフェアトレードの文化人類学的研究」。

本コースでは文化人類学の理論から、論文の書き方、調査の方法など基本的な部分もきちんと学ぶことができるカリキュラムがあるので、しっかりとした論文を書くトレーニングができます。また、先生方も熱心に指導して下さり、自分が求めればどれだけでも成長できる環境が整っています。国際文化学研究科の特色のひとつは、国籍も年齢も様々で、自分とは異なる経験をしてきた人が入り混じって、同じ土俵で議論を交わすことができる点です。特殊な異文化体験のような気もしますが、それだけに自分を振り返る機会になりますし、また自分の思考や研究に良い刺激となります。なかでも、文化人類学コースのメンバーは個性的で、魅力あふれる人ばかりです。机に向かって本を読むことももちろん大切ですが、それだけでなくフィールドに出かけたり、人と議論を交わしたりして作り上げていくのが文化人類学の論文です。私はこの研究科に入って、論文を書くことだけでなく、知識や見解、人脈が今までとは違った方向に広がっていくおもしろさを感じています。

私たち博士後期課程の学生は、前期課程の学生とともに読書会や研究会（神戸人類学研究会）を開催し、互いに刺激を与えあい、またサポートしあって研究に励んでいます。また、私たちは、本コースが刊行する査読つき学術誌「神戸文化人類学研究」への論文投稿や編集も行っています。これを通して、お互いの研究の進捗状況をオープンにしてコメントやアドバイスを積極的に交換し、共に研鑽を積むことができる環境づくりに努めています。

修了学生からのメッセージ



古川 史さん

(博士前期課程修了)
活水女子大学文学部人間関係学科 卒業。
研究テーマは「淡路人形浄瑠璃」。
現在、私立大学 事務職員。

私の大学院での研究テーマは、「淡路人形浄瑠璃の伝承」です。地域社会における「伝統芸能」の継承について、人類学的フィールドワークを行いました。淡路人形浄瑠璃のプロや地元の住人に話を聞く。継承される技や知識を言葉で記録することに苦労しました。しかもゼミでの発表では、フィールドワークで観察してきたことを、今度は「私」自身が解釈したのか伝えなければなりません。研究テーマについてレジュメを作りゼミで発表すると、先生方やゼミの仲間たちから、90分間質問責めです。そもそも「なんでこのテーマなのか?」と問われ、「どうしてここでこの言葉を用いたのか?」「どういう意味で使っているのか?」、言葉ひとつひとつを指摘されました。

とてもスリリングな経験でしたが、自分は何をどう捉えているのか、そしてそれをいかに人に伝え、「なるほど」と思ってもらえ、客観的に物事をみて、考えを深める訓練でした。この事が、修了後職員として就職した私立大学でも活かしています。今は若い学生たちの「学ぶ」ことのサポートの仕事していますが、学生たちに「インタビュー」する、ガイダンスなどで「伝える」など、人類学のフィールドスキルは大学の業務でも有益です。そして大学院で学んだ人類学的な視点は自分や職場を別の目で見、アイデアを出すことに役立っています。



安 成浩さん

(2008年度博士後期課程修了)
博士論文のタイトル:「朝鮮族村落の「生成」と「解体」ーグローバル化の中の朝鮮族社会の動態」。
神戸大学学術推進研究員、国立民族学博物館外来研究員などを経て、2009年10月より浙江大学人文学院専任講師。浙江省中韓経済文化交流研究会事務局長(2012年)。

日本語会話も不十分な研究生の時代から、日本語による博士論文の提出まで、神戸大学で私は大切なことをたくさん学びました。先生方たちは右も左もわからなかった私を時には厳しく、時には温かく見守り、学術の道へ導いてくださいました。院生同士による交流や励まし、そして日本語チェックを含む学業、生活などへの配慮は留学生生活を続ける大きな力となりました。神戸大学は私を学問の道へ導いただけではなく、他人への配慮の大切さや精神的豊かさなどたくさんの方を教えてくださいました。教壇に立つ立場から留学生生活を振り返ってみると、大学院時代に身に付けた学問はもちろん、先生方の学生への配慮や学生同士の活発な交流の重要性を実感し、現場で生かしています。志願者の皆さん、国際文化学研究科の理想的な環境の中で人生に輝く一時期を過ごしてください。

Q&A

学部では文化人類学を専攻していませんが、大丈夫でしょうか。

必ずしも学部で文化人類学の専門コースにいる必要はありません。ただし、文化人類学についての基本的知識を身につけておくといえでしょう。最近では手頃な入門書、概説書がふえていますので、まずはそれらを参考にし、所属する大学の文化人類学関係の講義・演習を受講することをお勧めします。大切なことは、明確なテーマをもち、これを文化人類学の視点から考える姿勢です。

フィールドワークや調査実習などはありますか。

アカデミック・スキル科目にフィールドワークに関連する演習があります。また異文化

研究交流センターの調査研究プロジェクト(神戸長田のアジア系住民調査)や南あわじの実習などに参加し、フィールドワークやインタビューのスキルを習得する機会があります。

指導教員以外に研究上あるいは論文の指導を受けたり、論文テーマが変わって指導教員の変更をすることはできますか?

教員全員の共同指導体制をとっており、指導教員以外からも指導を受けることができます。また、研究テーマを変更する必要がある場合には、所定の手続きを経て指導教員をコース内で変更することも可能です。

文化相関・異文化コミュニケーション系

比較文明・比較文化論コース



本コースでは文明・文化が地理や言語などの様々な境界を越える諸相について、主に科学技術文明と言語文化を考察の対象として、その発信・受信行為がもたらす変容のダイナミズムを歴史的に比較研究します。とりわけ、グローバリゼーションが進展する中で明らかになっている、文明・文化における優位と劣位という非対称性を念頭に、一方的な受容とされる現象の背後に抵抗、偏見、創造などの側面があることに注目し、その交流や変容における双方向性について、最新の研究を題材に理解を深めることを目指しています。

進路実績 長崎市職員(学芸員)、三菱東京UFJ銀行、パナソニック電工、ニシキ商会、他。

在籍学生数 (前期課程) 1年0名 2年3名(キャリアアップ型2名)
(後期課程) 1年0名 2年1名 3年0名

論文テーマ例 明治期来日外国人、古典テキストとイメージ、神話からみる庭園、自然観、環境問題、有害化学物質、ホワイトヘッドのオーガニズムモデル、徐光啓の数学観

所属教員の紹介

北村 結花 准教授 伝統文化翻訳論特殊講義ほか

近代における日本古典文学の受容について『源氏物語』を中心に研究しています。古文をはじめ、さまざまな文献を丁寧に読むことを基本にしたいと思っています。

三浦 伸夫 教授 科学技術文明論特殊講義ほか

専門は科学史ですが、学生にはイスラーム、ユダヤ、両洋中世・ルネサンスなどにかかわる興味深いテーマを選んで研究するようにすすめています。

塚原 東吾 教授 科学技術社会論特殊講義ほか

科学史および科学技術社会論を研究しています。

山澤 孝至 准教授 古代越境文化論特殊講義ほか

古代ギリシア・ローマ文化論。ただし、考古学ではないので、遺跡を発掘してそれが大々的に報道されるといったことはありません。地味な文献学ですが、古代人の書き残したものから、まだまだ多くのことが読み取れると思っています。

遠田 勝 教授 日米文化交流論特殊講義ほか

明治時代の日米文化交流を中心とした、比較文学・比較文化の研究を専門にしています。ラフカディオ・ハーン、夏目漱石、井伏鱒二などについて論文を書いています。

所属学生からのメッセージ

山本 知世さん

(博士前期課程・キャリアアッププログラム)
高知大学人文学部卒業。
研究テーマは「西川如見の自然観についての研究：21世紀の環境問題に貢献するために」。

私は科学技術史の中に見る自然観の研究を行っています。具体的には江戸時代の町人思想家、地理・天文学者であり、科学的自然観を述べた最初の日本人であるとされている西川如見に焦点を当てています。

本コースの魅力は、比較的学生数が少ないため、先生方から手厚い指導を受けながら自分のペースで研究を進めることができる点です。その一方で、院生室のように他コースの院生と共同で利用し、交流する場も多々あります。そこではコースの枠を越えてお互いの研究や院生活について意見を交わすことができ、とても良い刺激になっています。

また、研究科内には様々な国籍を有する人々が集まっており、多様な価値観、文化に日常的に触れることもできます。加えて、国際会議、学会、院生国際交流会等、多彩なイベントに参加する機会もあります。そのような場に足を運ぶことで、研究内容に磨きがかかるのはもちろんのこと、語学力やコミュニケーション能力の向上なども期待できます。

修了学生からのメッセージ

北村 沙緒里さん

(2012年度博士前期課程修了)
広島市立大学国際学部卒業。神戸大学国際文化学研究所博士前期課程修了。
研究テーマは「小泉八雲を中心とした明治期の来日外国人の比較文学研究」。
現在、長崎市職員(学芸員)。

私が大学院への進学を志望したきっかけは、学部時代の研究テーマをもっとしっかりと勉強したいという単純な理由からでした。私は本コースで、明治期の来日外国人の著作に見られる「日本」像についての比較研究がテーマでした。修了研究レポートでは、小泉八雲の文学作品を扱い、テキストと挿絵の表象について論じました。私の場合、入試当初の研究計画の内容は博士前期課程の二年間で大きく変わりました。しかし、それも限られた研究期間の中で、恵まれた指導体制と充実した資料環境(図書館など)によって得られた結果だと思っています。本コースの特徴は、大きく科学技術文明と言語文化の二つの研究分野に分かれます。異なる分野の境界を越えて、学生生活の中で仲間と研究について語り合えるのは自身の研究への刺激になります。また、コースにとられない横断可能な履修システムによって、芸術、思想、文学など、あらゆる視点から自身の研究を深めていくことが可能です。入学時の研究計画を進めていくことも本分ですが、授業を通して得られる研究の新たな視点、見直し、深化は、自分次第でいくらでも研究に反映できると思います。充実した研究生生活を支える環境が整っています。

白井 智子さん

(博士後期課程)
研究テーマは「明治初期のお雇いフランス技師の功績と日仏交流」。

私はこれまでフランス語教育と日本語教育に携わる傍ら、兵庫とフランスとの交流史を色々な時代・人物に焦点を当てて調査・研究してきました。しかし、これらの研究は題材が多様で一貫性を欠いていたため、ご専門の先生方からご指導いただきながら、これまでの調査結果を練り直し、さらに研究を深めて博士論文として一つに纏め上げたいと考え、大学院に入学することを決めました。

本コースを選んだ理由は、私が探し求めていた文化交流や比較文化、科学技術史のご専門の先生方がいらしたことに加え、様々な国や時代における文明や文化、歴史に精通された先生方が結集して、多方面から研究指導に当たっておられるからでした。また、国際文化学研究所は、所属コースに関係なく、他コースの授業も履修可能なため、より一層学際的研究ができ、その上、本大学は複数のフランスの大学と協定を結んでおり、院生でも留学できる機会が得られるのも私にとって大きな魅力でした。現在その願いが叶い、日仏両国で諸先生方からきめ細かなご指導を頂戴し、様々な観点から多角的に研究を進めることができています。

この魅力溢れるコースに籍を置き、恵まれた環境の中であなたも研究生生活を送りませんか？

鞠 暁静さん

(2010年度博士前期課程修了)
神戸大学国際文化学研究所博士前期課程修了。
研究テーマは「食品と有害化学物質・中国三鹿ミルク汚染事件を題材に日本における化学物質過敏症を考える」。
現在、商社勤務。

本コースは幅広い分野の勉強ができ、卒業後の進路にも選択肢が多くなります。「科学技術文明」、「科学技術論」、「伝統文化翻訳」、「古代越境文化」、「日米文化交流」などさまざまな分野に触れることができます。自分からの考えを発表することが多いです。難しそうな印象を受けてしまいがちですが、実際、授業中は教授と学生とのやりとりが多く、学生が臆することなく教授と対等に渡り合うことができます。授業後は「遣り甲斐があった!」「楽しかった!」と言う感想が多いです。こういった授業が日常になって、学生の質問対応力やプレゼンテーション能力、さらに国際的にも通用するコミュニケーション能力を身につけられます。留学生も多く在籍しています、国際交流も日常になっています。こういった勉強や経験は現場での仕事に大変役に立ってます。

Q&A

複雑多様な社会を理解する上で、科学的な物事の見方を身につけることはとても有意義だと思うのですが、大学時代は文系の科目重視でした。本コースでの研究は可能でしょうか？

私たちのコースでは科学の文化的・社会的意義や科学の歴史、東西の科学思想の交流等も研究できますので、必ずしも高度な自然科学についての知識は要求していませんので大丈夫です。

これからの国際社会では世界各地の文明や文化の比較や相互影響についての知識は不可欠だと思うのですが、国内外の古典や複数の文化を研究していけるか不安です。

私たちのコースでは古典のみならず近現代文化の研究の方法論を提示できますし、研究テーマが定めればそれを掘り下げかつ広げる資料が潤沢にあり、それらを繙く時間も確保できますので、心配は無用です。

日本の文化は独自なもので、本質的には他文化からの影響はそれほど受けていないと思うのですが、その辺はどうなのでしょう。

まず日本語の文字表記法は中国から移入した漢字を使いますし、平かな・カタカナにしても漢字の行書体を簡略化した音標文字です。日本近代文学の小説や詩も明治以降ヨーロッパの文学ジャンルをそのまま移植したものです。また、憲法や立法、司法、行政といった政治機構についても同様です。ですから日本の文化の独自性についての本質的な理解にも他文化との比較認識は不可欠でしょう。

国際関係・比較政治論コース



本コースでは、国際社会の構造と変容、および各国が備えるソフトパワーの特質と関係について考察します。国際関係論と比較政治学がアプローチの中心となりますが、教員は複数の専門性を有し、国際機構論、国際政治経済学、比較政治経済学、安全保障論、公共政策論、都市行政学、福祉国家論、地域研究、文化交流論など多岐にわたっています。研究指導対象の地域として、欧米から中東、途上国までカバーしている点に特徴があります。

前期課程・後期課程のコース教員・院生全員が出席する論文指導演習を毎週行っています。教員も院生もあらゆる角度から徹底して検討を加えます。前期課程では「スーパーバイズド・リーディング」による政治学的主要専門領域（比較政治学、国際関係論、政治文化論、安全保障論、政策決定論）に関する基本書の集中的読み込み指導を行うなど、国際関係・比較政治論の基礎から応用力までしっかりと鍛え上げる方針をとっています。

所属教員の紹介

坂井 一成 教授 国際政治社会論特殊講義ほか

ヨーロッパ統合の進展と課題、民族問題と紛争予防、現代フランス政治・外交などの分野を主として研究しています。

阪野 智一 教授 比較政治社会論特殊講義ほか

ヨーロッパ統合と国内政治経済、福祉国家の再編過程、現代イギリス政治、政党政治研究などの分野を主として研究しています。

中村 覚 准教授 比較地域社会論特殊講義ほか

中東における予防外交の可能性、中東の民主化と多文化共生、イスラーム世界における国家と社会などの分野を主として研究しています。

就職実績 (前期課程) 関西経済連合会、大阪府、神戸大学職員、京都大学職員、日本写真印刷、IMJ、ニトリ、ニチダイフィルタ、双和化成
(後期課程) アジア経済研究所、広島大学大学院国際協力研究科、日本経済研究所、安全保障貿易情報センター

在籍学生数 (前期課程) 1年7名(内キャリアアップ型4名) 2年7名(内キャリアアップ型5名)
(後期課程) 1年1名 2年0名 3年3名

論文テーマ例 テーマ・アプローチ:地域統合論、紛争研究、予防外交、平和構築、安全保障、エスノポリティクス、政党政治、民主化、福祉国家論、教育政策、トランスナショナル関係、現代国際関係史
地域別:EU政治、フランス政治、イギリス政治、ドイツ政治、スペイン政治、イタリア政治、北欧政治、ユーゴスラヴィア政治、アメリカ政治、中東政治、インド政治、日中関係、米中関係

安岡 正晴 准教授 比較地域政治論特殊講義ほか

比較公共政策、現代アメリカ政治（特に連邦制と都市問題）などの分野を主として研究しています。

近藤 正基 准教授 多文化政治社会論特殊講義ほか

比較福祉国家、比較政治、現代ドイツ政治などの分野を主として研究しています。

所属学生からのメッセージ



藤原 佐弥香さん

(博士前期課程 2年・キャリアアッププログラム)
北海道大学経済学部卒業。
研究テーマは「福祉国家の変容と移民政策 スウェーデンを事例に」。

私はスウェーデンを事例に、福祉国家の変容と移民政策について研究しています。近年の産業構造の変化とグローバル化によって変容している福祉国家と、それに付随して欧州で深刻となっている移民問題への対応について、その政策のスウェーデンの特徴を追うのが私のテーマです。我がコース目玉の集団指導演習では、指導教員はもちろん、国際関係、中東和平、アメリカ政党政治…と様々な分野の専門家・学生からアドバイスを受けることができます。多角的な視点から研究を進められることは本コースならではであり、より高いレベルの研究ができます。



佐藤 良輔さん

(博士後期課程 1年)
京都産業大学外国語学部卒業、神戸大学国際文化学研究所博士前期課程修了。
研究テーマは「移民統合政策の欧州化とマルチレベル・ガバナンス」。

私は現在、欧州統合が進展する中で、EU・国家・地方自治体によって移民統合政策に関するガバナンスが行われているのかを研究しています。博士前期課程では、移民管理政策を事例として、欧州統合の進展の加盟国の国内構造に対する影響、つまり「欧州化」と呼ばれる研究を行いました。博士後期課程では、さらに「マルチレベル・ガバナンス」と呼ばれる理論を取り込み、移民統合政策に関する研究に取り組んでいます。本研究では、「欧州化」と「マルチレベル・ガバナンス」という欧州統合に関する2つの理論を分析枠組みとして用い、EU・国家・地方自治体などの移民統合政策に携わっている政治的アクターへの聞き取り調査などを実施する予定です。本コースの特徴として、コースに所属する教員と院生が全員参加する集団論文指導演習が挙げられます。この演習への参加が、研究を進めていくうえで中心となります。研究発表では、研究で用いている理論枠組み、事象の分析、研究計画について教員や院生からの指摘や評価を受け、それによってプレゼンテーションや質疑応答に関する能力を高めていきます。また、様々な質問を受けることによって、自分では思いもつかなかった発見をする機会もあります。今後、研究者をめざす後期課程の学生には、国内外への研究発信力、さまざまな研究資金の獲得、日本人や外国人研究者との交流などが重要になってくると思いますが、本コースではこれらを身に付けることが出来ます。また、個人用デスクの利用やコピーカードの支給などもあり、研究に集中するためのしっかりとした環境も整っていると思います。

修了学生からのメッセージ



阿田 弥生さん

(2010年度博士前期課程修了)
関西学院大学文学部卒業。神戸大学国際文化学研究所博士前期課程修了。
現在、関西経済連合会勤務。

学部生時代に言語政策の観点からEUに興味を持ち、EU研究のさかんな神戸大学を進学先として志望しました。その後、1年の休学を経て、EUが、各国の国境を越えた自治体間での協力関係にどのような支援を行っているのかという新たなテーマに取り組むことを決意しました。大きな方向転換の中、支えてくださったのが指導教員をはじめとするコースの先生方や所属する院生の方々。全員が出席する週に1回の集団論文指導演習では、それぞれの研究テーマの垣根を越えて、時に厳しく、さまざまなご意見をいただき、道を見失わず前進することができました。

コースの中でも感じた「多様性」ですが、まさに、この研究科自体の魅力がその点に凝縮されていると思います。コース外の講義を受講することで視野が広がりましたし、院生室と同じにする他コースの方々をはじめ、多彩な院生仲間とは勉強会などを通じて切磋琢磨し合うことができました。EUに関するより広い視座を得ようと履修したEUIJの各講義では、他研究科の先生方にも指導を仰ぐとともに、ゲストスピーカーによる講義に大いに刺激を受けました。

私にとって、院生時代に築いた人間関係は社会人となった今も宝です。多彩な「人」との出会いが、あなたの研究の幅をさらに広げてくれると思います。



石黒 大岳さん

(2011年度博士後期課程修了)
九州大学文学部卒業。九州大学人文科学部修士課程修了。神戸大学国際文化学研究所博士後期課程修了。
神戸大学・大阪国際大学非常勤講師、九州大学人文科学研究院助教を経て、現在、日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター研究員。

私は、クウェートでの留学をきっかけに中東湾岸諸国における民主化や議会政治の展開に関する研究を志し、学位取得のため、湾岸諸国を専門とする数少ない研究者の一人である中村覚先生に指導教員となって頂くべく神戸大学国際文化学研究所に入学しました。それ以前は歴史学を専攻していましたが、本研究科で政治学の方法論や論じ方を身に付けていきました。

学位論文を完成させる作業は指導教員との一対一でのやりとりが中心になりますが、毎週実施される集団指導演習で鍛えられた効用は大きかったと思います。集団演習での報告は、内容についての批評をもとに議論を深め、博士論文の完成に向けて着実に歩を進めるだけでなく、学会報告等に向けた実践的な訓練になりました。他の学生の報告からも得るものが多く、演習後の院生室で意見交換しながら学んだことは、分野を超えた耳学問の強みで、国際政治学の授業を担当した時や他分野の研究者との共同研究を進める際に随分と役立っています。

3年間で博士論文を完成させるのは相当ハードな作業ですが、そのための制度や指導体制は整えられているので、研究に打ち込み甲斐のあるコースだと思っています。

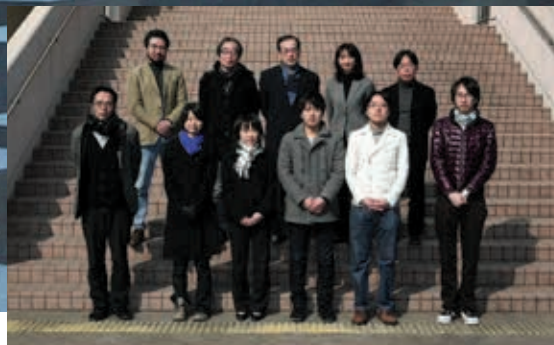
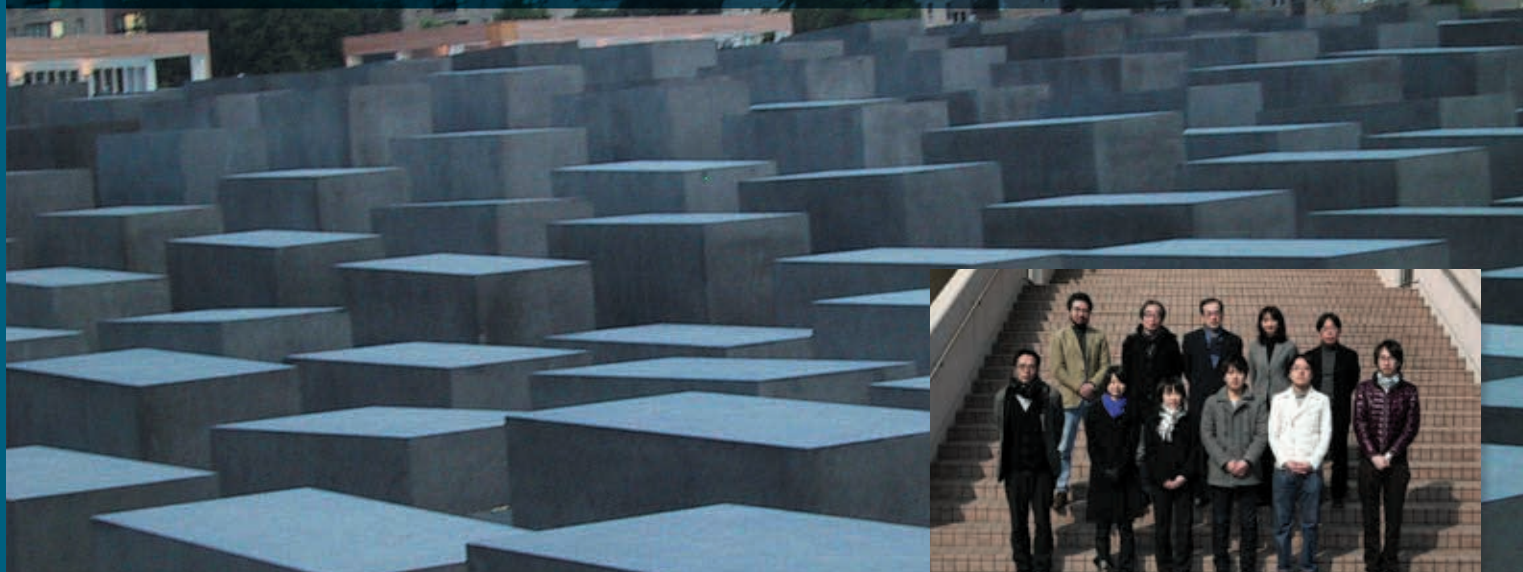
Q&A

学部では政治学や国際関係論を専攻していたわけではないのですが、大丈夫でしょうか。

必ずしも学部で専攻している必要はありませんが、研究をより実り豊かなものとするために、入学までに予め基本的知識を身につけておくのと良いでしょう。コース教員の

坂井教授、安岡准教授は各々のホームページで、事前にどのような勉強をしておくことが望ましいか、入学志望者向けガイダンスのページを設けて参考文献などを挙げて紹介していますので、まずはそれらを参考にしてみてください。

モダニティ論コース



国民国家という政治原理であれ市場という経済原理であれ、あるいは小説という文学形式であれ遠近法という絵画技法であれ、西欧近代に由来するこれらの社会的・文化的な装置は、現代世界の基本的な枠組みをかたちづくってきました。ところが現在、この西欧近代の原理（モダニティ）は、グローバル化の進展とともに根底から揺らいでいます。こうしたなかで求められているのは、あらためて「モダニティ」の意味を問いなおし、激動する世界のゆくえを的確に読み解くことだといえるでしょう。本コースでは、近現代の社会思想・経済思想・政治思想・文化言説・表象文化を丁寧に分析することをつうじて、アクチュアルな課題に応えうる足腰の強い思考力を養成することをめざしています。

所属教員の紹介

石田 圭子 講師 文化言説系譜論特殊講義ほか

美学・芸術思想史。近代以降の芸術と政治の関わり、芸術における他者とのコミュニケーションなどをテーマとしています。

論文：「形姿（ゲシュタルト）と〈芸術-政治共同体〉」「批評理論と社会理論 1: アイステージス」（御茶の水書房）など。

市田 良彦 教授 近代経済思想系譜論特殊講義ほか

社会思想史。アルチュセール、フーコー、ドゥルーズなどのフランス現代思想を中心に、今日における政治・経済・文化の哲学的分節を考察しています。

著書：『アルチュセール ある連結の哲学』（平凡社）など。

上野 成利 教授 近代政治思想系譜論特殊講義ほか

政治思想・社会思想史。ホルクハイマー、アドルノらフランクフルト学派にかんする思想史研究を基軸としながら、「暴力」「自由」「公共性」等の鍵概念の社会哲学的な分析に取り組んでいます。

著書：『思考のフロンティア 暴力』（岩波書店）など。

就職実績（前期課程） 共同通信社（記者）、イオン、がんこフードサービス、日本山村硝子、高知新聞社（記者）他
（後期課程） 大学や各種研究機関への就職が期待されます。

在籍学生数（前期課程） 1年2名（内キャリアアップ型0名） 2年6名（内キャリアアップ型2名）
（後期課程） 1年1名 2年2名 3年1名

論文テーマ例（前期課程） ミシェル・フーコー、権力、マルチチユード、出来事、ハンナ・アーレント、全体主義、ファシズム、政治的なもの、物象化、現代文化、宗教、生活世界、他
（後期課程） エルンスト・ユンガー、技術、ニクラス・ルーマン、社会システム論、ハーバート・スペンサー、日本社会の近代化、D・H・ロレンス、エコクリティシズム、他

鷹 茂 教授 近代社会思想系譜論特殊講義ほか

社会学説史・社会思想史。ジンメル、ウェーバー、テンニースなどの社会理論に関する思想史研究を基盤としながら、近代思想における社会、歴史、文化、生などの諸概念の錯綜の意味について分析しています。

著書：『ジンメルにおける人間の科学』（木鐸社）など。

松家 理恵 教授 表象文化系譜論特殊講義ほか

イギリス文学・文化史。とくに自然観の変化、および芸術家と社会との関係に関して、ロマン主義芸術・思想の現代的意味を探究しています。

著書：『キーツとアポロロジージョン・キーツの詩とギリシア・ローマ神話』（英宝社）など。

所属学生からのメッセージ

畠中 茉莉子さん

(博士後期課程 1年)
2012年神戸大学国際文化学研究所博士前期課程修了。
研究テーマは「N・ルーマン社会システム論再考」。

私の研究テーマは現代ドイツの社会学者ルーマンの特に理論に関わる議論に焦点を絞ったものになっています。理論というと抽象的で無味乾燥なものに聞こえますが、すべてのものの考え方の基礎にある重要な分野です。このコースではそのようなものの見方の基盤となっているものを、必ずしも理論研究だけではなく、社会や政治、芸術などさまざまな分野にわたって学ぶことができます。ものごとを深く考えるのが好きな人にはきっとびつたりははず。

私の時間割

モダニティ論演習

今年度はニクラス・ルーマンのシステム理論を主に扱いました。私の研究テーマに直結するものですが、直にこのテーマに関わりがなくても、社会理論一般が知りたいという人が講座やコースの枠を超えて積極的に参加していました。

近代政治思想系諸論特殊講義

今年度のテーマはホルクハイマー／アドルノの「啓蒙の弁証法」の読解でした。近代における理性の問題性を問う非常に難解な文章ですが、受講生皆がそれぞれの解釈を出し合うことで一人で読むよりも理解が深まったと思います。

文化資料読解法（思想）

モダニティ専門の科目というわけではなく、研究科共通の英語の科目ですが、今回のテーマは「自然」をめぐる考え方の歴史的变化だったということもあり、思想の文献を外国語で読むという貴重な機会をくれた授業の一つでした。

巴山 岳人さん

(博士後期課程 3年)
英国ランカスター大学修士課程修了。
研究テーマは「エコロジー思想から見るD・H・ロレンスの文学」。

私は20世紀初頭の英国人作家D.H.ロレンスの作品について、エコロジーまたは環境思想との関わりという視点から研究を行っています。様々な分野の視点を取り入れながら自身の研究テーマを追求できるというのが、このコースの強みだと思います。私の場合は、中心となる文学テキストの読解に加えて、環境思想と深いつながりのある哲学や社会思想についての知見も吸収する必要があり、それらについて授業などを通じて必要なアドバイスを受けながら学ぶことができることに、大きな魅力を感じています。

Q&A

研究テーマを絞り込むのではなく、広く「モダニティ」全般について学ぶことは可能でしょうか？

可能です。むしろ近現代の思想的諸問題について広く学べることが、モダニティ論コースの強みともいえます。とりわけ前期課程のキャリアアップ型プログラム履修生の場合には、社会思想・経済思想・政治思想から文化言説・表象文化にいたる科目群を広く履修しながら、幅広い分野について知見を深めることが望ましいでしょう。研究者養成型プログラム履修生の場合には、もちろん適切にテーマを絞り込まなければ修士論文を執筆することは不可能ですが、従来型の大学院では扱いにくい学際的な主題を正面から取り上げることができる点が本コースの最大の特長といえます。

フランス思想やドイツ思想を研究したいのですが、仏語や独語の知識はどれくらい必要でしょうか？

前期課程「研究者養成型」プログラム志望者でフランス思想やドイツ思想を研究対象とする人の場合には、仏語や独語の読解力をある程度そなえていることが望ましいといえます。独仏語で受験できればそれに越したことはありません。とはいえ入試そのものは英語で受験することが可能です。受験に臨んでまずは英語の読解力に磨きをかけ、前期課程のあいだに仏語や独語の読解力を鍛えてゆけばよいでしょう。むしろ英米思想の研究志望者の場合には、独仏語の代わりに英語のテキスト読解にいったん注力してください（なおキャリアアップ型プログラム履修生の場合には独仏語をかならずしも必要としないと考えてもらって差し支えありません）。

先端社会論コース



現代社会では、人間・自然・社会の相互関係が大きく揺らぎ、ますます複雑化してきています。「先端社会論」コースは、この現代社会の先端的な問題群を、人文・社会科学を交差する学際的アプローチによって、領域横断的に検証することを課題としています。例えば、男女の性差を社会的に構成されたものにとらえるジェンダー論の視点から、家族や個人や国家をめぐる考え方の変化を分析すること。人間の生死をめぐる規範の揺らぎを理解すること。人口過剰、医療資源の不平等などのグローバルな課題の公正な解決法を構想すること。メディア・テクノロジーの革新が促進する消費社会の情報化と多文化社会が要請する新たな社会観や人間観を模索すること。「先端社会論」コースは、こうした錯綜する諸問題を理論的に解きほぐし、それらに現実的に対処していくためのトレーニングの場です。

進路実績 (前期課程) ファーストリテイリング、富士通BSC、(株)三菱倉庫、(株)星野リゾートなど
(後期課程) 花園大学文学部創造表現学科准教授、京大グローバルCOE研究員など

在籍学生数 (前期課程) 1年5名(内キャリアアップ型1名) 2年5名(内キャリアアップ型4名)
(後期課程) 1年0名 2年1名 3年1名

論文テーマ例 (前期課程)
●日米印三国におけるインフォームド・コンセントの比較・検討
●The Politics of 'Koizumi Theatre': On the Reconstruction of Japanese Nation-State at the Neo-Liberal Moment
●再帰的近代における「個人化論」の射程—ウルリヒ・ベックの理論から
●日本の「フリーター」と中国の「飛特族」
●Representation of Romanians in Tony Gatlif's films
●ニュー・クィア・シネマが抱える消費と可視性のジレンマ
(後期課程)
●Occupation and Sexuality:GHQ's Policy-Making on Prostitution
●マソヒズムの機能分析とその可能性:女性の性的主体性の(再)構築に向けて
●道徳的個人主義の展開と「心」の変化
●「つくられる共同体」の社会学的考察

所属教員の紹介

青山 薫 准教授 ジェンダー社会文化論特殊講義ほか

社会学、ジェンダーとセクシュアリティ。グローバル化、多文化主義、社会的排除と包摂、親密権、表象の問題などにも関心。移住、ケア/性労働、同性婚、性同一性「障害」など、公私にわたる変化を引き起こす事象について、理論・方法論・実証研究を結びつけて追求しています。

小笠原 博毅 准教授 メディア社会文化論特殊講義ほか

社会学、カルチュラル・スタディーズ。とくにメディアとスポーツをフィールドとして多文化資本主義と人種差別的な文化との関係を、実証的、理論的、かつ思想的に検証し考察しています。

桜井 徹 教授 現代法規範論特殊講義ほか

法哲学。「グローバル・ジャスティス」、つまり、経済格差、貧困問題、人権侵害、環境汚染といったグローバルな諸課題を前に、国境という境界線がいかなる道徳的意味をもつのかというテーマを研究していますが、最近は特に、民主主義の安定にとってネーションの確立が不可欠の条件なのかという問題に取り組んでいます。

宗像 恵 教授 文化規範形成論特殊講義ほか

現代文化の規範に関わる問題のうち、現在は、ゆらぎとともに新たな規範の形成が見られるジェンダーをめぐる規範に、焦点を絞って考えています。近代思想の大きな流れの中で、現代のジェンダー規範をめぐる問題について検討しています。

山崎 康仕 教授 生命規範形成論特殊講義ほか

法と倫理・道徳との境界領域の問題を研究対象としています。とくに代理出産やヒト胚、脳死状態の取扱いをめぐる問題など生命倫理関係の問題において、倫理や道徳が法制度化されていく際に生じる諸問題を研究しています。

所属学生からのメッセージ

楊 方さん

(博士前期課程1年・研究者養成型プログラム)

中国浙江工商大学日本語文化学部卒業。

研究テーマは「代理出産の「資格」——日本と中国の現状を比較しながら」。

先端社会論コースでは、世界各地の学生がグローバルな社会問題を異なる視点から捉えて研究し、また指導経験豊富で優しい先生方に支えられています。留学生として、言語などの原因でうまく日本の環境に溶け込めるかどうか心配していましたが、院生の先輩方が暖かく迎えてください、勉強や生活面からも色々助けていただいています。私は授業中の議論や他の院生との交流の中に、自分の研究または現存する社会問題をより複眼的な視点から見るべきだということを学びました。先端社会論コースは知識を深め、また人間性を磨けるところだと思います。

横山 純さん

(博士後期課程2年)

神戸大学国際文化学研究所博士前期課程修了後、株式会社ユニクロに入社。株式会社ユニクロを退職し、神戸大学国際文化学研究所博士後期課程入学。

研究テーマは「1980年代のロンドンのサウンドシステム、海賊ラジオ文化」。

大学院進学は、今の時代、周りから「よくやるよなあ」と思われるような事かもしれませんが、ぼくもそう言われてきました。そう言われて、なぜ進学を選んだのかと振り返ると、それは「興味関心に忠実に、自分で進路を設定し、進める」事が出来るからだだと思います。この研究科には、多種多様なフィールドを専門にする、あなたと同じ様に、自分の興味関心に忠実に生きようとしている「わがままな」人たちがいます。ぼくにとって何よりも、この研究科に所属する大きな励みになっています。ここで、何があるかと数年間は、わがままに興味関心に忠実に、がむしゃらに生きる。というのも、こんな時代だからこそアリアだと思います。

Q&A

コース名の「先端社会論」っていう言葉はあまり聞いたことがなく、なじみがないのですが？

そうですね。「先端社会」ってどんな社会なの？と思われちゃうかもしれませんね。でも、「先端社会論」コースは、「先端社会を論じる」コースではなく、「先端的な社会問題を論じる」コース、っていう意味なんです。もう少し詳しくいうと、「現代社会の先端的な問題群に学際的に取りくむ」コースです。

ああ。そうだったんですか。だけど、「先端的な問題群」って、たとえばどんな問題ですか？

科学技術の進歩とか情報化、それにグローバル化とか、現代社会に特有な性格によって引き起こされている新しい問題群、っていったらいいかしらね。たとえば代理母問題とか、地球の温暖化みたいな環境問題とか。身近なところでは、男女の性差の意味合いがゆれ動いていることとか。

そういう問題だったら、ずっと気になっていたことにカប់ってくるかなあ。でも、さきほど「学際的に取りくむ」っていうお話でしたけれど、専門分野としてはどうなるんでしょうか？

専門分野っていう言い方をすると、今現在のコーススタッフは、社会学、カルチュラル・スタディーズ、ジェンダー論、法学、哲学、倫理学っていうことになるかしら。けれども、

「学際的に取りくむ」っていうことは、そうした従来の分野が単独では扱いきれない問題に取りくむ、っていうことですから、あまり専門分野は気にしなくてもいいんじゃないかしらね。

それにしても、学部時代の専門とはだいぶズレているんですが、だいじょうぶでしようか？

この研究科には、そういう人のためにキャリアアップ型プログラムがありますし、入試問題に合格点が取れるだけの基礎学力があれば、あとは入学後の熱意と努力だと思いますよ。

すみません。私も質問していいですか。私はドクターまで進学したいという希望を持っているのですが、先端社会論コースの研究者養成型プログラムの入試はかなり難関なんでしょうか？

ドクター進学を考えているのなら、前期課程の入試よりもむしろ後期課程の入試に注意してください。募集人数を見てもわかりますように、前期課程に入学しても後期課程に進学できるとは限りませんから。研究者養成型プログラムを選択するのでしたら、前期課程・後期課程の5年間で博士論文を完成させるつもりで、そのために必要な基礎学力をしっかり身につけておいてくださいね。

芸術文化論コース



芸術文化論コースは、芸術文化コンテンツ系と芸術文化環境系から構成され、造形美術（絵画）、文学、舞台芸術（音楽、オペラ、演劇）、ファッションなどの芸術（アート）作品と社会との関わりについて研究しています。

コンテンツ系では作品内容の分析を通してそこに反映される社会意識や世界観を考えます。環境系では、創作の自由やアートへ容易にアクセスできる権利の保障、文化施設運営の実際などについて、国際比較を踏まえて考察し、文化政策のグランドデザインや、その具体的実践としての芸術と社会をつなぐアートマネジメントに取り組んでいます。

本コースでは、学部時代の専門に関わらず、芸術とそれを支える環境に関心を持ち、専門的に学ぼうとする意欲にあふれた学生の受験を歓迎します。

所属教員の紹介

朝倉 三枝 准教授 現代芸術社会論特殊講義ほか

専門は西洋服飾史で、ファッションという切り口からフランスを中心とする近現代ヨーロッパの芸術文化について研究をしています。特に19世紀後半から20世紀初頭の芸術とファッションの関わりについて考察を進めています。身体論、日仏交流史、ブランド文化論等にも関心があります。

池上 裕子 准教授 現代芸術動態論特殊講義ほか

第二次世界大戦後の美術と国際美術シーンのグローバル化。専門はアメリカ美術ですが、戦後の国際政治における文化外交にも関心があり、日米交渉史や戦後日本美術の研究に取り組んでいます。綿密な作品研究から芸術を比較文化的・社会政治的に論じることを目指しています。

岩本 和子 教授 芸術文化共生論特殊講義ほか

研究テーマはフランス語圏文化、特に19世紀のフランス文学と、隣の多言語国家ベルギーにおける文化的アイデンティティの問題や文化政策です。また、マグレブ、クレオールなどのフランス語圏ポストコロニアル文化、マイノリティ文化にも関心があります。

進路実績（前期課程） 神戸大学連携創造本部助教、兵庫県立芸術文化センター職員、公益財団法人びわ湖ホール職員、神戸市民文化振興財団職員、神戸市灘区民センター指定管理者、関西フィルハーモニー管弦楽団、同志社大学職員、大阪大学職員、安芸市役所、NPO法人コミュニティアートセンターブラッツ、カフェ・カンパニー、他
（後期課程） 福井大学准教授、京都橘大学准教授、東北工業大学准教授、大阪府商工労働部主任研究員、サントリーホールディングス、神戸大学非常勤講師、大阪市立大学非常勤講師、関西学院大学非常勤講師、大手前大学非常勤講師、流通科学大学非常勤講師。

在籍学生数（前期課程） 1年4名（内キャリアアップ型4名） 2年8名（内キャリアアップ型7名）
（後期課程） 1年2名 2年2名 3年2名

論文テーマ例（前期課程） 地域コミュニティ、パブリックシアターの組織運営、民間非営利組織間のネットワーク形成、持続可能なコミュニティアート、ベルリンの「社会文化センター」、スウェーデンの文化政策と市民活動、パリ市の都市空間整備、ロシア帝政期の教会建築、ジャポニスム、林忠正、印象派画家カイユボット、フランスの女性作家、前衛書と抽象表現主義絵画、コルセットの表象、日本のストリートファッション、他
（後期課程） 文化政策と社会的包摂、日本の近代広告、ドーミエと近代都市パリ、戦前の日本における近代フランス音楽の受容、ジャポニスム期の日本陶磁器コレクションと日仏の交易、宮沢賢治と光学、他

楯岡 求美 准教授 芸術文化表象論特殊講義ほか

20世紀のユートピア思想の実験的空間であったロシア・ソ連を手がかりに、社会と芸術表現とのかかわりについて考えています。ロシア演劇史が専門ですが、生活をデザイン（創造）するものとして、また世界観を伝えるメディアとしての芸術表現にも関心があります。

藤野 一夫 教授 文化環境形成論特殊講義ほか

音楽文化論、文化政策、アートマネジメントについて、理論と実践の両輪で取り組んでいます。近年アートが創造都市や地域活性化の道具として注目されていますが、芸術文化の公共的価値性をもっと多様であることを明らかにしたいと考えています。

吉田 典子 教授 表象文化相關論特殊講義ほか

フランス近代の文学と美術が専門で、特にゴッロとマネや印象派の絵画を研究しています。一般に、文学作品や絵画・写真・ファッションなどの表象文化を、時代の歴史的・社会的な文脈の中で分析することが課題です。ジャポニスムなど比較文化や日仏交渉史、ジェンダー論にも関心があります。

所属学生からのメッセージ



馬 祐瑠さん

(博士前期課程 2年・研究者養成型プログラム)
蘇州大学広告学部卒業。
研究テーマは「フランス文化遺産の保護と活用に関する文化政策」。

私は大学で広告学を専攻し、文化系広告企画に夢を持ち始め、文化的視野を広げるために日本留学を決めました。芸術文化論コースで始めに、研究生として勉強し、芸術文化をめぐる幅広い領域の中で、私は必要性和将来性を考えて文化遺産政策を研究テーマに選びました。本コースでの勉強は、当テーマに関する専門研究以外に、文化政策・美学理論・美術・演劇・音楽・映画・メディア文化などの授業を通じ、芸術文化の様々な分野の知識を得ることで、私に大いなる影響を与えています。本コースに最も感じている所は、所属教員・学生との交流が充実していることです。授業やゼミナールが常に活発な討論の雰囲気にもまれ、学外の研究会・映画会・見学・懇親会などの活動もたくさん行われ、地方や海外での文化プロジェクトも多数実施されています。芸術文化の知識を得ることに、文化的視野を広げることに、とても素敵な研究の場だと思います。



寺田 卓矢さん

(博士後期課程 3年)
立命館大学政策科学部卒業、同政策科学研究科博士前期課程修了。
研究テーマは「日本近代音楽文化史」。

大正から昭和初期の音楽家たちが、様々な音楽活動(演奏、作曲、録音等)を通していかなる社会的役割を果たそうとしたのか、彼らの理想と現実を研究しています。いわゆる芸術音楽の世界が主な研究対象ですが、諸芸術は孤立して発達してきたのではなく、互いに密接に影響し合いながら歴史を築いてきたため、本コースに所属されている音楽以外の芸術分野がご専門の先生や院生の方々の議論から多くのヒントを頂きながら、狭い意味での音楽の世界に閉じ籠らず、広い視野を伴う「音楽文化史研究」を目指しています。また、本コースには積極的に大学の外に出て芸術文化活動を実践している方が多く、「過去」の研究をベースに「現在」と「未来」を考える機会が日常的にあります。こうした研究対象の多様性、そして理論と実践のバランスの良さが、本コースの魅力だと感じています。

修了学生からのメッセージ



福島 寿史さん

(2009年度博士前期課程修了)
神戸大学国際文化学部卒業。神戸大学国際文化学研究科博士前期課程修了。
研究テーマは「ショパンの受容史」。
現在、公益財団法人びわ湖ホール職員として、オペラを中心とするクラシック音楽普及事業の企画・制作に携わる。

大学院への進学を決めたのは、学部4回生の秋のことです。留学先のワルシャワから帰国し、進路に悩みながらシラバスのページをめくっているとき、「アートマネジメント」という名前が目にとまりました。当時の私は、この分野に批判的でした。学部生の頃に開かれていた同名の講義は、現場主義的な実践論に終始し、学問として魅力的なものとは思えませんでした。そのような私が、改めてこの領域に臨むきっかけとなったのは、ワルシャワでのピアニストとの出会いでした。彼らの状況は切実でした。いくら優れた技術を持っていても、機会がなければ聴いてもらえず、演奏家としても認められません。この問題を解決するには、現場をつくり出す方法が必要であり、そのためにはアートマネジメントの実践主義が有効なのではないかと考えた私は、敢えてこれに取り組むことにしました。大学院では、国内外の多くの現場を見ることができました。オーケストラの小学校へのアウトリーチ事業に制作スタッフとして同行したり、ドイツの大学でアートマネジメント教育の実際を観察したり。わけても神戸国際芸術祭の運営に携わることができたのは、得難い経験でした。こうした実践経験のすべてが、現在につながる仕事の糧となっています。



竹内 幸絵さん

(2010年度博士後期課程修了)
神戸大学国際文化学研究科博士後期課程修了。
現在、サントリーホールディングス勤務、2010年より大阪市立大学文学部非常勤講師、2011年より関西学院大学社会学部非常勤講師、2011年10月に博士論文に基づく著書「近代広告の誕生—ポスターがニューメディアだった頃」(青土社)を出版。

博士後期課程に合格した2007年春、私は、会社員(サントリー勤務)であり研究者でもあるという研究スタイルに、そして研究そのものの方向性にも不安を抱えていました。私の研究は日本の広告史です。ポスターなど広告の見た目の変遷からの社会史探求を目指してきました。これはデザイン史と社会学を行き来するような無謀な試みともいえます。しかし先生方は風変わりな研究スタイルにも研究ジャンルにも多様性を許容し包容してくださいました。大学院生として、てらい無く先生方に質問できた3年間は本当に貴重でした。この間の先生方の真摯で的確なご指導と熱い思いが、私のステージを引き上げてくださったことを確信しています。ご指導頂いた足りないところを全て補完する事は、まだまだ出来ていません。しかし縁あって修了翌年、博士論文を基とした出版が叶いました。出版社の理解もあり、出来上がった本は500余点の図版を満載した類例のないものとなりました。迷っていた入学時を思うと夢のようです。国際文化学研究科の学究の場に、感謝の気持ちで一杯です。



Q&A

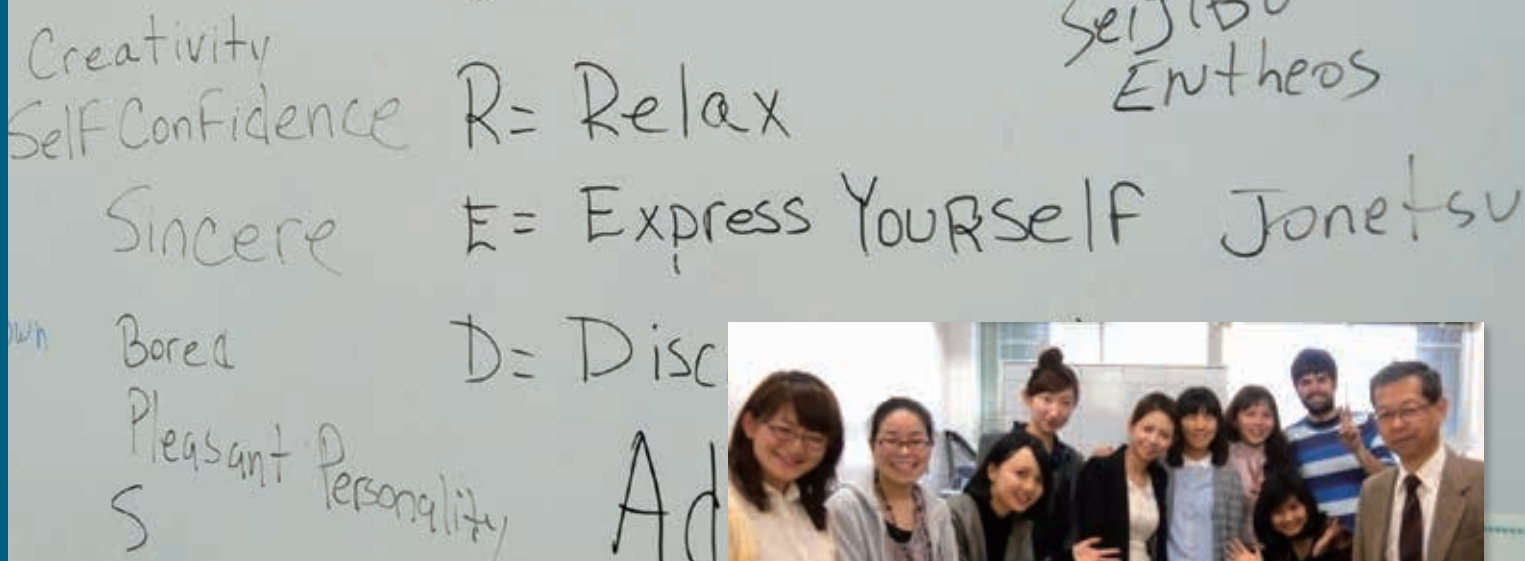
学部時代の専門は芸術がテーマではないのですが？

芸術文化の研究もまた歴史や現代社会のさまざまな事象につながるものですから、学部時代の勉強を生かしてテーマ設定をすることは可能です。また博士前期課程では、自分の関心あるテーマだけではなく、いろいろな作品にできるだけ幅広く触れてほしいと考えています。

語学力は必要でしょうか。

研究する際に必要になる考え方の多くが欧米の研究を基礎としていることもあり、英語を知っていることは研究の大きな助けになります。また、芸術文化は言語と密接な関係にありますので、すくなくとも入学後には研究対象と関係する語学を学習してほしいと思います。

言語コミュニケーションコース



「ことば」は概念やメッセージを相手に伝える単なるコミュニケーションの手段だけではなく、人間の認知・思考・習慣とも密接に関わる文化そのものともいえます。本コースでは言語構造や言語慣用に関する比較・対照分析を基に、外国人に対する有効な日本語教授法の探求、第二言語習得や翻訳・通訳における言語的文化的分析と方法論の開発、多種多様なレトリックの比較分析などを進め、グローバル化の進展の中で今や不可欠になりつつある異文化間コミュニケーション上の諸問題の解決に積極的に取り組んでいます。基礎から応用に至る、言語コミュニケーションに関わる様々な講義・演習を通して、実践的応用能力あるいは教育・研究能力を持つ人材の養成を目指しています。

進路実績 (前期課程) 東京都立高等学校(英語教員)、大阪府立高等学校(英語教員)、(株)資生堂、(株)シャープ、アップ教育企画、JR西日本関連会社、特許事務所他。
(後期課程) 天津外国語大学准教授、中国電子科技大学専任講師、関西学院大学特任講師他

在籍学生数 (前期課程) 1年7名(内キャリアアップ型2名) 2年4名(内キャリアアップ型2名)
(後期課程) 1年4名 2年0名 3年4名

論文テーマ例 (前期課程) バイリンガリズム、タイ語のモダリティ、日・仏語のフィラー、カタカナ表記語の社会言語学的研究、レトリック、説得、マンガのオノマトベ翻訳、日本語教育の社会的側面、他
(後期課程) 第二言語の形態統語の習得、複合動詞、日中同形漢語、フィクションのレトリック、物語論、ベトナムにおける日本文学翻訳、イデオロギーと翻訳、日本語教育の歴史、他

所属教員の紹介

川上 尚恵 講師 日本語教育応用論特殊講義ほか

日本語教育史、特に中国における日本語教育の史的展開に関する研究をしています。現在は1930年代から1960年代を中心に、歴史や社会制度などをふまえた上で、日本語教育の教材やカリキュラムなどの分析などを行っています。また、留学生センターでは留学生に対する日本語教育を担当しており、日本語教育の実践分野に関する研究も視野にいられています。

齊藤 美穂 准教授 日本語教育方法論特殊講義ほか

方言を含む現代日本語の文法を中心に研究をしています。また、外国人に対する日本語教育に携わってきたこともあり、日本語教育分野全般に関心を持っています。今後は、文法の研究を中心しつつ、その成果を活かした日本語教材の開発や教授法の研究にも力を入れていきたいと思っています。

田中 順子 教授 第二言語習得論特殊講義ほか

第二言語習得 (SLA) プロセスにおけるアウトプットとフィードバックの役割や、個人差 (言語学習適性など) が SLA に及ぼす影響について研究をしています。また、第一言語 (L1) には存在しない第二言語 (L2) 概念が、どのような過程で正しく (あるいは誤って) 区分されて L2 形態にマッピングされるのに関心があります。教室内での外国語学習のみならず、SLA やマルチリンガル環境下での言語習得とその問題点も扱います。

林 博司 教授 比較・対照言語論特殊講義ほか

日本語とロマンス諸語 (なかんずくフランス語とルーマニア語) の比較・対照を通じた言語の普遍性と個性の研究。分野は、格システム、モダリティ、意味の拡張 (例えば呼びかけ詞や程度副詞からモダリティへの拡張等) など。感情を表す表現にも興味があります。

藤濤 文子 教授 翻訳行為論特殊講義ほか

翻訳行為を異文化間コミュニケーションとして捉える機能主義的一般理論と、それを具体的な翻訳行為と翻訳事例 (主に日独英語間) にどう応用するかがテーマです。翻訳において文化の差異をどう乗り越えて伝えるか、また受容者・メディア・目的などの要因が翻訳行為にどのような影響を及ぼすかに興味があります。

湯浅 英男 教授 言語慣用類型論特殊講義ほか

日本語や英語、ドイツ語などの言語でどのような構文が好んで用いられているのか、それが母語話者のどのような事象の認知に基づくものなのか、またどのようなコミュニケーション上の機能を果たしているのに関心があります。そして類型論的視点から言語相互の関係性を追求することも目標にしています。

米本 弘一 教授 レトリカル・コミュニケーション論特殊講義ほか

ことばを使って自分の考えや気持ちを効果的に伝えるための表現技法 (レトリック) の研究。日常会話や新聞・雑誌・広告の文章など、ことばを使って表現されるものなら何でも扱いますが、特に小説などの文学作品に使われている表現技法に関心があります。

所属学生からのメッセージ



森田 美里さん

(博士前期課程2年・研究者養成型プログラム)
京都外国語大学外国語学部卒業。研究テーマは「フランス人日本語学習者のフィラーとその母語の影響」。

言語コミュニケーションコースは国際色豊かで、学生の国籍も研究する言語もさまざまです。さらに、私のように一度社会に出てから研究の必要性を感じ、大学院に進学した学生もいるので、年齢層やバックグラウンドも異なる学生が共に学んでいます。このように多種多様であるからこそ、ある言語現象が他言語ではどのように現れ、どのような共通点や相違点があるかなど、学生同士いつでも意見交換ができる環境がここにはあります。また、教授陣の研究分野も多様であるため、日々の学びを通して、物事を多角的に捉えるという力を身につけることができます。日仏対照研究をしている私の場合、言語学、日本語教育学、修辞学、翻訳などといった異なる観点から自身の研究テーマについて考えることで、新たに気づくこともあり、研究を深めていく上で大変いい刺激を受けています。



金 蘭さん

(博士後期課程3年)
神戸大学国際文化学研究所博士前期課程修了。研究テーマは「複合動詞の日中対照研究」。

私は中国からの留学生です。平成23年4月に神戸大学大学院国際文化学研究所博士前期課程から博士後期課程に進学しました。ダブルディグリープログラムで二年間留学していた日本の大学で受講した日本語教師養成講座を通して日本語教育に興味を持ち、学部卒業後は迷わず日本語教育の内容・方法の他に第二言語習得、比較・対照言語学などの様々な視点から学べる神戸大学大学院国際文化学研究所の言語コミュニケーションコースへの入学を決めました。前期課程では、研究のための知識や研究者としての基本スキルのほかにも、問題を見つけ解決する能力やコミュニケーション能力、諸言語を客観的に観察し、そこから導かれる異文化コミュニケーション能力など様々なことについて学びました。修士論文では、語彙的な側面と統語的な側面を持っている複合動詞「～出す」、「～切る」の習得状況について考察し、学習者の誤用やその原因について分析を行いました。博士後期課程では、領域を広げて複合動詞の日中対照研究をテーマとしています。日本語と中国語における複合動詞について比較・対照し、その共通点および相違点を明らかにした上で、その成果を日本語教育の現場に応用することを目指しています。博士号取得後は日本の大学で研究と教育に従事することを希望しています。

修了学生からのメッセージ



ジョルジュエスキ・ヤスミーナさん

(2011年度博士前期課程修了)
ベオグラード大学文学部卒業(セルビア)。神戸大学国際文化学研究所博士前期課程修了。研究テーマは「クオリア構造から見た日本語とセルビア語における若者言葉に現れる動物のイメージの比較」。
現在、(株)シャープ勤務。

幼い頃から知らない所、知らない言葉に興味を持ち、高校に入ってから日本語を専門に選び、大学進学後も日本語の勉強を続けました。言語は文化を反映し、文化は言語に影響を与えと考え、様々な角度から日本語と日本文化の関係を研究するために言語コミュニケーションコースを選びました。本コースでは、日本人学生と留学生は毎日「面白い日本語」や「おかしい日本語」などと言いなから日本語と外国語における異なる言語現象を研究しています。院生時代の思い出としては何と言っても研究室で過ごした時間です。他の院生と一緒に授業で習ったことを復習したり、共に悩んだり、お互いに助け合ったり、発表会の前にお互いに緊張したり、泣いたり、笑ったりしました。夜遅くまでの会話からたくさんの研究アイデアが生まれました。授業が終わっても、ディスカッションは終わりません。それが本コースの一番の魅力だと思っています。現在は日本の大手メーカーに勤務し、西ヨーロッパ車載市場を担当しています。会議中「なぜ日本人はこんなことをしている?」、「なぜヨーロッパの人はこれを理解してくれない?」などで悩んでいる時にはよく言語コミュニケーションコースで習ったことを思い出します。言語と文化。相手が言っていることから実際に思っていることを捉えるのは大きなチャレンジです。大学から少し離れた職場でも、毎日言語と文化の研究を続けていると言えます。



伊 永順さん

(2012年度博士後期課程修了)
四川大学日本語学部卒業。四川大学日本語研究所修士課程修了。神戸大学国際文化学研究所博士後期課程修了。研究テーマは「中国における谷崎文学の翻訳に関する研究」。
現在、電子科技大学日本語学専任講師。

中国で修士課程を終えて、2008年に研究生として来日しました。来日当初は専門知識の欠如や受験のことで不安が募っていましたが、指導教員をはじめ、コースの先生方に助けられて、自信を持って研究に打ち込むことができました。私の研究テーマは、中国における谷崎文学の翻訳に関するものでした。言語コミュニケーションコースは外国人留学生が多いのが特徴ですが、先生方がいつも親切に対応して、日本語表現までも丁寧に指導して下さるので、安心して研究を進めることができました。そして、博士後期課程のコースワーク型指導体制では指導教員による高度な専門知識の指導を中心に、様々な研究領域の先生からアドバイスをもらえるので、専門性をもちつつ、他領域の人にも読んでいただける博士論文が書けたと思います。院生室の国際色に富んだ雰囲気も私を癒してくれました。院生室での日ごろのコミュニケーションが研究のためのインスピレーションとなり、毎日が楽しい異文化体験でした。神戸大学に在籍していた4年半は一生の宝物、思い出になると確信しています。

Q&A

言語コミュニケーションコースの授業の特徴としてどのようなことが挙げられますか？

本コースの教員は、留学生に対する日本語教育や日本人に対する外国語教育について豊富な経験をもっています。したがって、教育経験に基づく疑問点・問題点が絶えず授業の中心にあり、問題解決を念頭においた授業を行なっています。

本コースではどのようにして修士論文や博士論文のテーマが決められているのでしょうか？

本コースでは、入学してきた学生の問題意識や関心・興味を第一に考えています。したがって院生は、指導教員と相談しながら自らテーマを決めることになります。

指導教員にしか論文指導をしてもらえないのでしょうか？

例えば前期課程では1年次後期から2年次後期にかけて、計3回程度コースの教員・院生の前で修士論文・修了研究レポートの中間発表をする機会を設けています。つまり、修士論文・修了研究レポートの作成をコース全体でサポートする体制をとっています。

感性コミュニケーションコース



人とひとの間のコミュニケーションにおいて要求されることの一つは、気持ちが通じあうことでしょう。しかし実際のコミュニケーション場面においては、たとえば「言葉は通じているのに気持ちが通じていない」と思える場合があります。この場合、「気持ちは通じていないか」「言葉（音声）は本当に通じているか」といった基本的な問題について検討する必要があります。感性コミュニケーションコースは、コミュニケーションの過程を音声生成など身体的なプロセス、心理学・脳科学など認知的なプロセスの水準から探求します。またネイティブの発音に近い発音を可能にする方策、対人関係を改善する技法といったプラクティカルな問題についても学生諸君と一緒に研究を行っています。

進路実績 (前期課程) ユニクロ(株)、アステラス製薬、イーオン、ATR Learning Technology

(後期課程) 神奈川県科学捜査研究所、大阪大学言語文化研究科、国立障害者リハビリテーションセンター研究所

在籍学生数 (前期課程) 1年4名(内キャリアアップ型0名) 2年3名(内キャリアアップ型0名)

(後期課程) 1年2名、2年 0名、3年1名

論文テーマ例 (前期課程) 注意、ワーキングメモリ、情動、視覚認知、表情、日本語音声コミュニケーション、外国語発音における母語干渉、エラーニング

(後期課程) 数表象、プライミング、視覚的注意、外国語音声習得のメカニズム、音声の産出と知覚

所属教員の紹介

定延 利之 教授 コミュニケーション文法論特殊講義ほか

これまでのコミュニケーション観・発話観・言語観の検討を通して、人間のコミュニケーション行動や文法を、内的な情報処理の観点と、社会的な対人行動の観点から統合的に考えることに興味を持っています。

林 良子 准教授 言語行動科学論特殊講義ほか

音声科学・心理言語学。日本語や諸外国語における音声の特徴や、外国語を学ぶときの発音の困難点などについて実験的手法を用いて研究しています。言語障害や言語発達、各国における音声コミュニケーションの教育方法の比較についても興味があります。

米谷 淳 教授 対人行動論特殊講義ほか

対人コミュニケーション・実験心理学。対人相互作用はジレンマとパラドックスの宝庫であり、誤解、誤情報、意思不通、不信・不審がキーワードです。こじれやすく、扱いにくく、かといって軽視できない対人コミュニケーションの世界を主に行動科学的アプローチにより探ってみませんか。対人技能訓練、表情と感情の文化比較の研究に取り組んでいます。

松本 絵理子 准教授 コミュニケーション認知論特殊講義ほか

認知心理学、神経心理学。人間がどのようにしてものを見たり、感じたり、記憶したりしているのかについて関心があり、それを心理行動実験や脳活動の計測によって明らかにしていきたいと考えています。近年では特に、人間のような対象に注意を向けるのか、不安や緊張などの個人特性が認知過程に及ぼす影響はどのようなものか等について取り組んでいます。

水口 志乃扶 教授 言語インターフェース論特殊講義ほか

意味論、プロソディ研究。意味論の研究では、特に「数の概念」の対照研究に興味があり、方法論としては形式意味論を用いて言語の普遍性をとらえようとしています。また、英語と日本語のプロソディの音声と認知をインターフェースの観点から研究をしています。

所属学生からのメッセージ



弓場 美佳子さん

(博士前期課程2年・研究者養成型プログラム)
研究テーマは「2者対面場面における両対話者の表情表出過程についての実験的検討」。

私の研究分野は社会心理学で、表情を中心とする非言語的な表出を対象としています。修士では学部からの研究を発展させたいと考えていたため、表情の分析を専門とされている先生がいらっしゃることに、ここでは表出行動について他分野からの知見も得られると感じたことから、感性コミュニケーションコースへの進学を決めました。人間の行動を研究対象とする上で、マルチな視点は欠かせません。本コースでは、言語学、音声学、認知心理学などの多様な分野を学ぶことができ、研究面で多角的な視点からご指導頂くことができます。また研究分野ながら、学生の国籍や年齢もさまざま、生活面でも視野を広げることができる点も、本コースの魅力だと感じています。

アタナス・キルヤコブスキ (Atanas Kirjakovski) さん
(博士後期課程3年)

Hello. I come from Macedonia, a country with the Sun on its flag just like Japan. I've spent almost five years in Kobe University, first as a research fellow and later as a master student. Currently, I'm a doctoral student at the Graduate School of Intercultural Studies, in the course of human communication. By using psychological experimental methods, I'm doing my research on how people perceive and understand numbers and quantity.

I decided to study at Kobe University because of its international reputation and welcoming environment. The beautiful shapes that surround my lab inspire me to study, design experiments, and learn. Also, inspiration comes from my trusty Japanese and international friends with whom I spent countless hours at the lab, at the nomikais, and the university's cafeteria. During that time, we speak of science and myths and I always find it amusing to compare different opinions from various cultural backgrounds. In this regard, Kobe University looks like a sweet little village in which many nationalities live and work together, understand each other and find more similarities than differences between them. If I had to choose again, I would definitely choose Kobe University.

修了学生からのメッセージ



山崎 明音さん

(2010年度博士前期課程修了)
神戸女学院大学人間科学部卒業。神戸大学国際文化学研究所博士前期課程修了。研究テーマは「新奇視覚刺激に対する瞬目反応」。現在、アステラス製薬株式会社営業本部に勤務。

私は大学院で「まばたきの研究」をしていました。非言語コミュニケーションのひとつであるまばたきが、視覚刺激の新奇性や既知性を反映しうるかというものです。現在は製薬会社で営業の仕事をしていますが、大学院で学んだことは仕事でも大いに活かされています。一日に多くの人とやり取りをするため「コミュニケーション」というテーマについてあらゆる角度から考える機会と方法を学べたことは、社会人として問題解決をするための基礎となっています。また、専門性の高い先生方から指導を賜ったことで、勉強ではなく「研究をする」という視点で物事への興味や疑問を深める面白さを知ることができました。私のように一般企業への就職を希望する人にとって、キャリアアップ型コースはとても有用です。あっという間の2年間ですが、多くの魅力的な先生方、学生のみなさんと出会えました。ちなみに、まばたき研究会には今でも時々参加しています。



嘉幡 貴至さん

(2011年度博士後期課程修了)
神戸大学国際文化学部卒業。神戸大学国際文化学研究所博士前期課程修了、神戸大学国際文化学研究所博士後期課程修了。研究テーマは視覚的注意。現在、神奈川県科学捜査研究所に勤務。

私は大学院で、注意や記憶など、人間の認知機能についての研究をしていました。学位取得後はポスドク研究員を経て、現在は神奈川県警察の科学捜査研究所というところで、犯罪捜査のための心理学的な鑑定や研究に携わっています。私が在籍していた頃の感性コミュニケーション論コースの院生室には、世代、国籍、専門分野などの異なる多彩なメンバーが揃っていました。「文系博士課程の研究生活」というと孤独で閉鎖的なイメージを想像する方もいらっしゃると思いますが、私の場合、様々なバックグラウンドを持つ人たちが周囲にいてくれたお陰で、楽しい思い出の多い研究生生活が送れました。後期課程の研究は「広げる」だけでなく「深める」ことが重要ですが、感性コミュニケーション論コースは、専門性の高い先生方の指導を仰ぎながら、異なる分野の研究者とも日常的に交流できる環境にあるので、この環境をうまく活用すれば、適度な奥行きと幅をもったバランスの良い研究ができることと思います。

Q&A

感性コミュニケーションというのは、スタッフを見ると、心理学や脳科学と、言語学、コミュニケーション論などを全部勉強していないと、ダメなのでしょうか。
そんなことはありません。とりあえず、どれか、で結構です。

言語について研究したいと思っているのですが、このコースと言語コミュニケーションコースはどう違うのですか？

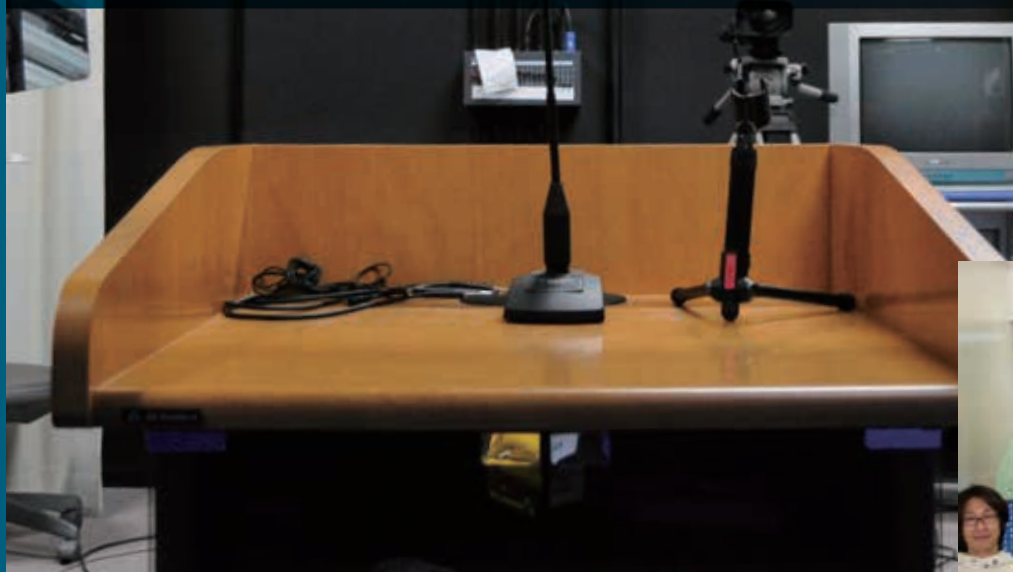
感性コミュニケーションでの言語研究は、自然に発話されたデータや、様々な機器を使って実験的に計測を行ったデータを主に扱います。またバラ言語と言われるいわゆる伝統的な言語学ではあまり扱われてこなかった分野（例えばため息、沈黙、声の

音色など）や視覚情報（目線、表情、口の形、ジェスチャーなど）も含めて研究したいという方、実験して色々測ってみよう！という方には当コースをお勧めします。

脳の研究をやりたいのですが、どんなことが可能ですか？

感性コースでは、脳波計、光トポグラフィーを使って脳機能計測実験を行うことができます。もちろん、精密に計画して組んだ心理学実験によって、認知情報処理が脳内でどのように行われているかを検討することも可能です。チャレンジをお待ちしています！

情報コミュニケーションコース



情報コミュニケーションコースは、コンピュータやインターネットに代表される、情報通信技術を用いたコミュニケーションについての教育・研究を行うコースです。当コースでは、インターネットにおける最新の情報発信技術、コンピュータを用いたコミュニケーション情報の収集・分析・整理方法といった、すぐに活用できる高度な情報処理技能の習得や、将来におけるより効果的なコミュニケーションの実現を目的とした情報通信技術の研究・開発を行なっています。

就職実績 (前期課程) 日本電気株式会社、西日本電信電話株式会社、滋賀県立成人病センター職員、コベルコシステム株式会社、スミセイ情報システム株式会社、富士通FIP、東京農工大学職員、神戸情報大学院大学准教授、富士通ビー・エス・シー、神戸情報大学院大学職員、グッドスカイ(株)、中国電信北京支社、中国広発銀行、野村総研
(後期課程) 神戸情報大学院大学助手、神戸女子大学助教、大阪産業大学講師、北九州市立大学准教授、大妻女子大学短期大学部講師

在籍学生数 (前期課程) 1年6名(内キャリアアップ型0名) 2年4名(内キャリアアップ型0名)
(後期課程) 1年0名 2年2名 3年3名

論文テーマ例 情報科目学習形態分析、文書の自動分類、XML検索法、IT技術者向け学習システム、外国語学習システムにおける誤りレベル判定機能、記憶の仕組みを活用した学習システム、質問支援システム、コミュニケーション指向の都市評価、逆引オノマトベ辞典、ユーザインタフェース、コミュニケーション支援

所属教員の紹介

大月 一弘 教授 コンピューター・コミュニケーション・システム論特殊講義ほか

情報通信システムに関する研究をしています。阪神・淡路大震災において情報を持ち使う側の視点と情報伝達システムを構築する側の視点との間に、ある種のギャップがあることを痛感し、「使う側の人の目・現場の目」を重視するようになりました。

康 敏 教授 コンピューター・シミュレーション論特殊講義ほか

情報通信技術の情報教育及び外国語教育への応用に関してコミュニケーションの視点から研究・開発を行っています。特に統計的アプローチを用いてユーザのニーズにあった情報を提供することとユーザの特徴を抽出することに焦点を当てています。

清光 英成 准教授 情報ベース論特殊講義ほか

データベースシステムやWeb情報システムを用いてデータを高次利用することを目的としています。アクセス履歴などの利用者プロフィールや場所・時間などの状況を参考に「いつもの」という入力に利用者個別の答えを出力することをテーマにしています。

西田 健志 講師 計算科学応用論特殊講義ほか

情報システムの操作性を向上するユーザインタフェースの研究、人どうしのやり取りを円滑にするコミュニケーションシステムの研究をしています。特に、意見がまとまらない、批判的な意見が言い出せない、外国語が流暢でないなど、コミュニケーションがうまくいかない状況を情報と心理の両面から見つめ直すこと、開発したシステムを実際に運用して知見を得ることを重視しています。

村尾 元 教授 認知情報システム論特殊講義ほか

生物に倣った「柔らかい情報処理」の技術とマルチエージェントシステムの手法を用いて、人間をはじめとする生物の集団に現れる知的な振る舞いの分析と応用について研究をしています。対象となるのは、人間などの個体が構成する小さな集団から、社会、経済、インターネットまで様々です。

森下 淳也 教授 メディア統合論特殊講義ほか

研究対象は情報を蓄え、活用するためのデータベースシステムです。しかし、「堅牢な、正しい、シンプル、完全な」といったデータベースの持つ大きな特性に逆らい、「曖昧、複雑、柔らかい、不完全(成長する余地がある)」といったデータを扱う「やわらかな」データベースシステムを模索しています。

所属学生からのメッセージ



桑野 徹也さん

(博士前期課程2年・研究者養成型プログラム)
神戸大学国際文化学部卒業。

現在は、グループワークにおけるコミュニケーションの観察・分析から得られる定量的な情報を用いて、グループにおける“人間関係”を考察し、グループ編成に役立つ提案ができるか、という研究を行っています。

学部生の頃に、ネット上での人間関係や、情報推薦といったことに興味を持つようになり、数理的な観点から社会に関する研究がしたいと考え、大学院に進学し、現在の研究に至ります。コースに所属する学生や先生方の研究分野は、様々です。私の研究もそうですが、分野としては非常に学際的なことが多く、ただ単純に工学や社会学の知識を持ち合わせていればよいというものではないです。アイデアや目的を大切にし、そこから必要なプロセスとして、様々な分野の知識を学ぶ、というスタイルの人が多くと思います。ゼミでは自由な気風が大切にされ、ブレストミーティングで様々なアイデアが創発されます。情報技術が、社会の問題を解決するという目的を持つようになると、楽しさは無限大です。



マルチュケ モリツさん

(博士後期課程3年)
立命館大学情報理工学研究所修士課程修了。

ドイツのミュンヘン工科大学で電気工学を、ミュンヘン単科大学とアウグスブルグ単科大学で電気情報工学を学び、立命館大学情報理工学研究所人間情報科学コースで修士課程修了。今の研究内容は教育と科学の共同進化が存在するか、科学論文で重要な内容がどう伝播するか、そして大学のシラバスにどう影響を与えるかです。

様々な大学での研究と会社でのインターンシップの経験をし、今行っている教育学に興味を持ちました。もともと電気工学の自動化が専門で、HOESCH社とSONYで経験をえました。日本に来てから、オムロンで初めて情報処理とヘルスマネジメントの調査を経験しました。今まで学んできたことを情報コミュニケーションコースで組み合わせ、研究を行っています。私から見ると情報コミュニケーションコースの特徴と言えば、科学的な考え方だけで問題を解決するのではなく、社会に関する研究ができることです。自分にはそれがとても大事なことで、研究を教育学へ方向転換しました。

最近、教育を変えていかないと、進化している社会に追いつけなくなることがだんだん明らかになってきています。日常生活で増えてきているパソコン、スマートフォン、タブレット型PC等が1つの証拠だと思われる。ICTと教育学を組み合わせるのが私の目的です。先生方とディスカッション、そして言語コミュニケーション、感性コミュニケーションの先生方と情報交換しながら研究を進めています。

また、私は日本との長い繋がりがあり、今までの経験を考え、文化的な分析も可能です。そういう環境で研究を行えることがとても幸せです。

修了学生からのメッセージ



張 淵鑫さん

(2011年度博士前期課程修了)
中国南京農業大学日本語系卒業。神戸大学国際文化学研究所博士前期課程修了。
現在、博瀬電機貿易(上海)有限公司銷售工程師。

私は、コンピュータ技術に興味を持って、国際文化学研究所の情報コミュニケーションコースに入りました。親切な先生と先輩達の支援で、私は博士前期課程を修了しました。院生時代の思い出としては、何と言っても私は文系学生として、理工系の知識を勉強したことでした。文系の視線から、理工系の知識を利用して、研究を進めました。情報コミュニケーションコースの特徴は、理工系学生でも文系学生でも、ここで研究できることです。そして、留学生達の交流も多く、世界的なアイデアをもらえます。自分の研究にも、将来の仕事にも、役に立つ課程だと思います。



孫 一さん

(2011年度博士後期課程修了)
中国成都大学計算機系卒業。奈良教育大学教育学部卒業。神戸大学国際文化学研究所博士前期・後期課程修了。研究テーマは情報教育のシステム設計。
現在、神戸情報大学院大学情報技術研究所助手。

私は2つの大学を経験していました。中国の大学でIT技術を勉強し、日本に来て教育学を勉強しました。情報技術を分かりやすく教える方法を自分の研究テーマとして、大学院を探している時、この情報コミュニケーションコースを知り、私にとっては最適な場所と思い、入学しました。情報コミュニケーションコースでは、常に最新の情報技術を人のために最大限活用出来る方法、アイデアを考えています。情報技術を専門とする大学院生といえば、パソコンに詳しいオタクとよく勘違いされますが、決して、毎日パソコンの前に座って、プログラムを書くものではありません。法学部、外国語学部など様々な知識背景を持つ院生がここに集まっています。よく発想し、それを実現するための情報技術を身につけて、発想を現実近づけることが、我々が日々行っている研究ともいえます。もちろん、博士課程の研究は高い壁だと思いますが、先生方がみんな親切に教えてくださいまして、議論にも乗ってくださいますので、最高の研究環境で安心して夢を追いかけることができると思います。

Q&A

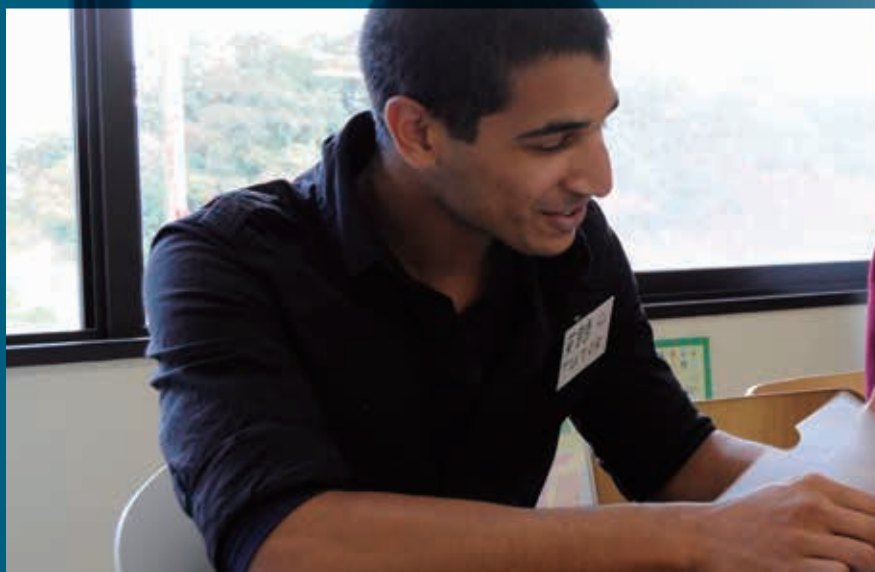
大学では情報や通信の専門的な勉強はしてきていないのですが、大丈夫でしょうか？

当コースを選ぶにあたっては、必ずしも、理工系の情報通信を専門とする必要はありません。高度な情報通信技術を学び、それらを自分の専門分野に生かそうという意欲をもった院生を歓迎します。

数学が苦手なのですが、ついていけるでしょうか？

当コースでは、最先端技術をより高めていくような技術革新といった研究ではなく、既存の技術がどのように使われるのか、また、より良い使い方はないのかといった応用面での研究を行なっています。仕組みを理解しその仕組みを工夫する事でどのような新しい活用ができるかを模索するには、より広い意味での理解力は求められますが、高度な数学を駆使することはほとんどありません。

外国語教育システム論コース



外国語教育システム論では、外国語教育の基礎を担う言語学、心理学、言語表象作品分析など様々な領域の学際的知見を援用して研究を行い、それらを有機的・総合的に連関させることで、外国語教育のシステムの研究・実践にあたることのできる有為の人材養成を行います。本教育研究分野では、特に、

- (I) 言語学、心理学など関連諸分野の知見に基づく学際的な言語教育研究
 - (II) 幅広い言語文化・表象作品の言語教授法への応用と方法論研究
 - (III) IT教育システムなど言語教育環境整備に関わる実践的研究
 - (IV) 言語教育を取り巻く文化的・社会的環境基盤要因に関わる研究
 - (V) 教育現場における教育指導実習等の活動支援
- の5点を重視して研究指導を行います。

所属教員の紹介

加藤 雅之 教授 言語教育環境論特殊講義ほか

英語教育。WEBやコンピュータを使った効果的な授業展開の方法、および社会文化的な文脈における外国語教授、Word Englishes の状況を研究しています。

島津 厚久 教授 言語文化表象論特殊講義ほか

アメリカ現代文学。中でもユタヤ系アメリカ文学で、特に小説家バーナード・マラマッドの長・短編小説を「表現」の観点から読み解こうと試んでいます。

廣田 大地 講師 言語文化環境論特殊講義Ⅰほか

フランス文学。ボードレールを中心とした近代フランス詩を研究対象とし、その詩学を言語学的観点から記述することを目標としています。他にもWEBやコンピュータを用いた文学研究・語学教育に関心があります。

ガーボル・ビンテル 准教授 言語科学論特殊講義ほか

音韻論、音声学、理論言語学、情報処理、音声教育。研究の目標は理論的なモデルによって、音声体系の構造と音声聴覚の特徴を記述、説明することです。

福岡 麻子 講師 言語文化環境論特殊講義Ⅱほか

作家エルフリーデ・イエリネクを中心に、オーストリア現代文学・演劇を主な研究領域とし、文学における災厄の記憶と想起、視覚芸術と書字芸術とのかわり、テキストの身体性を主題としています。言語芸術が社会に対して持ちうる（動的な）関係、(外国語)文学を研究することの意義や必然性について、長い目で考えてみたいという方を歓迎します。

横川 博一 教授 言語教育科学論特殊講義ほか

英語教育学・心理言語学。第一言語および第二言語のリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングおよび語彙の認知処理メカニズムとその授業実践への応用可能性を探ることが主な研究テーマです。

進路実績 (前期課程) 大阪府立高等学校、神奈川県立高等学校、他
(後期課程) 近畿大学、神戸学院大学、神戸市工業高等専門学校、神戸大学(非)、他

在籍学生数 (前期課程) 1年3名(内キャリアアップ型1名)、2年6名(内キャリアアップ型2名)
(後期課程) 1年1名 2年1名 3年2名

論文テーマ例 (前期課程) 日本人英語学習者の文理解プロセスにおける形態統語情報の利用:視線計測による検討、視線計測を利用したL2文産出における文法符号化プロセス、他
(後期課程) 日本人英語学習者の心内辞書における形態素表象のモデル、他

所属学生からのメッセージ



濱田 真由さん

(博士前期課程2年・研究者養成型プログラム)
研究テーマは「第二言語産出における熟達化/自動化」。

私が大学院を志望したのは、英語でのライティングはどのようにすれば改善できるのか、知りたいと思ったからです。昔から英語の学習は好きでしたが、書くことは苦手で、英語の語彙を知っていても使えない、どのように文章を展開したら良いのかわからないといった状況でした。ですが私自身英語圏への留学を経験し、帰国後英語でのライティングが改善されていると感じました。どのようにしてライティング能力が改善したのか、という疑問を明らかにするため、現在は海外生活で行われるスピーキングとリスニングがいかにライティングに影響を及ぼしているかについて研究をしています。「研究指導演習」では、指導教員の先生や同じゼミの院生の方々からご助言を頂き、研究に関する疑問点を解消し、研究内容を高めていくことが出来ます。また、様々な分野の授業を受講することにより、外国語教育について多面的に学び、知識として自分の研究に生かすことも出来ます。熱心な先生方からの丁寧なご指導のもと、幅広いテーマの研究を行う院生や留学生に囲まれ、あなたと一緒に研究してみませんか？



鳴海 智之さん

(博士後期課程3年)
神戸市外国語大学外国語学部・英米学科卒業。神戸大学国際文化学研究所博士前期課程修了。
研究テーマは「日本人英語学習者の初期統語解析における自動化プロセスの解明：心理言語学・神経脳科学に基づく検討」。

日本人の英語の理解・習得に興味を持っていた私は、大学で学んだ英語学等の知見を日本の英語教育の改善により効果的に活かすことはできないかと考え、外国語教育を学際的な視点から研究することのできる本コースへの進学を決意しました。私は現在、日本人が英文を読む際に、どのように英語の構造(文型)を頭の中で処理して内容を理解しているのか、また、学習が進むにつれて、その処理プロセスがどのような段階を経て自動的に行われるようになるのか、心理言語学的行動実験・神経科学的脳科学実験を通して研究を行っています。

本コースには様々な研究テーマを持った学生が集まっているため、教員や学生との議論や、学生の研究発表等を通して、非常に多角的な面から、外国語教育の抱える問題点やその改善策等について学び考えることのできる、素晴らしい研究環境にあると思います。また、研究テーマは多岐に渡っていますが、学生全員が共通して持っているのは、研究を通して自分の国の外国語教育をより良い方向へ改善していきたいという「志」だと思います。外国語教育を変えたい、少しでも良くしたいと本気で考えているあなたの入学をお待ちしています。

修了学生からのメッセージ



山本 貴恵さん

(2011年度博士前期課程修了)
現在は大阪府立高校教諭

学部生時代に日本人英語学習者の英文の音読と理解に興味を持った私は、大学院でより研究を深めたいと思い、大学院への進学を決意しました。自らも英語学習者として、英語能力を高めるためにはどのような学習方法が効果的なのか関心がありました。また将来英語教諭を志していたため、どのような指導方法が日本人学習者に必要なかわりかかったのです。二年間の大学院生生活は私にとって、学生生活の中で最も内容の濃いものでした。自身の研究に関する様々な分野の論文を何本も読み、多角的な論点から研究テーマを考えました。また、定期的に研究結果をまとめて発表する場もあり、研究を進める後押しになりました。発表の場に加え、研究室の先生と定期的なミーティングを持ち、研究の内容や方向性について綿密に打ち合わせをしました。それだけではなく、研究室間の風通しも良いため、コースの先生方や同じ大学院生、そして留学生からもアドバイスや意見をもらう機会を多く持つことができました。このように大学院では自分の研究を深めることができるのももちろんですが、どのように資料をまとめて発表するべきか、どのように論文を執筆するべきかを一から学ぶことができました。いずれも学部生の頃の知識や能力では不十分でしたが、研究者として社会人として鍛えてもらえたと感じています。今では大学院での経験を活かして高等学校で教諭として働いています。外国語教育は大変大きなテーマです。大学院では、このテーマを様々な視点から深めていくことができました。大学院で学んだことは、外国語教育をうける高校生と接する日々を活かされていると感じています。



森下 美和さん

(2011年度博士後期課程修了)
立教大学文学部卒業。神戸大学総合人間科学研究科博士前期課程修了。神戸大学国際文化学研究所博士後期課程修了。
研究テーマは「日本人英語学習者の言語産出における統語処理」。
現在、神戸学院大学経営学部准教授。

大学を卒業後、企業勤務を経て、主にフリーランスの通訳・翻訳者として働いていました。同業者から、企業内研修や大学のエクステンションコースでの講師の仕事を紹介されたことが、教員になったきっかけです。さまざまな授業を担当するうちに、英語とその教え方について、きちんと学ぶ必要性を感じるようになりました。

また、受講生の中には大学院生もいましたが、英語論文の書き方を聞かれてもうまく答えられなかったことから、実際に自分で論文を執筆し、学位を取得することを考えるようになりました。

博士前期課程および後期課程に在籍していた5年間は、毎日が刺激的で発見に満ちていました。新しいことを知ることによって謙虚さを学ぶと同時に、さまざまな経験を積み重ねることによって自信を持てるようになったと思います。

現在は、大学の経営学部で英語を教えています。ビジネスの経験と大学院での研究のどちらも活かすことができ、人生に無駄なことは何ひとつないのだということを実感する日々です。博士論文を書き終えてからも引き続き、心理言語学実験を通して日本人英語学習者の言語産出メカニズムについて研究しています。研究から得られた知見を授業実践に活かし、さらに現場での経験を研究にフィードバックしていきたいと思っています。

Q&A

外国語教育システム論コースとは、どのようなことを研究するコースでしょうか？

外国語教育システム論とは、外国語教育の基盤となる基礎研究の知見について理解を深め、学際的な立場から新しい時代の外国語教育のあり方を探求しようとするコースです。

外国語教育システム論コースでは、どのようなことが学べるのでしょうか？

このコースでは、外国語教育のシステムを支える、言語学・心理言語学、外国文学、文化学について広く学びながら、外国語教育の研究を行ったり、実践力を身につけることができます。また、英語のみならず、ドイツ語、フランス語、日本語などの言語を専攻する院生にも対応しています。

中学校・高等学校の英語教員志望ではないのですが、このコースには不向きでしょうか？

このコースは、英語の教員養成のみを目的としたものではありません。たとえば、外国語教育への応用を考えながら、心理言語学やカルチュラル・スタディーズの研究を行ったり、外国語習得を意識しながら、アメリカ文学、ドイツ・オーストリア文学、フランス文学を専門とするなど、幅広くかつ深く学ぶことができます。

入学後は、コースが開講する授業しか履修できないのでしょうか？

外国語教育システム論コースに所属していても、他コースの授業を履修することが可能です。外国語教育システム論コースに開設されている授業科目を中心に、たとえば、外国語教育コンテンツ論コースが開講する授業科目を履修することができます。

外国語教育コンテンツ論コース



外国語教育コンテンツ論コースでは、新時代の外国語教育の創造に主体的に参画できる人材育成を目指し、外国語教育の内容・方法・展開に関わる研究を総合的に行っています。本コースでは、言語学（コーパス言語学・認知言語学・語用論・音声学・文法学）と教育学（授業論・指導法・教育学）の学問的基盤をふまえつつ、特に、教育現場での実践的展開を見据えた研究に精力的に取り組んでいます。本コースにおいて、外国語教育を取り巻く諸問題に多面的にアプローチする能力を付けた修了生は、国内外の教育機関等で活躍しています。本コースでは、学部時代の専門にかかわらず、外国語教育を通して社会のグローバル化に貢献しようとする意気込みにあふれた学生の受験を歓迎します。

進路実績 (前期課程) 兵庫県立高校教諭(2)、滋賀県立高校教諭、私立開明中高教諭、私立神戸女学院高等学校教諭、尼崎市立中学校教諭、神戸市立中学校教諭、(株)矢崎産業、(株)Sony Computer Entertainment、他
(後期課程) 近畿大学准教授、環太平洋大学准教授、大阪大学専任講師、広島国際大学専任講師、関西外国語大学非常勤講師、関西大学非常勤講師、流通科学大学非常勤講師、中南財経政法大学講師、山東科技大学講師、他

在籍学生数 (前期課程) 1年5名(内キャリアアップ型3名) 2年3名(内キャリアアップ型0名)
(後期課程) 1年1名 2年1名 3年0名

論文テーマ例 (前期課程) 英語強意詞、英語コロケーション、英語使役動詞、英語起動表現、ドイツ語自他動詞、日本語カタカナ語、シャドーイング指導、フォニックス指導、Focus-form発音指導、バイリンガル者会話分析、英語前置詞用法、他
(後期課程) 会話における修復行為、中日同形方位成分、会話インタラクション分析、日本語複合動詞、英語基本動詞用法、第2言語使用アイデンティティ、小学校英語指導者資質診断テスト開発、他

所属教員の紹介

石川 慎一郎 教授 外国語教育内容論特殊講義Ⅱほか

応用言語学の観点から、コーパス（大規模テキストデータベース）を使った英語・日本語の言語分析・教材分析・教材開発・語彙習得などを主として研究しています。あわせて、語彙処理の心理的機制や、小中高大での言語教育のカリキュラム設計、教授法などにも関心を持っています。科学的な視点から言語や教育の問題を考えてみたい学生を歓迎します。

柏木 治美 教授 外国語教育学論特殊講義ほか

最近、センサを用いて、現実世界の物や動きとシステム内の情報を結びつけ、実空間を取り入れた学習環境の構築に関する研究を行っています。また、音声合成音を取り入れたリスニング学習システムや、フォニックスルール学習システムに関する予備的研究を行っています。新しい技術を取り入れた学習システムの開発研究に興味を持つ学生を歓迎します。

木原 恵美子 准教授 外国語教授学習論特殊講義ほか

認知文法の観点から英語の文法現象の記述を行いながら、文法の学習メカニズムの分析や教授法の開発に関する研究も行っています。特に、「構文」という概念を用いて、英語母語話者や英語学習者が使用する構文を分析することによって、認知文法や構文文法の実用性と限界を検証しています。文法の分析や記述に興味がある学生を歓迎します。

Tim Greer 教授 第二言語運用論特殊講義ほか

言語表現とそれを用いる人との関係に関心を持っています。会話分析を始めとし、質的調査方法を使用し、第二言語語用論（L2 Pragmatics）を専門にしています。二ヶ国語で行う会話、オーラル英語能力試験での会話、日常会話など様々な場面で「言葉を使った社会的行為」を研究しています。また、言語教育、教材分析、アイデンティティ構成、バイリンガリズム、などの研究も行っています。

朱 春暉 教授 言語対照応用論特殊講義Ⅱほか

音声学、外国語教育。言語音声を生理学的、物理的、心理的諸側面から研究し、外国語の発音をいかに効率よく教えるかを検討しています。言語音声や外国語の発音・発音指導に興味を持つ学生を歓迎します。

栢田 義一 教授 言語対照応用論特殊講義Ⅰほか

ヨーロッパ連合（EU）の言語教育の指針となっている「ヨーロッパ言語共通参照枠（CEF）」とそれに準拠したカリキュラムの日本への導入が現在の研究テーマです。EUでの複言語主義、「1（母語）+2（外国語）」言語教育、ホルトフォリオ等に興味を持っている方は一緒に研究しましょう。

大和 知史 准教授 外国語教育内容論特殊講義Ⅰほか

英語教育の中でも、英語発音指導（特にイントネーションなどのプロソディ）を主な研究テーマとし、学習者の英語音声の使用実態の把握、指導への応用などを主に研究しています。また、語用論的能力育成のための指導に関連した理論的背景の精緻化や指導法にも関心があります。

所属学生からのメッセージ



陳 嘩さん

(博士前期課程 2年・研究者養成型プログラム)
華南師範大学外国語学部卒業。
研究テーマは「アジア圏英語学習者の助動詞使用」。

私は中国で英語を専攻として勉強し、大学卒業後、日本留学を決意しました。大学院への入学に当たって研究テーマを考える中で、コーパス（大規模な電子的言語データベース）に関する本に出会い、コーパスを中国の英語教育や英語教科書の改善に使えればと思い、本コースを志願しました。現在は、中国人英語学習者の多くが苦手と感じている助動詞の用法に関して、コーパスを利用した計量的研究を行っています。外国語教育コンテンツ論コースの最大の特徴は、集団指導がとくに充実していることです。集団指導においては、自分の研究の進捗状況について発表し、多様な専門を持っておられる先生方からご指導をいただくことができます。集団指導では自分の研究を深めることができると同時に、プレゼンテーションなどの能力を鍛えることもできます。外国語教育に興味を持つ方にとって、本コースは最適な研究の場だと思います。



大山 理恵さん

(博士後期課程 2年)
関西学院大学言語コミュニケーション文化研究科博士前期課程修了。
研究テーマは「日本語学習者におけるプロンディー知識の必要性」。

日本語学習者のアクセント・イントネーションなどにより、その人の印象が大きく変わってしまう事が往々にしてあります。自然な日本語を習得したいという留学生のニーズに応えるため、いかに効率よく指導できるかを研究しております。指導教員による学生の意思を尊重した、真摯なご指導はもちろんのこと、「集団指導演習」においても、国内外の言語学・教育学分野でご活躍されている諸先生方のご指導を直接仰ぐことができますので、より幅広い視野での研究が望めます。仕事に従事しながらの生活は、物理的にも精神的にも厳しい面がありますが、理論と実践を兼ね備えた論文執筆が可能であるという、ゴールがありますので、かけがえのない経験ができると思います。魅力的な外国語教育コンテンツ論コースで充実した研究生活を過ごし、新しい自分を発見されてはいかがでしょうか？

修了学生からのメッセージ



刺賀 蘭理さん

(2012年度博士前期課程修了)
大阪外国語大学（現・大阪大学）国際文化学科学卒業。神戸大学国際文化研究科博士前期課程修了。研究テーマは「英語と日本語の二か国語会話における修復」。現在、神戸女学院大学高等部英語科教諭。

大学院での研究を志望した理由は二つあります。一つ目の理由として、すでに非常勤講師として働いていた私は、よりわかりやすく興味深い授業を行うためには言語や言語教育についてもっと学ばなければいけないと日々の授業で痛感したからです。もう一つ受験の動機となったのは個人的な探究心でした。幼い時、海外で過ごした経験を持つ私はいわゆる帰国子女で、自分の言語使用、特に会話の中で日本語と英語を両方使用する現象に興味を持っていました。なぜ自分はこんな風に話すのだろうという素朴な疑問に答える糸口になったのが、外国語教育コンテンツ論コースでした。前期課程の間にコード・スイッチングや会話分析という興味深いテーマを見つけることが出来、先生方の指導の下、論文の執筆にあたりました。それだけではなく、外国語教育に関する様々な分野の授業を受講することで、学んだことを自らの授業にすぐさま反映することが出来ました。現在では、中学校・高校での英語科専任教諭として働いています。外国語教育コンテンツ論コースでは、私のように働きながら研究をする院生や、各国からの留学生、様々なテーマの研究をする学生に出会うことが出来ます。大学院での学びは、外国語教育という大きなテーマに様々な角度から接する良い機会だと私は思います。専門的な研究をすることが出来、さらには幅広い知識にも触れ合うことが出来る。それが本コースの一番の魅力だと私は思っています。



岡田 悠佑さん

(2011年度博士後期課程修了)
立命館大学文学部卒業。立命館大学言語教育情報研究科修士課程、ハワイ大学マノア校第二言語研究科修士課程修了、神戸大学国際文化研究科博士後期課程修了。研究テーマは第2言語会話分析。現在、大阪大学大学院言語文化研究科講師。

私はハワイ大学マノア校の修士課程を修了後、立命館大学で嘱託講師をしていましたが、会話分析による第二言語会話の研究を続けたいと思い、当該分野で国際的に著名なTim Greer先生の指導を仰ぐべく、神戸大学国際文化学研究科に入学しました。英語の授業、英語会話能力テスト、国際会議といった第二言語会話における定式化の研究で博士号を取得し、現在は大阪大学大学院言語文化研究科に勤務しています。院生時代の思い出としては何と言っても集団指導演習です。コースに所属する全ての先生、院生の前で研究の進捗具合を発表する演習で様々な意見をいただき、博士論文により広い視野をもたせることができました。また、この1年に5回開催される集団指導演習を目指して研究を進めることで、博士論文を3年で完成させることができました。この集団指導演習に見られるように、神戸大学国際文化学研究科外国語教育コンテンツ論コースの特徴は、先生方そして留学生を含む院生の持つ多様性が「機能的に」融合されているところです。外国語教育への高い意欲と分析に着手できるデータを持って入学すれば、実りの多い研究ができる博士課程だと思います。

Q&A

英語以外の外国語教育を学ぶことはできますか？

本コースでは、英語のみならず、ドイツ語・中国語・日本語の研究指導も行っており、所属学生にもこれらの諸言語を専攻している方がいます。多言語の視点から外国語教育を考えるのが本コースの特徴です。

英語教員免許を取得できますか？

学部時代に一種免許状を取得している場合は、博士前期課程で指定された科目の単位を取得することによって専修免許状を取得することができます。また、一種免許状を取得していない場合は、大学院に在籍しながら学部科目を並行履修して、教員免許（一種免許状）取得に必要な科目の単位を一定数の範囲で補うことが可能です。

学部時代の専門が語学や教育学ではないのですが、本コースで研究していけるでしょうか？

これまでに在籍していた院生の学部時代の専門は、言語学・言語教育学のみならず、文学・法学・経済学などさまざまです。語学力と語学教育への熱意があれば、大学院において新たに外国語教育の研究を始めることも十分に可能です。本コースでは、

導入的な講義を体系的に開講しているので、これらの履修により、2年間で修士レベルの知識や分析スキルを身につけ、さらに、後期課程で研究を深めることができます。

留学経験者は多いのでしょうか？

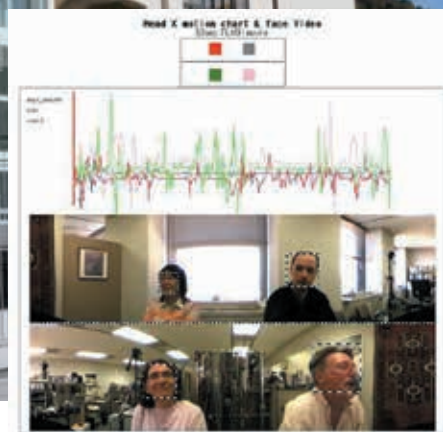
これまでの在籍者は、米国、ドイツ、豪州などで留学を経験していました。韓国で実地調査を行った学生もいました。院生が留学しても、指導教員とメールなどで頻りに連絡をとりあうため、きめ細やかな指導とサポート体制が整っています。在籍者のなかには留学生もいますので、国際色豊かなコースです。

修了後の進路状況はどのようなですか？

教育職への就職が多くなっています。前期課程修了者は、大阪府・兵庫県・神戸市などの公私立の高校・中学校の英語教諭として活躍しており、後期課程修了者は国公立大学講師などに就職しています。この他にも、民間企業の海外部門で活躍する修了生もいます。また、高校や大学で教員として勤務しながら本コースで研究活動に取り組んでいる学生もいます。

連携講座（博士後期課程に設置）

先端コミュニケーション論コース



ますます増大する文化摩擦問題や、近い将来われわれが直面することになるであろうロボットとの共存問題は、コミュニケーションの問題に他なりません。人間のコミュニケーションとはどういうもので、そこにどのような文化差があるのか。言語・パラ言語・非言語行動そして身体は、コミュニケーションの中でそれぞれどのような役割を果たすのか。それはわれわれの外国語学習にどのように活かせるか。先端コミュニケーション論コースは、最新の機器等を駆使してこのような問題を解明し、新しいコミュニケーションの可能性を切り開こうとするコースです。

連携先：株式会社国際電気通信基礎技術研究所（ATR）



進路実績 甲南大学教授、他

在籍学生数（後期課程） 1年0名 2年0名 3年1名

- 論文テーマ例
- 英語教育におけるeポートフォリオの活用
 - 英語音声教育における調音器画像情報提示の役割

所属教員の紹介

篠沢 一彦 客員教授 先端コミュニケーション論特別演習
人間とロボットのコミュニケーションなどの分野を主として研究しています。

能田 由紀子 客員教授 先端コミュニケーション構造論特別演習
音声生成、発話・脳活動計測などの分野を主として研究しています。

山田 玲子 客員教授 先端コミュニケーション学習論特別演習
第二言語の音声知覚、音声言語学習、eラーニングなどの分野を主として研究しています。

神戸大学
国際文化学部
総合人間科学研究科

国際文化研究科主催 国際シンポジウム

INTERNATIONAL SYMPOSIUM HELD BY THE GRADUATE SCHOOL OF INTERCULTURAL STUDIES



第17回国際シンポジウム

(神戸大学・JAXA(宇宙航空開発機構)・京都大学宇宙総合学ユニット共催)

宇宙文化の創造力

国際文化研究科は、2012年のシンポジウムを、JAXA(宇宙航空開発機構)との連携協定締結、国際文化学部開設20周年、さらに神戸大学開学110周年の記念行事の一環として行いました。JAXAに加え、京都大学宇宙総合学ユニットの協力を受け、国際文化研究科にふさわしい、学際的なシンポジウムとなりました。



神戸大学国際文化研究科は、2011年10月3日にJAXA(宇宙航空研究開発機構)大学等連携推進室と人文・社会科学分野における研究協力協定を締結いたしました。JAXAにおいては、初の人文・社会科学系の大学院・学部との協力協定締結です。国際文化研究科にとっても、グローバル化(地球化)が進化する今日的な問題への取り組みを進展させ、学際性を生かした新しい分野の開拓を期待しております。いわば国際文化研究科がグローバルを越えた、21世紀の新しいフィールドである「宇宙」への挑戦です。



このシンポジウムの目的は、人文社会科学の領域がいかに宇宙研究にアプローチしうるか、その可能性を探ることにあります。「宇宙文化の創造力」というメインタイトルは、人文社会科学における宇宙研究という新しい分野を「創造」することを表しています。同時に、このタイトルには人文社会科学分野から宇宙を「想像」するという暗喩も込められています。特に今回のシンポジウムでは、コミュニケーション研究から宇宙研究への問題提起を試み、「コミュニケーションの実験室として宇宙」トピックを中心に、JAXA 樋口副理事長を含めたパネリストの方々の講演、向井 JAXA 特任参与(宇宙飛行士)を交え、会場の聴衆と共に活発なディスカッションが行われました。

衛星通信技術を利用した携帯電話、GPS、衛星テレビ放送など、情報通信技術の飛躍的な技術革新とそれによるコミュニケーションの拡大は、国民国家という単位を超えた文化・社会的変容をもたらしつつあります。宇宙技術は、こうした社会・経済・文化のグローバル化を支え、これを促進しています。グローバル化によって、人々の生活世界は拡大するとともに、拡大した生活世界がさらなるグローバル化を要請していると言えるでしょう。ただし、グローバル化が文化や社会の均一

化をもたらすわけではなく、むしろ文化間の相違や軋轢が発生し、顕在化する—これは、国際文化研究科が取り組んでいる今日的課題です。シンポジウムを通し、こうした課題に取り組むいくつかの具体的なトピックとアプローチが明らかになりました。さらに、このシンポジウムは、コミュニケーション研究、ひいては人文社会科学研究分野における宇宙というフィールドの重要性、新たな研究の可能性を提起しました。文化や社会の再編・創造の場として、宇宙空間および宇宙研究を捉え直すという学際的な場を提供したと言えます。

なお、このシンポジウムの様子は、U-streamによって、広く社会と世界に発信されていることも附記いたします。

(<http://www.ustream.tv/channel/kobe-jaxa>)

プログラム

日時	2012年11月10日(土) 12:00~18:00
場所	神戸大学統合研究拠点コンベンションホール
開会	司会: 米本弘一(神戸大学国際文化研究科教授) 挨拶: 武田廣(神戸大学理事・副学長) 挨拶: 阪野智一(神戸大学国際文化研究科長) 挨拶: 樋口清司(JAXA 副理事長) 趣旨説明: 岡田浩樹(神戸大学国際文化研究科教授)
Panel	司会 定延利之(神戸大学国際文化研究科教授)
講演1	樋口 清司(JAXA 副理事長) 「宇宙文化のすすめ」
講演2	磯部 洋明(京都大学宇宙総合学ユニット特定講師) 「宇宙と人文社会科学」
講演3	木村 大治(京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科教授) 「ファースト・コンタクトの人類学」
講演4	西田 健志(神戸大学大学院国際文化研究科講師) 「地上と宇宙のコミュニケーションから何を学ぶか」
Discussion	司会 岡田浩樹、講演者: 報告者 向井 千秋(JAXA 特任参与)・ 宇津木 成介(神戸大学大学院国際文化研究科教授)
閉会挨拶	米本弘一

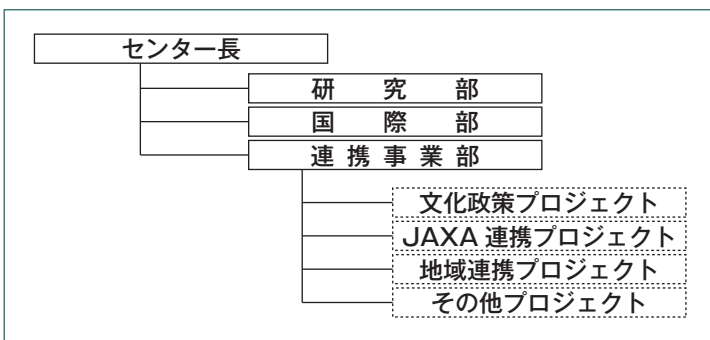
異文化研究交流センター

INTERCULTURAL RESEARCH CENTER



異文化研究交流センターは、学部・研究科における異文化研究をさらに発展させるとともに、その成果を生かし地域連携及び国際交流を促進することを目的とし、2005年4月に設置されました。協定による留学生交流をはじめとする教育活動、および異文化研究という両面にわたる学部・研究科の特徴をより発展させるための諸活動を行なっています。

設置当初に比べて各部門の活動は年々多様化し、活発化していることから、部門名称と活動内容との間に乖離が生じているので、今回実状に合わせて一部組織再編しました。



研究部

「文化接触と異文化共存」「文化の普遍性と相対性」などをテーマに研究会、講演会を開催しています。

国際部

海外の連携大学との学生や教員の交流事業、共同研究などを統括する役目をします。

連携事業部

「文化政策プロジェクト」、「JAXA 連携プロジェクト」、「地域連携プロジェクト」等の実施プロジェクトを置き、地域を越えた連携事業を恒常的に進めていきます。

2012年度プロジェクト

- EUの内と外における共生の模索
- 国際芸術文化交流の実践的取り組み
- 南あわじ市、兵庫県国際交流協会、在日外国人諸団体との連携協力活動および調査研究

これまでのプロジェクト（一部）

- 多言語・多民族共存と文化的多様性の維持に関する国際的・歴史的比較研究
- 公共文化施設の公共性についての調査研究：県立劇場を中心に多文化共生型の新たな市民社会像の構築
- マイクロステートの文化政策と日常の実践に関する国際共同研究と海外ネットワーク拠点構築
- 阪神、淡路地域における民族文化伝承の現代的展開に関する研究
- 神戸市および兵庫県の文化政策と連携したアートマネジメント教育
- 阪神間モダニズムと近代芸術受容の再評価研究
- 中東・日本間の知的交流型研究を通じて現代中東の国際関係と政治変動を理解するためのプロジェクト

他機関や地域との連携

2007年度から2009年度まで、文部科学省が実施する2つのプログラムの基盤・連携センターを務めました。

- アートマネジメント教育による都市文化再生（現代的教育ニーズ取組支援プログラム）
- 文化情報リテラシーを駆使する専門家の養成（大学院教育改革支援プログラム）

その他、近隣の地方自治体やその外郭団体との研究連携、オックスフォード、ケンブリッジ両大学連合センターの海外英語教育実習事業（学部生対象）への協力連携、兵庫県国際交流協会と宇宙航空開発機構（JAXA）との連携など、外部機関との密接な協力を行なっています。



Oxbridge English Summer Camp の実施



講演会「『放射線被曝の歴史』再考：ポスト3.11における意義を探る」（講師：稲岡宏蔵・科学技術問題研究会、中川慶子・園田学園女子大学名誉教授）



アジアこども国際映画祭へのボランティア参加

メディア文化研究センター

RESEARCH CENTER FOR MEDIA AND CULTURE



文理融合型の新たなメディア研究をめざして

「メディア」を切り口として、現代文化のグローバルな展開を研究の俎上に乗せよう、そのようなもくろみをもった学術研究の拠点であるメディア文化研究センターは、国際文化学研究科の2つめのセンターとして2008年4月に発足しました。愛称は<cMec>です。「メディア」や「文化」を名称の一部にもつ研究機関は少なくありませんが、本研究センターは人文科学、社会科学、自然科学が融合した研究を行なう組織として非常にユニークであると自負しています。本センターでは一つの研究部のもとに、<多元的コミュニケーション研究部門>と<公共文化研究部門>の2つの部門を置き、両者を有機的にリンクさせようとしています。

2012年度の活動

多元的コミュニケーション研究部門では、電子情報がより身近になるであろう近未来を見据え、以下3種の活動を行いました。

マルチメディア学術空間の構築に関する活動：(1) 本文に動画や音声埋め込み可能な電子雑誌『メディア文化研究』を発足させ (<http://www2.cla.kobe-u.ac.jp/cmec/publications.html>)、その際に生じる様々な問題を考察しました；(2) 電子メディア雑誌製作における Adobe InDesign の利用可能性に関する講習会を主催しました (10月5日(金)、講師：板東詩おり氏 (ひつじ書房))。

民間話芸の研究データベース構築に関する活動：

関西メディア文化推進協議会との連携のもと、「ちょっと面白い話データベース」を次の2つの形で拡充しました：(1) 「わたしのちょっと面白い話コンテスト」(応募者の音声動画ファイル「ちょっと面白い話」をネット上に掲載し、ネット投票で面白さの順位を決めるコンテスト)の第3回(応募総数43作品)を行い、第1回(20作品)・第2回(72作品)と同様、全作品に字幕を付けてネット上に公開しました (<http://www.speech-data.jp/chotto/2012/>)；(2) 公開中の第1回コンテスト応募作品(日本語字幕付き)に、英語訳・中国語訳・フランス語訳の字幕を付けて公開しました (http://www.speech-data.jp/chotto/2010_sub/flash/ または http://www.speech-data.jp/chotto/2010_sub/jwplayer/)。



「ちょっと面白い話」の入賞作品の1シーン。日常の会話の中の発話やしぐさ、表情をデータベース化する可能性を探る。

コミュニケーションと認知、環境研究の推進に関する活動：

「環境とコミュニケーション」をテーマに、以下の連続講演会「宇宙からの新しい眺め」を主催しました：(1) 7月27日(金)、「宇宙と人文・社会科学」、講師：磯部洋明氏(京都大学)；(2) 7月30日(月)「宇宙的視座からのキャリア・デザイン」、講師：岩田陽子氏(宇宙航空研究開発機構)・後藤亮子氏(産業能率大学他)；(3) 7月31日(火)「宇宙×課題—新展開?」、講師：阪本成一氏(宇宙航空研究開発機構)。その他、論文や口頭発表、ネット連載を通じて成果を公表しました。

公共文化研究部門では、「メディアの変容と文化の公共性」をテーマに学際的な共同研究プロジェクトを継続して行なっています。本研究科の十余名のスタッフがこの共同研究に参加し、各自の専門分野からこのテーマについて報告する定例研究会を定期的に開催しています。2012年度は6月29日に「ゾラとマネー——社会の中の芸術 1866年～1883年パリ」(研究報告：吉田典子/コメント：西谷拓哉)、11月2日に「歴史から神話へ——現代日本の戦争映画をめぐって」(研究報告：石田圭子/コメント：板倉史明)、12月7日に「ソニア・ドローネーと〈服飾芸術〉の誕生——20世紀初頭の前衛芸術とモードの位相」(研究報告：朝倉三枝/コメント：青山薫)を開催しました。また、2013年2月20日には神戸映画資料館(神戸市長田区)から安井喜雄氏(館長)と田中範子氏(支配人)のお二人をお招きし、「フィルム・アーカイブの現在——神戸映画資料館の活動から」というテーマで公開講演会を開催しました。さらに3月にはゲストを招いた公開セミナーを2回開催しました。一つは「人種ステレオタイプの公共性とその変容——アメリカの作った日本人像『ハシムラ東郷』をめぐって」(研究報告：宇沢美子〔慶応義塾大学教授：アメリカ文学〕/コメント：梅屋潔)、もう一つは「現代アートによる共同想起のかたち——ドイツの場合」(研究報告：香川檀〔武蔵大学教授：表象文化論〕/コメント：石田圭子、吉田典子)です。いずれも本共同研究にたいして有益な知見を与えてくれる刺激的な機会となったと思います。次年度も引き続き定例研究会・公開セミナーを開催するとともに、先の講演会をふまえて神戸映画資料館との連携事業を推進することを予定しているところです。

その他

本研究センターの2012年度学術推進研究員の松井真之さんはセンターの任期満了のため3月に退職され、2013年4月から田恩伊さんが後任として着任しました。博士学位取得者をバックアップする協力研究員制度については、7名の学位取得者に委嘱しました。

■センター組織

センター長 藤 茂教授
研究部長：大月一弘教授
部門主任：定延利之教授(多元的コミュニケーション研究部門)
上野成利教授(公共文化研究部門)
研究員：林良子准教授、村尾元教授、西田健志講師
学術推進研究員：田恩伊



レンヌ大学との共同研究会から

留学案内

STUDY-ABROAD INFORMATION



海外の大学と交換留学協定を結んでいます。

国際文化学研究科は海外の大学と協定を結び、学生の交換を行っています。協定による留学は、私費留学とは異なり、以下のようなメリットがあります。

- (1) 授業料：留学先大学の授業料が免除されます（ただし、神戸大学に規定の授業料を支払わなければなりません）。
- (2) 単位互換：留学先で取得した授業の単位が所定の手続きを経て、本研究科の単位として認定されます。
- (3) 修業年限：留学中も神戸大学に在籍中と見なされるので、前期課程の場合は1年間（または半年）の留学期間を合わせて2年で、後期課程の場合は3年で修了することができます。

(3)の留学先の授業料免除は、当該国の大学制度や物価によりさまざまで、大きなメリットになる場合とならない場合がありますが、一般に欧米の大学は留学生から高額授業料を徴収しており、授業料が免除されることは大きなメリットといえます。(2)及び(3)は協定による留学ならではの利点です。奨学金は現在のところ日本学生支援機構、環太平洋地域限定のHUMAP、さらに神戸大学独自の渡航費と滞在費の一部を補助する奨学金の3種類があります。

派遣学生の選考は、次の4点を基準に国際交流委員会が筆記試験及び面接で行っています。(1)語学力(2)応募の動機(3)人物(外国、異文化での長期生活に耐えられるか)(4)専門性(留学計画が明確であるか)。なお、英語圏に留学する場合は要求されているTOEFL又はIELTSのスコアをクリアしなければなりません。

DDプログラムとは

ダブルディグリー・プログラム（DDプログラム）は、本研究科に在学中の大学院生が留学先研究科（現在のところ浙江大学とルーヴァン・カトリック大学）に最低1年間留学し、所定の単位を修得して修士論文を提出することによって、最短2年間で修士の学位を本研究科及び留学先研究科において取得できるプログラムです。

それぞれの研究科で取得した単位の一部は互換され、カリキュラムも連携しています。さらに授業料等についても、本研究科の学生は神戸大学に支払うだけで、留学先研究科では免除されます。

研究科協定校一覧

ロンドン (SOAS)	イギリス	全学協定
バーミンガム		
テネシー	アメリカ	
ピッツバーグ		全学協定
ワシントン		全学協定
ユタ		
メリーランド	ドイツ	
ハンブルク		
ベルリン自由		
ライプツィヒ		
グラーツ	オーストリア	全学協定
ライデン	オランダ	全学協定
ルーヴァン・カトリック	ベルギー	DDプログラムあり
ニース	フランス	
グルノーブル第3		
レンヌ第1		
パリ第2		全学協定
パリ第7		全学協定
パリ第10		全学協定
ボローニヤ	イタリア	
ヴェネツィア		全学協定
オーフス	デンマーク	
カレル	チェコ	全学協定
ワルシャワ	ポーランド	
ソフィア	ブルガリア	全学協定
モスクワ教育	ロシア	
西オーストラリア	オーストラリア	全学協定
クイーンズランド		全学協定
武漢	中国	全学協定
上海交通		全学協定
精華		全学協定
華東師範		
中国人民		
浙江		DDプログラムあり
北京外国語		
香港		
北京師範		
台湾	台湾	全学協定
ソウル	大韓民国	全学協定
ベトナム国家	ベトナム	
アテネオ・デ・マニラ	フィリピン	
タマサート	タイ	

研究サポート

RESEARCH SUPPORT



キャンパス内での院生の生活・研究を強力にサポートします。

空き時間は、ここでくつろぎ、勉強する — 院生研究室 —

国際文化学研究科には、院生専用の研究室が設置され、各研究室にはデスクのほか、書架やロッカーも配置されています。また、院生研究室には数多くのパソコンが配置され、インターネットや電子メールを自由に利用することができます。

自分のペースで研究を進めたい方に — 長期履修学生制度 —

この制度は、職業を有している等の事情により、2年間で博士前期課程修了に必要な単位を修得し修了することが困難な者が、入学時に計画的に2年を超えて単位を修得し修了することを申請し、大学がこれを認めた場合、2年間の授業料で2年を超えて在学できる制度です。

2年間の授業料の合計額を長期履修学生として認められた年数で除した額が年額授業料となります。ただし、在学中に授業料が改定された場合には、改定時から新授業料が適用されます。職業を有している等の事情とは、次のいずれかに該当する者で、標準修業年限内での修学が困難な者です。

- (1) 職業を有し就業している者（自営業および臨時雇用 [単発的なアルバイトを除く。]を含む。）
- (2) 家事、育児、介護等の事情を有する者
- (3) その他研究科長が相当と認めたる者

なお、職業を有している等の事情であっても一定の条件のもとに認められる制度ですので、申請希望者はあらかじめ担当係に相談してください。



ハラスメントのないキャンパスをめざして — ハラスメント防止委員会 —

大学では、自由で充実したキャンパス・ライフを送ってほしいと思っています。性別、年齢に関係なく、互いを尊重する人間関係を築くことが大切です。とはいえ、人間関係が広がれば、望んでいないような不愉快な言動をされたり、気づかぬうちに相手を傷つけたり、相手から傷つけられたり、ということが起こりえます。ハラスメントとは、「嫌がらせ」を意味し、就労、就学上の優位な立場を利用して、相手が望まない言動により、精神的、肉体的苦痛を与えることです。性的なことに関連するセクシャル・ハラスメント、教育上のことさらに関連するアカデミック・ハラスメント等々、さまざまな種類があります。

国際文化学研究科には、男性、女性両方の教員からなるハラスメント防止委員会が設置されています。不幸にしてこのようなことが起きてしまった場合、ひとりで悩まないで、早めに委員の教員に相談してください。ひとりで不安であれば、誰かに一緒に行ってもらいましょう。匿名での相談も受け付けています。委員会では、相談者のプライバシー保護に十分配慮していますので、安心して相談に来てください。

コピーカードの支給

授業や研究のために必要なレジュメや資料をコピーできるように、毎年、定額のコピーカードが無料で支給されます。



国際文化学研究科の就職と進学

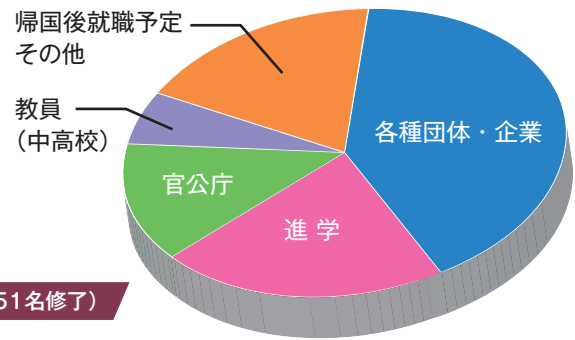
EMPLOYMENT AND CAREER OF THE GRADUATE SCHOOL OF INTERCULTURAL STUDIES



国際文化学研究科は、創設以来、学界・教育界・ビジネス界に有為な人材を多数輩出しています。修了生はグローバル社会を切り拓くフロントランナーとして多面的に活躍しています。

1. 前期課程修了生の進路概況

2012年度の前期課程修了者51名のうち33名が、前期課程修了後研究成果を活かして就職し、社会の第一線で活躍しています。就職者の内訳では、7名が公務員、3名が中学校・高等学校教員、残りが各種団体・企業等で働いています。また、11名が博士後期課程に進学しています。一部帰国後に本国で職につく留学生もいます。



平成24年度(51名修了)

2. 前期課程修了生(旧研究科を含む)の近年の主な就職先実績

高度な語学力と情報処理能力をベースに国際文化学の幅広い専門知識をつけた修了生は、さまざまな業種で活躍しています。公務員においては韓国法務省、パラオ政府芸術文化省、ベトナム政府関連など、海外からの留学生の活躍も目を引きます。教員においては英語、日本語、韓国語など、修了コースの特性を活かした分野で活躍する修了生もいます。

主要就職先

【国際機関】	パラオ政府芸術文化省、韓国法務省、タイ大使館、国連ハビタット(アジア・太平洋地域事務所)、ベトナム政府投資企画庁など
【国家公務員】	防衛省・語学職(英語)、大蔵省(現財務省)、国立民族学博物館、京都大学原子炉実験所(技官)、神戸大学職員など
公務員他	【地方公務員】 兵庫県人と防災センター、兵庫県警、大阪市役所、西宮市現代史調査員、新潟市役所、神戸市芸術センター、兵庫県立芸術文化センター、神奈川県葉山町生活環境部など 【その他】 JICA(国際協力専門員)、青年海外協力隊(エルサルバドル派遣)、関西経済連合会など
教員	【中学校・高等学校その他】 大阪府、兵庫県、東京都、岡山県、山口県、鹿児島県、福井県、神戸市など
運輸	全日空、JTB、川崎汽船、阪急交通社、NEXCO 中日本など
広告	電通、リクルートメディアコミュニケーションズなど
情報	三混紡研 DCS、NEC ソフト、NTT データ、ソフトバンク、日本 IBM インダストリアルソリューション、野村総合研究所、ヤマトシステム開発、住生コンピューターサービス、日立システムエンジニア、メディアフュージョン、ゴールドマン・サックス、NTT 西日本、NEC システムテクノロジー、富士通 FIP、富士通ビー・エス・シー、フジクラなど
食品	JR 西日本フードサービス、カネテツデリカフーズなど
製造	三菱重工業、住友ゴム工業、富士通、ダイハツ工業、NEC、YAMAHA、日本 HP、日立電線、川副機械製作所、シャープ、帝国電気、コスモ石油、バンダイ、コベルコシステム、ニチダイフィルタ、明和、矢崎創業、台湾日立化成工業、博瀬電機貿易(上海) 有限会社、帝国電機、中国電信北京支社など
マスコミ	共同通信、神戸新聞社、産経新聞社、中日新聞社、北日本新聞社、京都新聞社、高知新聞社、MBS ラジオ、高知ケーブルテレビなど
その他	関西フィルハーモニー管弦楽団、東本願寺(事務)、イオン、星野リゾート、阪急阪神百貨店、三菱東京 UFJ 銀行など



3. 前期課程修了生（旧研究科を含む）の近年の主な進学先実績

本学の大学院博士後期課程をはじめ、他大学の大学院にも多数が進学しています。2012年度の例では、修了生51人中、11名が博士課程後期課程に進学しています。

主要進学先

神戸大学 国際文化学研究所、人文学研究科、人間発達環境学研究所など

その他国公立大学 京都大学大学院、九州大学大学院、総合研究大学院大学、東京都立大学大学院、神戸市外国語大学大学院など

海外大学・私立大学 シェフィールド大学、ハンブルク大学、など

4. 後期課程修了生（旧研究科を含む）の進路概況

大学教員や学芸員などの職についています。2012年度修了生の進路は、環太平洋大学准教授、芸北民俗芸能保存伝承館学芸員、神戸大学大学院国際文化学研究科学術推進研究員などです。

5. 後期課程修了生（旧研究科を含む）の近年の主な就職実績

海外・国内の大学において、多くの修了者が研究者・教育者として活躍しています。また近年、学位取得後、大学だけではなく企業や研究所に就職する人も増えてきています。

主要就職先

海外大学 天津外国語大学、青島大学日本語学部、浙江大学人文学院、ヤンゴン大学人類学科、中国人民大学外国語学部、台湾国家科学委員会・人文学研究中心研究員、大連外国語学院日本語学院、湖南工業大学外国語学院、中国国立広州中医薬大学、中国内蒙古大学蒙古学学院近現代史研究所など

【国立】

国公立大学等 大阪大学、神戸大学留学生センター、神戸大学百年史編集室、京都大学留学生センター、福井大学教育地域科学部、国立沿津工業高等専門学校教養科など

【公立】

島根県立大学看護学部、神戸市外国語大学、兵庫県立総合衛生学院、北九州市立大学基盤教育センターなど

私立大学 大阪工業大学、近畿大学、同志社大学、プール学院大学国際文化学部、広島国際大学、大妻女子短期大学、甲南女子大学、四條畷学園短期大学、花園大学文学部創造表現学科、神戸学院大学経営学部、関西学院大学言語教育研究センター、甲南大学人間科学研究所研究員、神戸情報大学院大学、武庫川女子大学、武蔵大学社会学部など

学芸員 呉市海事歴史科学館学芸員など

行政・企業 神奈川県警察科学捜査研究所、兵庫留学生会館、イオン、教育開発出版、メディキット、カナフレックスコーポレーション、財団法人安全保障貿易情報センター、国際交流基金、愛知県西尾市教育委員会、アステラス製薬、ファーストリテーリング、三菱銀行（中国・広州）、中国航空工業集団など

充実したキャリア・サポート

国際文化学研究所はキャリア・サポートのコアに教育を据え、それを補強する就職支援活動を強力に、きめこまやかに推進するユニークな研究科を目指しています。

就職支援を担当するキャリアデザインセンター（CDC）は、就職、留学、資格試験、人生設計などに関するキャリア関連図書が閲覧できる独自の部屋を備え、就職ガイダンスや就職活動体験発表会等の就職行事を、学部・研究科単独で開催し、また面接法、インターンシップなど各種の情報提供をしています。院生一人ひとりの進路選択の相談に応じるなど、全学の就職支援活動と常に連携しながら、充実したサポート体制をとっています。博士課程後期の就職は、今後研究者職から企業・団体等の就職へ拡大していくことが予測され、それへの対応も進めていきます。



全学の研究支援施設・学生寮・奨学金

RESEARCH FACILITIES, DORMITORIES, SCHOLARSHIPS



CALL 室 / ランゲージ・ハブ室

研究科のキャンパスには、国際コミュニケーションセンターが運営する2種類の外国語学習支援施設があります。「CALL (Computer Assisted Language Learning) 室」には、コンピュータを使用した最新の外国語学習システムが整備されており、自分のペースで段階的に学習を進めることが可能です。

「ランゲージ・ハブ室」には、英・独・仏・中・露・韓の各国語を話す留学生が常駐しており、気軽に外国語による会話体験を持つことができます。また、「ランゲージ・ハブ室」では、英語プレゼンテーション・セミナーなど、さまざまな外国語教育プログラムが提供されており、学んだ外国語を実際に使う場が用意されています。これらの充実した施設を活用することで、外国語の実践的運用力の向上が期待できます。英語をはじめとした既修外国語のブラッシュアップはもちろん、ぜひ、新しい外国語の習得にもチャレンジしていただきたいと思います。



学生寮

男子学生用に「住吉寮」(東灘区)(個室)が、女子学生には「女子寮」(東灘区)(個室)があり、いずれも学生の自治で運営されています。寄宿料は、月額 10,800 円、光熱水経費が月額 4,500 円～6,000 円です。住吉寮では昼食と夕食(350 円)、女子寮では夕食(300 円程度)のサービスがあります。また平成 9 年に住吉寮に隣接して各室トイレ付の住吉国際学生宿舎(個室)が新設されました(寄宿料 4,700 円、光熱水費 8,000～9,000 円)。ただし、2012～2013 年度は改修工事の予定ですので利用できる部屋数は未定です。

外国人留学生向けには、インターナショナル・レジデンス、住吉国際学生宿舎、住吉寮、白鷗寮が、毎年 1 月(4 月入居)と 7 月(10 月入居)に入居者を募集していますが、数に限りがあり希望者全員が入居できるとは限りません。他にも近隣には民間団体が運営する留学生を対象とした宿舎があります。いずれも入寮希望は留学生課で受け付けています。

国際文化学図書館

神戸大学には各キャンパスに図書館があります。中央図書館というものはありません。国際文化学部図書館の入口には「総合図書館」と「国際文化学図書館」という2つの看板が掛けられています。総合図書館というのは全学共通教育の学習支援を行うことを目的としており、全学問分野の資料の充実に努めています。国際文化学図書館は、国際文化学部・本研究科の学生・院生を対象として、文化交流や各国の文化事情など国際文化学に関わる資料を中心に収集しています。

本図書館では、「学生希望図書」という予算費目があり、本研究科の大学院生は、学術的な図書の購入希望を申請することができます。図書館では、蔵書の貸し出しに加えて以下のサービスが提供されます。複写申し込み、学内の他の図書館からのデリバリー、他大学からの図書貸与やコピーの申し込み、購入希望の受付などです。またこれらのサービスは、図書館まで行かずに、学内のパソコンの画面から依頼することができ、さらに文献やコピーの到着を E メールで案内してくれるので大変便利です。また図書館のホームページで電子ジャーナル検索、データベース検索、新聞記事検索を利用できます。平日は 21:30 まで、土曜日は 18:00 まで開館しています。



奨学金

日本学生支援機構奨学金と神戸大学独自の奨学金、財団や企業、地方自治体などが支給する奨学金があります。日本学生支援機構の場合、第一種奨学金(無利子貸与)と第二種奨学金(有利子貸与)があり金額も異なります。

研究会・研究誌の紹介

RESEARCH GROUPS AND JOURNALS



国際文化学研究科には多くの研究会・プロジェクトが組織され、研究科の教育と研究の重要な一翼を担っています。

神戸大学大学院生紀要『国際文化学』

神戸大学国際文化学研究科は、研究科に所属の大学院生の研究を促進することを目的とし、研究成果を広く公開するために、『国際文化学』（大学院生紀要）を刊行しています。

『国際文化学』の前身は2011年度まで、年2回（通算25号）、神戸大学国際文化学会（学術組織）が発行してきた学術雑誌です。この雑誌は、研究科の教育・研究の一翼を担ってきましたが、2012年度より、大学院生の学術研究をサポートし、大学院教育の効果を強化するために、オンラインの大学院生紀要としてリニューアルいたしました。年1回の発行で、投稿資格者は国際文化学研究科の大学院生、総合人間学研究所大学院生および編集委員会が認めた者です。

『国際文化学』の編集方針は、前身誌の方針を引き継ぎ、さらに大学院教育の一環としての特徴を備えています。大学院生が論文を投稿すると、指導教員以外から複数の査読委員が選ばれ、その論文の審査にあたります。専門的なコメントが必要な場合は外部の研究者に査読を依頼する事もあります。査読教員は、論文掲載の可否を決定するだけでなく、論文に問題がある場合には、それをどう修正すべきかについて懇切丁寧なコメントを投稿者に返します。論文の修正期間が十分に確保されているので、投稿者は指導教員とも相談しつつ、じっくり論文を書き直すことができます。このような査読—修正—再投稿のプロセスを経て、大学院生は全国学会などに投稿する学問上の基本的な作法、必要とされる学術水準についての知識を身につけます。

ホームページ

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/kernel/seika/cover/ISSN=21872802.html>



神戸大学社会人類学研究会『神戸文化人類学研究』

『神戸文化人類学研究』は、主に、文化人類学を専攻する大学院生や研究者の研究成果を公表する媒体です。2002年に創刊された神戸大学社会人類学研究会の会報『ぼぶるす』を前身とします。2011年度には第5号が発行されています。この雑誌は、大学院国際文化学研究科の文化人類学コースの発行する雑誌として、学内外の二人の審査員による査読制度によって学術的水準を維持しており、国際文化学研究科の大学院生だけでなく、他大学院生、さらには近年では他大学の研究者も投稿するようになってきております。

なお、神戸大学社会人類学研究会は、総合人間科学研究科や国際文化学研究科の大学院生を中心に、定期的な研究会を行っております。学外の研究者も招いての議論など、活発な研究活動を行っております。

ホームページ

<http://web.cla.kobe-u.ac.jp/group/kobe-anthro/>

『日本文化論年報』

『日本文化論年報』は、1998年3月、学部および大学院の日本文化論講座（現在は日本学コース）を母体に創刊、年1冊の刊行を続けています。

講座・コースの研究・教育活動の牽引を目的に、教員および大学院生の研究成果、また優れた学部卒業論文などを掲載しています。その他教育活動に関する彙報、卒業生情報などもあります。刊行に際しては、神戸大学山口誓子学術振興基金の補助金を得ています。

ホームページ

<http://web.cla.kobe-u.ac.jp/group/Nihongaku/nenpo/nenpo-index.html>

ジェンダー論研究会

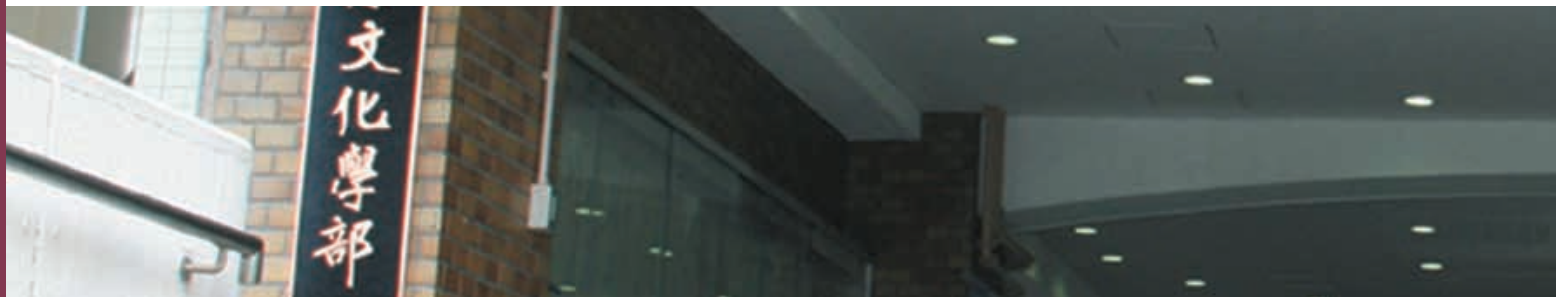
ジェンダーに関する学際的な研究交流のため、本研究科の教員と院生を中心に、関西圏の他研究科・他大学院の院生も参加して行われる研究会です。

『鶴山論叢』

『鶴山論叢』は国際文化学研究科および前身の神戸大学総合人間科学研究科の院生、研究生等の有志により執筆・運営されている学術雑誌（鶴山論叢刊行会編）です。毎年1冊のペースで冊子を発行し、既に8号を数えています。同人の研究・交流を促すイベントも開いており、多数の参加をいただいています。

論文題目

THESIS TITLES



国際文化学研究所 論文題目（平成 24 年度提出分）

※ (D) 博士論文 (M) 修士論文 (MC) 修了研究レポート

【日本学コース】

(MC) 近・現代における神社の役割と活動の変遷

【アジア・太平洋文化論コース】

- (D) 占領下の北京における日本人による女子教育
— 崇貞学園・自由学園北京生活学校・北京覚生女子中学を中心に—
- (D) 清代内モンゴルにおける農地所有とその契約に関する研究
— 帰化城トゥムト旗を中心に—
- (M) アイヌ文化の表象と実践
— 白老町における文化活動を事例として—
- (M) 新世代在日コリアンの民族学級経験を通じた葛藤とアイデンティティ形成
- (M) 国際交流活動が参加者の進路選択に与える影響
— 東南アジア青年の船事業を事例として—
- (M) 中国における外資系企業の集団争議処理メカニズム
— 日系企業における工会の役割を中心に—
- (M) 北京市房山区の韓村河村の集団保障
— 中国農村部の社会保障制度の一形態
- (M) ウイグル農村女性による中国沿海部工場への出稼ぎに関する研究
— ファイザバート県第一期出稼ぎ女性の経験をを中心に
- (M) 台湾における企業の社会的責任
- (M) 民族観光の発展と地域文化・民族意識の変容
— 彭水苗族土家族自治州を中心に
- (MC) 初期日豪関係の展開と日本イメージに関する歴史学的研究
- (MC) パナソニック（松下）の中国事業展開
— 中国とどう付き合ってきたか—

【ヨーロッパ・アメリカ文化論コース】

- (D) ウィリアム・モリスの文学作品における中世主義
- (M) エドナ・オブライエンの作品にみられるアイデンティティ形成と表出
- (MC) Charlotte Brontë and Nature : Between the City London and the Moors around Haworth
- (MC) 20世紀初期のアメリカにおけるイタリア人移民の社会統合に関する研究

【文化人類学コース】

- (M) 中国の民族テーマパークについての考察
— 山東省済南市「九頂塔中華民俗歡樂園」を事例として
- (M) 北部アボリジニ社会における「先住民」と「非先住民」
— 「問題飲酒」の事例を通して—

【比較文明・比較文化論コース】

- (MC) ラフカディオ・ハーン『骨董』と『北斎漫画』
— 挿絵の表象から見るジャポニズム—
- (MC) A.N. ホワイトヘッドの宇宙論とR. シュタイナーのゲーテ的世界観の互換性について—「観念の冒険」と「道徳的想像力」—

【国際関係・比較政治論コース】

- (M) アイルランドと小国外交論
- (M) 欧州統合の進展に伴うEU加盟国の移民政策の変容
— イタリアを事例として—
- (MC) 旧ユーゴスラヴィアの歴史政策— 国家性問題との関連性において

【モダニティ論コース】

- (M) E・フロムとフランクフルト学派
— 批判理論における精神分析学の受容をめぐる—
- (MC) 一九六〇年代後半のドゥルーズにおける革命の諸問題

【先端社会論コース】

- (MC) ニュー・クエア・シネマが抱える消費と可視性のジレンマ
- (MC) 「公共性」概念の多文脈性の整理
- (MC) 人工妊娠中絶の批判的考察

【芸術文化論コース】

- (M) ジャポニスム期における鐺へのまなざし— 林忠正とその周辺を中心に
- (M) 書と美術の境界領域— 前衛書に見る「近代化」と「伝統」—
- (M) 日本のストリートファッションにおけるコミュニケーションの歴史と現在
- (MC) パリ市ドラノエ市政の都市空間整備
— 公共空間と公共時間の視点から—
- (MC) 日本における持続可能なコミュニティアートについての考察
— NPO 法人 DANCE BOX、NPO 法人 BEPPU PROJECT を事例として—
- (MC) 地域コミュニティにたいする当事者性についての考察
— ベルリンの「社会文化センター」を事例として
- (MC) ベルリン・クロイツベルク地区のトルコ系住民における文化活動の実態
— 劇場 Ballhaus Naunynstraße と社会文化センター NaunynRitze の比較から



【言語コミュニケーションコース】

- (D) 中国における谷崎文学の翻訳に関する研究
— リライト理論の視点から —
- (D) ポライトネス・ストラテジーに関する日韓対照研究
— スピーチスタイルを中心に —
- (M) 音韻知識が日本人英語学習者のリスニングに及ぼす影響について
- (M) ベトナムにおける日本文学の翻訳についての研究
- (M) 初級日本語教科書における連語についての一考察
— 台湾人学習者の語彙指導のために —
- (M) 会話文に見られる終助詞の使用に関する一考察
— 性差と年齢差による使用実態を中心に —
- (M) 日本語教育のための複合動詞の指導法を考える
— 教科書での複合動詞の扱われ方の調査を通して —
- (M) 誘いに対する「断り」表現について
— 中国人日本語学習者と日本語母語話者の比較 —
- (M) 中国語を母語とする日本語学習者の待遇表現の習得と使用について
— 「ウチ・ソト」による敬語の使い分けを中心に —
- (MC) 日本語の感情形容詞「悲しい」の意味論的研究
— 韓国語母語話者の認識傾向に基づいて —
- (MC) 中国語を母語とする上級日本語学習者の外来語習得：その状況と問題点

【感性コミュニケーションコース】

- (D) 伝達的コミュニケーションを前提としない現代日本語の発話行為の研究
- (D) 日本語発音習得におけるシャドーイング訓練の効果
— 中国語・モンゴル語母語話者を対象とした実験音声学的考察 —
- (M) 文法論から見た「重複」のタクソノミー
- (MC) 健常成人における認知的共感度と視覚処理特性の関連

【情報コミュニケーションコース】

- (M) 中国語訛りの日本語を用いた中国人向けのリスニング学習の効果について
— 発音ソフトを用いた実験 —
- (M) IT実務人材養成課程における資格試験対策重視の効果と問題点の調査研究
- (M) 英単語学習支援システムにおける人の記憶メカニズムの活用
— 系列位置効果に着目したケーススタディ
- (M) スマートフォンを用いた屋内における位置追跡手法に関する研究
- (M) Twitterを用いた都市評価に関する研究

【外国語教育システム論コース】

- (MC) How the modality in input and exposure effects affect syntactic priming in language production in Japanese EFL learners
- (MC) 内モンゴル自治区における大学英語教育の現状と課題

【外国語教育コンテンツ論コース】

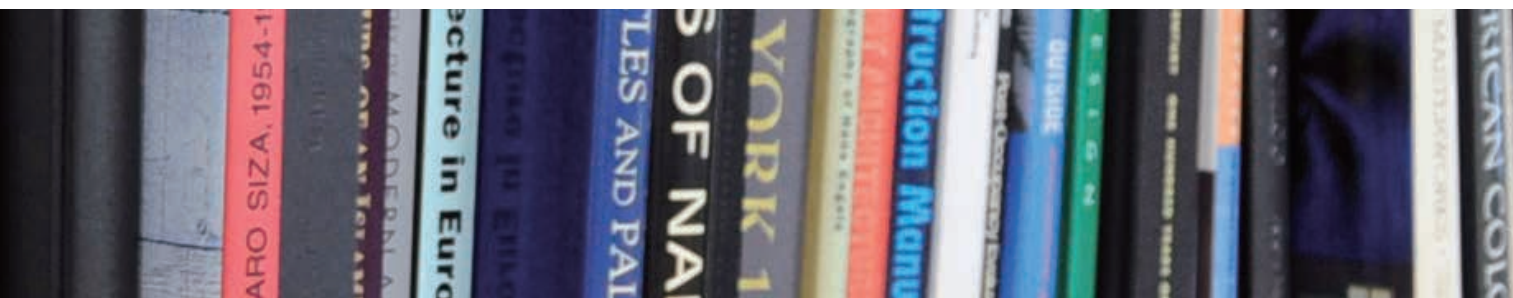
- (D) 英語母語話者と日本人学習者の英語動詞運用
- (MC) Repair in English and Japanese Bilingual Interaction
- (MC) 母語話者及び日本人学習者による基本前置詞使用
— 英語教育への応用の観点から —

国際文化学研究科教員一覽

ACADEMIC STAFF



コース	氏名	職名	メールアドレス
日本学	板倉 史明	准教授	itakura@people.kobe-u.ac.jp
日本学	長 志珠絵	教授	s.osa@people.kobe-u.ac.jp
日本学	木下 資一	教授	kinosita@harbor.kobe-u.ac.jp
日本学	昆野 伸幸	准教授	nobuyuki@port.kobe-u.ac.jp
日本学	寺内 直子	教授	naokotk@kobe-u.ac.jp
アジア・太平洋文化論	伊藤 友美	准教授	itot@kobe-u.ac.jp
アジア・太平洋文化論	王 柯	教授	wangke@kobe-u.ac.jp
アジア・太平洋文化論	窪田 幸子	教授	kubotas@people.kobe-u.ac.jp
アジア・太平洋文化論	貞好 康志	教授	ysd@kobe-u.ac.jp
アジア・太平洋文化論	谷川 真一	准教授	平成 25 年 10 月着任予定
アジア・太平洋文化論	萩原 守	教授	hagihara@kobe-u.ac.jp
ヨーロッパ・アメリカ文化論	青島 陽子	講師	yaoshima@dolphin.kobe-u.ac.jp
ヨーロッパ・アメリカ文化論	石塚 裕子	教授	ishizuka@kobe-u.ac.jp
ヨーロッパ・アメリカ文化論	井上 弘貴	准教授	hiro_inouye@port.kobe-u.ac.jp
ヨーロッパ・アメリカ文化論	小澤 卓也	准教授	ozataku@harbor.kobe-u.ac.jp
ヨーロッパ・アメリカ文化論	坂本 千代	教授	csakamot@kobe-u.ac.jp
ヨーロッパ・アメリカ文化論	谷本 慎介	教授	tanimoto@kobe-u.ac.jp
ヨーロッパ・アメリカ文化論	西谷 拓哉	教授	takuyan@kobe-u.ac.jp
ヨーロッパ・アメリカ文化論	野谷 啓二	教授	notani@kobe-u.ac.jp
文化人類学	梅屋 潔	准教授	umeya@people.kobe-u.ac.jp
文化人類学	岡田 浩樹	教授	hokada@kobe-u.ac.jp
文化人類学	齋藤 剛	准教授	t-saito@people.kobe-u.ac.jp
文化人類学	柴田 佳子	教授	yoshibat@kobe-u.ac.jp
文化人類学	吉岡 政徳	教授	yoshioka@tiger.kobe-u.ac.jp
比較文明・比較文化論	北村 結花	准教授	yuika@kobe-u.ac.jp
比較文明・比較文化論	塚原 東吾	教授	saltypenguin@whale.kobe-u.ac.jp
比較文明・比較文化論	遠田 勝	教授	mtoda@kobe-u.ac.jp
比較文明・比較文化論	三浦 伸夫	教授	miuranob@kobe-u.ac.jp
比較文明・比較文化論	山澤 孝至	准教授	yamasawa@kobe-u.ac.jp
国際関係・比較政治論	近藤 正基	准教授	kondo@port.kobe-u.ac.jp
国際関係・比較政治論	坂井 一成	教授	kazu@harbor.kobe-u.ac.jp
国際関係・比較政治論	阪野 智一	教授	sakano@kobe-u.ac.jp
国際関係・比較政治論	中村 覚	准教授	satnaka@kobe-u.ac.jp
国際関係・比較政治論	安岡 正晴	准教授	yasuoka@kobe-u.ac.jp
モダニティ論	石田 圭子	講師	keikoishida@people.kobe-u.ac.jp
モダニティ論	市田 良彦	教授	ucml@kobe-u.ac.jp
モダニティ論	上野 成利	教授	ueno@people.kobe-u.ac.jp
モダニティ論	廳 茂	教授	skc@kobe-u.ac.jp
モダニティ論	松家 理恵	教授	janjur@kobe-u.ac.jp
先端社会論	青山 薫	准教授	kaoru@tiger.kobe-u.ac.jp
先端社会論	小笠原博毅	准教授	hiroki@kobe-u.ac.jp
先端社会論	桜井 徹	教授	sakurait@kobe-u.ac.jp
先端社会論	宗像 恵	教授	munakats@person.kobe-u.ac.jp
先端社会論	山崎 康仕	教授	yy@people.kobe-u.ac.jp



コース	氏名	職名	メールアドレス
芸術文化論	朝倉 三枝	准教授	asakura@port.kobe-u.ac.jp
芸術文化論	池上 裕子	准教授	ikegami@port.kobe-u.ac.jp
芸術文化論	岩本 和子	教授	iwamotok@kobe-u.ac.jp
芸術文化論	楯岡 求美	准教授	kumi3@kobe-u.ac.jp
芸術文化論	藤野 一夫	教授	fujino@kobe-u.ac.jp
芸術文化論	吉田 典子	教授	ynoriko@kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	川上 尚恵	留学生センター講師	kawakami@sapphire.kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	齊藤 美穂	留学生センター准教授	msaito@people.kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	田中 順子	教授	jtanaka@kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	林 博司	教授	hayasi96@kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	藤濤 文子	教授	fumiko@kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	湯淺 英男	教授	yuasah@kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	米本 弘一	教授	yonemoto@kobe-u.ac.jp
感性コミュニケーション	定延 利之	教授	sadanobu@kobe-u.ac.jp
感性コミュニケーション	林 良子	准教授	rhayashi@kobe-u.ac.jp
感性コミュニケーション	米谷 淳	大学教育推進機構教授	maiya@kobe-u.ac.jp
感性コミュニケーション	松本絵理子	准教授	ermatsu@kobe-u.ac.jp
感性コミュニケーション	水口志乃扶	教授	mizuguti@kobe-u.ac.jp
情報コミュニケーション	大月 一弘	教授	ohtsuki@kobe-u.ac.jp
情報コミュニケーション	康 敏	教授	kang@kobe-u.ac.jp
情報コミュニケーション	清光 英成	准教授	kiyomitu@kobe-u.ac.jp
情報コミュニケーション	西田 健志	講師	tnishida@people.kobe-u.ac.jp
情報コミュニケーション	村尾 元	教授	murao@i.cla.kobe-u.ac.jp
情報コミュニケーション	森下 淳也	教授	jm@kobe-u.ac.jp
外国語教育システム論	加藤 雅之	国際コミュニケーションセンター教授	masakato@kobe-u.ac.jp
外国語教育システム論	島津 厚久	国際コミュニケーションセンター教授	shimazu@puppy.kobe-u.ac.jp
外国語教育システム論	廣田 大地	国際コミュニケーションセンター講師	hirotadaichi@ruby.kobe-u.ac.jp
外国語教育システム論	ピンテール・ガーボル	国際コミュニケーションセンター准教授	g-pinter@pearl.kobe-u.ac.jp
外国語教育システム論	福岡 麻子	国際コミュニケーションセンター講師	asakofukuoka@silver.kobe-u.ac.jp
外国語教育システム論	横川 博一	国際コミュニケーションセンター教授	yokokawa@kobe-u.ac.jp
外国語教育コンテンツ論	石川慎一郎	国際コミュニケーションセンター教授	iskwshin@kobe-u.ac.jp
外国語教育コンテンツ論	柏木 治美	国際コミュニケーションセンター教授	kasiwagi@kobe-u.ac.jp
外国語教育コンテンツ論	木原恵美子	国際コミュニケーションセンター准教授	emiwamoto@aquamarine.kobe-u.ac.jp
外国語教育コンテンツ論	グリア・ティモシー	国際コミュニケーションセンター教授	tim@kobe-u.ac.jp
外国語教育コンテンツ論	朱 春躍	国際コミュニケーションセンター教授	shu_s_y@koala.kobe-u.ac.jp
外国語教育コンテンツ論	柘田 義一	国際コミュニケーションセンター教授	masud@kobe-u.ac.jp
外国語教育コンテンツ論	大和 知史	国際コミュニケーションセンター准教授	yamato@port.kobe-u.ac.jp
先端コミュニケーション論	篠沢 一彦	客員教授	shino@atr.jp
先端コミュニケーション論	能田由紀子	客員教授	ynota@atr.jp
先端コミュニケーション論	山田 玲子	客員教授	yamada@atr.jp

INVITATION TO THE GRADUATE SCHOOL OF INTERCULTURAL STUDIES



About the Graduate School of Intercultural Studies

Dean's Message

The Graduate School of Intercultural Studies at Kobe University was established in 2007 when the Graduate School of Cultural Studies and Human Science was reorganized. Since the new graduate school shares its name with the Faculty of Intercultural Studies which was established in October 1992, it allows students to learn and research systematically the subject from the undergraduate to the graduate level.

People and culture have continued to blend together as a result of the spread of globalization following the collapse of the Cold War system. We ask ourselves how we should understand changes in a globally developing society and what we should make of the significance of those changes. We want to know about changes in phenomena but at the same time ask broad questions about the frameworks through which we view those changes. Above all, there is a pressing need to reconsider the frameworks for thought patterns and recognition based on the nation-state paradigm. Put another way, we should try to redefine the frameworks of humanities and social sciences, which have been systematized as studies of nation-states since modern times.

The main focus of education and research in our graduate school and faculty is the exploration from a cultural standpoint of the various aspects of transformations and continuities in the contemporary world. Intercultural Studies does not mean a single discipline. It is a new research area that approaches the common theme of how various cultures exist and relate to each other across various disciplines. The 15 courses that make up our graduate school show that providing viewpoints from various disciplines subjectively promotes that very theme.

Our graduate school was the first in Japanese national universities to advocate intercultural studies. It focuses on cultural standpoints while critically examining the effectiveness of such frameworks and strives to break through to leading-edge research fields and analytical methods. The door is open for you to develop a framework of wisdom. Now, we must discern how to build new frameworks for knowledge. We sincerely hope to work together in this endeavor with intelligent, inquisitive young researchers like you.

Our Goals and Principles

The philosophy of the Graduate School of Intercultural Studies is to cultivate advanced fields of cultural studies, with an eye towards intercultural coexistence, and to construct new paradigms for understanding human culture. To this end, we have formulated the following five research aims:

- (1) Pursuit of cultural research that understands culture as a complex entity and takes intercultural relations as its perspective.
- (2) Dynamic research into culture as a complex entity with attention to intercultural interaction in such forms as conflict, fusion, and interchange.
- (3) Multifaceted studies of cultural transformations amid the globalization of contemporary world.
- (4) Development of advanced communication research related to language and information.
- (5) Execution of a shift from monocular, single paradigms that apply over-simplistic dichotomies such as central / peripheral, civilized / uncivilized, and advanced / backward to pluralistic, multiplex paradigms, and the creation of research methodologies adapted to the cultural dynamics of contemporary society.



Professor SAKANO Tomokazu
Dean of Graduate School
of Intercultural Studies

Admission Policy, Diploma Policy

	Admission Policy	Diploma Policy
Master's Program	<p>The objective of the Kobe University Graduate School of Intercultural Studies is to nurture individuals who have deep intercultural understanding and flexible communication skills, as well as profound scholarship and creative research skills.</p> <p>In view of this educational goal, the Graduate School seeks students who have the following characteristics.</p>	<p>The objective of the Kobe University Graduate School of Intercultural Studies is to nurture individuals who have deep intercultural understanding and flexible communication skills, as well as profound scholarship and creative research skills.</p> <p>In view of this human resource development goal and the four objectives prescribed in the university-wide degree conferral policy, the graduate school awards degrees to students who have successfully completed the curriculum in line with the following two policies.</p> <p>Students shall study at the Graduate School of Intercultural Studies for two years in principle, earn the credits required for completion, and pass a review of the master's thesis or research report.</p> <p>Students of the Graduate School of Intercultural Studies are encouraged to achieve the following learning goals by the completion of the program.</p>
	<ul style="list-style-type: none"> •Have a keen interest in understanding culture as a complex entity and pursuing multifaceted studies of intercultural correlation. Have the fundamental capabilities required to achieve this. 	<ul style="list-style-type: none"> •Understand culture as a complex entity and pursue multifaceted studies of intercultural correlation.
	<ul style="list-style-type: none"> •Have a keen interest in understanding the dynamics of language and information communication and addressing various problems confronting the contemporary global society. Have the fundamental capabilities required to achieve this. 	<ul style="list-style-type: none"> •Understand the dynamics of language and information communication and address various problems confronting the contemporary global society.
	<ul style="list-style-type: none"> •Have a keen interest in carrying out interdisciplinary research based on high standards of expertise. Have the fundamental capabilities required to achieve this. 	<ul style="list-style-type: none"> •Carry out interdisciplinary research based on high standards of expertise.
Doctoral Program	<p>The objective of the Kobe University Graduate School of Intercultural Studies is to nurture individuals who have deep intercultural understanding and flexible communication skills, as well as profound scholarship and creative research skills.</p> <p>In view of this educational goal, the Graduate School seeks students who have the following characteristics.</p>	<p>The objective of the Kobe University Graduate School of Intercultural Studies is to nurture individuals who have deep intercultural understanding and flexible communication skills, as well as profound scholarship and creative research skills.</p> <p>In view of this human resource development goal and the four objectives prescribed in the university-wide degree conferral policy, the graduate school awards degrees to students who have successfully completed the curriculum in line with the following two policies.</p> <p>Students shall study at the Graduate School of Intercultural Studies for three years in principle, earn the credits required for completion, and pass the doctoral degree review.</p> <p>Students of the Graduate School of Intercultural Studies are encouraged to achieve the following learning goals by the completion of the program.</p>
	<ul style="list-style-type: none"> •Have a keen interest in clarifying the structure and dynamics of culture as a complex entity and proactively exploring an advanced field of cultural research. Have the fundamental capabilities to achieve this. 	<ul style="list-style-type: none"> •Clarify the structure and dynamics of culture as a complex entity and proactively explore an advanced field of cultural research.
	<ul style="list-style-type: none"> •Have a keen interest in pursuing various language and information communication issues and conducting multifaceted studies on the increasingly globalized contemporary world. Have the fundamental capabilities to achieve this. 	<ul style="list-style-type: none"> •Pursue various language and information communication issues and conduct multifaceted studies on the increasingly globalized contemporary world.
	<ul style="list-style-type: none"> •Have a keen interest in carrying out cross-disciplinary research based on superior expertise. Have the fundamental capabilities to achieve this. 	<ul style="list-style-type: none"> •Carry out cross-disciplinary research based on superior expertise.

Organization of the Graduate School of Intercultural Studies

15 specialized courses for interacting with society and living in the world

Departments and Divisions

When comparing and studying the nature of cultures in modern society and addressing modern issues such as cultural confrontation and conflicts, it is essential to cultivate abilities to examine cultural trends in an increasingly globalized world as well as to examine cultures of different regions and cross-cultural interaction.

Accordingly, the Graduate School of Intercultural Studies has two departments – Cultural Interaction for multifaceted elucidation of the nature and attributes of intercultural interaction based on the results of cultural research in different regions, and Culture and Globalization for elucidation of the contemporary cultural phase generated by globalization.

Consisting of the Area Studies Division for interdisciplinary studies regarding region-specific cultural traits and cultural metamorphosis, and the Intercultural Communication Division for multifaceted research on the reality of cross-cultural contacts, conflicts and interactions, the Cultural-Interaction Department aims for (1) understanding of cultures of different regions, (2) understanding of cross-cultural relations and interactions, and (3)

development of cross-cultural communication abilities.

The Culture and Globalization Department consists of the Contemporary Culture and Society Division for comprehensive research into contemporary social and cultural circumstances amid the erosion of modern Western principles accompanying globalization, the Human Communication and Information Science Division for investigation of issues involving verbal and non-verbal communication and use of diverse information media, and the Second Language Education Division for advanced research concerning second language education and production of outstanding practitioners in this field. In addition, there is also a joint research group for Advanced Communication in the Doctoral Course in cooperation with the Advanced Telecommunications Research Institute International (ATR). With these divisions and courses, we aim for (1) elucidation of acculturation brought about by globalization and the establishment of new public culture, (2) development of advanced global communication, and (3) development of foreign language education for the global era.

Department	Division	Course
Cultural-Interaction Multifaceted elucidation of the nature and attributes of intercultural interaction based on the results of cultural research in different regions	Area Studies Interdisciplinary studies regarding region-specific cultural traits and cultural metamorphosis	Japanology
		Asia-Pacific Culture Studies
	Intercultural Communication Diverse exploration of the actual status of intercultural contact, confrontation, and interchange	European and American Culture Studies
		Cultural Anthropology
		Comparative Studies of Civilization and Culture
Culture and Globalization Elucidation of the contemporary cultural phase generated by globalization	Contemporary Culture and Society Comprehensive research into contemporary social and cultural circumstances amid the erosion of modern Western principles accompanying globalization	International Relations and Comparative Politics
		Modernity Studies
		Contemporary Social Issues
		Art, Culture and Society Studies
	Human Communication and Information Science Investigation of issues involving verbal and non-verbal communication and use of diverse information media	Linguistics and Communication Studies
		Human Communication
	Second Language Education Advanced research concerning second language education and production of outstanding practitioners in this field	Computers and Communication
		Systems of Second Language Education
Joint Research Group (Doctoral Program)	Contents in Second Language Education	
		Advanced Communication

Master's Program – Two Learning Tracks to Suit Your Aspirations –

Develops key persons of international society and new researchers to lead the era

– Various styles for different goals from start to finish –

	Career Enhancement Track	Researcher Track
Entrance Exam (General Admission, Special Selection for Adult Applicants, and Special Selection for Foreign Students)	<ol style="list-style-type: none"> Basic Subjects exam * Foreign Language exam (General Admission and Special Selection for Adult Applicants) Applicants for the Japanology Course and the Computers and Communication Course may select the General Issues exam instead of the Foreign Language exam. * Japanese Language exam (Special Selection for Foreign Students) Please refer to the Application Guidelines for more information concerning application for the Computers and Communication Course, Systems of Second Language Education Course, and Contents in Second Language Education Course. Special Issues exam Oral exam 	<ol style="list-style-type: none"> Basic Subjects exam * Foreign Language exam (General Admission and Special Selection for Adult Applicants) Applicants for the Computers and Communication Course may select the General Issues exam instead of the Foreign Language exam. * Japanese Language exam (Special Selection for Foreign Students) Please refer to the Application Guidelines for more information concerning application for the Computers and Communication Course, Systems of Second Language Education Course, and Contents in Second Language Education Course. Special Issues exam Oral exam
Curriculum	<ul style="list-style-type: none"> Seminars to develop high-level skills in foreign language, information handling and presentation Students mainly take Special Lectures, which are given to a small group in an interactive manner rather than a one-way lecture. Students who have earned the required credits and submitted a research report can obtain master's degree. 	<ul style="list-style-type: none"> Tutors provide quality individual guidance (tutorial). Students mainly take Advanced Expertise Seminars to build basic skills required for a researcher. Students may take Special Seminars in the doctoral program. Students shall submit a master's thesis or master's folio (a combination of achievements).
Future career	Students will obtain master's degree and work in international fields as specialists.	The Researcher Track is for the students who intend to take the entrance exam to the doctoral program and proceed to the program. Students will become researchers or high-level specialists.

Two Educational Tracks

The doctoral program has a Career Enhancement Track and a Researcher Track. Applicants by General Admission and Special Selection for Adult Applicants shall select one of these two tracks when applying for admission. Applicants by Special Selection for Foreign Students shall select one after enrollment.

Career Enhancement Track

This track caters to students who intend to work after completing the master's program. By acquiring broad expertise and practical applied skills, students seek to develop their career to a higher level. Students can earn the master's degree by acquiring the requisite credits in courses centered on special lectures and by submitting a master's research report appropriate for their career design.

Researcher Track

This track caters to the students who intend to take the entrance exam for and enter the doctoral program. The track offers a curriculum designed to develop researchers and high-level specialists. To complete the track, students are required to take requisite credits in courses centered on advanced expertise seminars and to submit a master's thesis or a master's folio.

Academic Skill Seminars

The objective of the seminars is to effectively learn methods and techniques and acquire other academic skills required for research in various fields.

- IT Skills Development
- Academic Communication (English)
- Academic Writing (English)
- Academic Writing (Japanese)
- Social Research Methods
- Field Research
- Statistics and Quantitative Analysis Methods

Master's Folio

The master's folio is comprised of multiple research products that are loosely tied to a single theme, and which can be submitted in place of a master's thesis. As a master's folio does not have to be in the form of a single thesis, many diverse research products that would previously not have been accepted as a master's thesis – compositions, research reports, etc. – are accepted as part of a folio. This makes it easier to conduct applied research that is relevant to one's work or workplace, and because the work is divided up and presented on numerous occasions, it also allows for systematic writing and research.

Doctoral Program – Developing Independent Researchers –

For profound study in a research field

– Various and flexible support to obtain a PhD in three years –

Coursework Program	
Research theme	Theme suited for the research field of the course
Research style	Individual research
Research guidance	The whole teaching staff, especially the tutor, provides support.
Process to obtain PhD	<1st year> Present a concept in a joint seminar of the course, publish an academic article and submit a basic doctoral thesis.
	<2nd year> Publish an academic article, make a presentation at a conference and submit a preliminary doctoral thesis.
	<3rd year> Submit part of a thesis draft to a joint seminar of the course once a month and receive guidance and support from the whole teaching staff. Submit a doctoral thesis.
Expected achievements	Achievements of academic research where free thinking and creativity of individuals are tapped to the maximum

Career and Professional Development

– Career Paths to the World –

Master's Program

Cultural Interaction Department

- As a specialist -

- Specialist at an international organization such as the United Nations or JICA
- Official of various public and private organizations that plan introductions to Japanese culture and exchanges
- Cultural planner at a museum
- Junior/senior high school teacher (English) with a high level of expertise
- Planner for the cultural exchange programs of a local government unit or company
- Person in charge of training in a foreign-affiliated company or joint venture
- Leader of a regional NPO taking the lead in cultural activities and cross-cultural understanding

- As business professional with the ability to take practical actions -

- Employee at a foreign-affiliated company or joint venture
- Employee at a trading company or other type of company
- Personnel for overseas expansion of a Japanese company

Culture and Globalization Department

- As a specialist -

- Cultural policy specialist or art manager with knowledge of music, fine arts and other types of arts
- Journalist or government employee who addresses the various issues of changing modern cultures such as gender and public nature
- Junior/senior high school teacher (English) with a high level of expertise
- Employee/teacher at a language education company
- Editor of language education materials
- Researcher/specialist/advisor at a foreign student center
- Japanese language teacher
- Interpreter/translator
- Employee of a language/IT corporate laboratory

- As a business professional with an ability to take practical actions -

- Software engineer
- System engineer

Doctoral Program

Leading researchers who promote

“international cultural studies” in the world

- Researcher at an international organization/research institute
- Researcher at a national/public/corporate laboratory
- Teacher at a college/junior college/specialized vocational high school

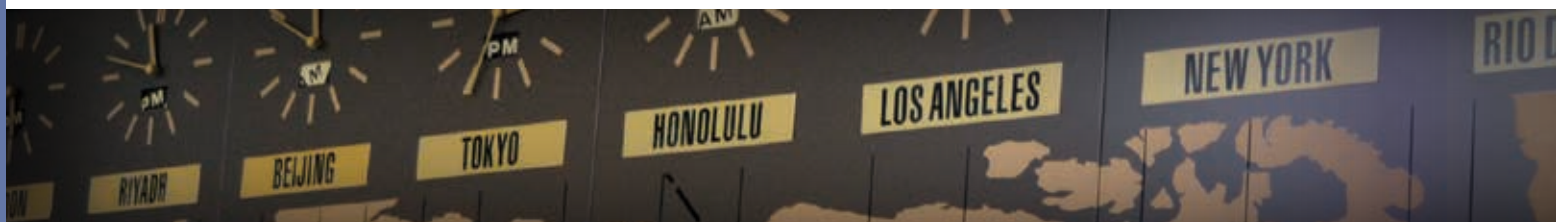
Degrees that can be obtained

- Master's Program
- Master's degree (Master of Arts)
- Doctoral Program
- Doctor's degree (PhD)

Qualifications that can be obtained (Master's Program)

- Junior High School Specialized Teacher's Certificate (English)
- Senior High School Specialized Teacher's Certificate (English)
- Curator (*Can also be obtained in the Doctoral Program)

15 DIVERSE SPECIALIZED COURSES



Japanology

In the Japanology Course, we clarify human activities in Japan from a cultural point of view while positioning Japanese culture relative to various cultures in the world. We aim to address, jointly study and learn an extremely wide range of cultural and social issues from ancient to modern times concerning literature, arts, religion and philosophy. The course also provides opportunities to improve professional skills for reading ancient papers and reviewing documents, which are often required to deepen understanding of Japanese culture and society. Moreover, the course provides specialized training to foreign students so that they can discuss Japanese culture and society by an academic process without being captivated by popular views of Japan. Our objective is to nurture individuals who can discuss Japan with specialized skills and high-level academic capabilities.

Students' research themes

Master's program: research completion report:

Research on Gender equality enterprise in Kobe, History image in Konjyaku Tales, Japanese military music before from Edo period, Japonism of the musicians who came to modern Japan, A Study of flower arrangement thought in the Edo era, A Study of Confucian scholar in the Edo era etc

Doctoral program: Research on literally origins of shrines and temples, Gods, Buddha from medieval Japan tales, The Performing Art of Hayashita folk song for rice-paddy workers, A study of Folk-Literature in connection with feudal lords in the early-modern era, A study of radio cultural policies in post-war Okinawa under U.S. military occupation

Teaching staff

Nobuyuki KONNO, Associate Professor

Subjects: Japanese Language and Culture, etc.

Research fields: Japanese intellectual history. Associate Professor Konno conducts studies on the nationalism from the 1920s to the 1940s from viewpoints with an awareness of history and religion.

Fumiaki ITAKURA, Associate Professor

Subjects: Japanese Visual Arts, etc.

Research fields: Studies on Japanese films and films in general. Based on the methodology of film study, Associate Professor Itakura studies Japanese films from international and historical viewpoints.

Shizue OSA, Professor

Subjects: Japanese Modern history, Gender history, etc.

Research fields: Studies on Modern Japanese history. Professor Osa conducts studies on the War memory and Occupied Japan.

Motoichi KINOSHITA, Professor

Subjects: Traditional Japanese Literature, etc.

Research fields: Professor Kinoshita studies traditional literature and discusses issues concerning religion, culture, society, historical awareness etc. that lie behind its transformation and development.

Naoko TERAUCHI, Professor

Subjects: Japanese Performing Arts, etc.

Research fields: Studies on Japanese traditional music and performing arts. Focusing on sounds made with the body, Professor Terauchi discusses cultures of the Japanese archipelago in relation to various cultures in Asia and other parts of the world.

Asia-Pacific Culture Studies

Going through major changes in economy and international exchanges, the Asia-Pacific region is rapidly growing. In this sense it is one of the most active regions in the world. However, just following the superficial flow of such development is not enough to understand the characteristics of the region. East Asia, Southeast Asia and the Pacific Area all have extremely complex and diverse old traditions, and have become what they are as such tradition has changed with the wave of globalization. Therefore, in order to have a deep understanding of the characteristics of the region, we need to conduct specialized in-depth studies on many aspects including social structure, religion, history and economic circumstances. This course has a well-established guidance system where professors with diverse specialties teach research methods in classes on a broad range of research fields.

Students' research themes

- Development of child welfare programs in China
- Studies on Thai wives who have Japanese husbands
- Naxi native official surnamed Mu in Lijiang, Yunnan during the Ming Period 14-17 centuries
- College students' conflicts about love and sex in Indonesia
- Studies on secretaries and the training of secretaries in Outer Mongolia in the Qing period

Teaching staff

Tomomi ITO, Associate Professor

Subjects: Culture and Society in Southeast Asia, etc.

Research fields: Regional studies on Southeast Asia, Thai studies, studies on Buddhism and women

Ke WANG, Professor

Subjects: Culture and Society in China, etc.

Research fields: History of Chinese modern thought, ethnic issues

Sachiko KUBOTA, Professor

Subjects: Culture and Society in Oceania, etc.

Research fields: Oceanic cultural anthropology

Yasushi SADAYOSHI, Associate Professor

Subjects: National Integration in Southeast Asia, etc.

Research fields: Modern history of Indonesia, studies on overseas Chinese

Shinichi TANIGAWA, Associate Professor

Subjects: Politics and Society in China, etc.

Research fields: Political and social movements in China, Changes in the state-society relations in China

Mamoru HAGIWARA, Professor

Subjects: Culture and Society in Mongolia, etc.

Research fields: Oriental history, especially Mongolian and Chinese history from the Qing period to the present

European and American Culture Studies

In the European and American Culture Studies Course, we conduct multifaceted and comprehensive education and research on European and American societies and cultures, which have been playing a central role in world politics, economy, culture etc in modern times. Although the cultures developed in these regions spread worldwide, it is common knowledge that it is now critically reexamined. Moreover, there has recently been progress in studies on the societies and cultures in Europe and America that only played a peripheral role in establishing the modern era. Based on these past achievements, we reexamine the Western thoughts and values that seem deeply rooted in our modern lives and consciousness, and seek their meanings in the 21st century. We want to reveal the unknown depths of Europe and America through a course of concrete studies in a wide range of fields including history, language, religion, philosophy, literature, art and social system.

Students' research themes

The "German Legends" of the Grimm Brothers, A Study on William Morris, Acceptance of Victorian Culture in "Harry Potter", Modern French Fashion, Czech Romani Literature, Czech Baroque Studies, A Study on C. Bronte Establishment of the Mirandese language, Analysis of Visual Gags in I Love Lucy, Stereotype of the Japanese People in Hollywood Movies, Problems of Italian Immigration in America, Pacifism, Isolationism and Populism in the United States of America during Interwar Periods

Teaching staff

Yoko AOSHIMA, Lecturer

Subjects: Culture and Society in the Slavic World, etc.

Research fields: Professor Aoshima studies the modern history of Russia and Eastern European countries. She is specially interested in modernizing reforms, social transformation and emergence of nationalisms in the area.

Hiroko ISHIZUKA, Professor

Subjects: English Civic Culture, etc.

Research fields: Professor Ishizuka mainly studies the cultures, society and literature of Victorian England. She is interested in novels by Dickens, Gaskell, Gissing, etc. and looks from various angles into the cultural and social matters of general interest at the time, including social issues, the royal family, leisure, education, gender and fine arts.

Hirohiko INOUE, Associate Professor

Subjects: Formation of a Multiracial Society in the United States, etc.

Research fields: Based on politics, Professor Inoue conducts American studies with a focus on the history of intellectuals and democracy in the United States from the end of the 19th century to the 20th century.

Takuya OZAWA, Associate Professor

Subjects: Latin America and Global History, etc.

Research fields: Professor Ozawa specializes in Latin America, especially the modern history of Central America. He studies ethnic issues and culture concerning export crops that largely regulate the society of Central America.

Chiyo SAKAMOTO, Professor

Subjects: Representations of French Culture, etc.

Research fields: Professor Sakamoto specializes in French literature with special interest in French female writers and their works. She studies French female writers of the 19th century including George Sand and Marie d'Agout, romanticism, Jeanne d'Arc, etc. A wider range of issues will be addressed in her class, such as the history and representations of European women.

Shinsuke TANIMOTO, Professor

Subjects: Cultural Expression in Germany and Austria, etc.

Research fields: Professor Tanimoto studies modern European culture. Focusing on Wagner and Nietzsche, he aims to elucidate the reality of "cultural crisis" in Europe from the time of romanticism to the end of the century.

Takuya NISHITANI, Professor

Subjects: Literary and Visual Culture in North America, etc.

Research fields: American literature, especially Herman Melville, Nathaniel Hawthorne, and other writers of the American Renaissance; film studies, especially adaptation studies and comparative studies in the narrative representation in film and literature.

Keiji NOTANI, Professor

Subjects: Advanced Seminar in Religion and Culture in Britain, etc.

Research fields: Professor Notani conducts studies the relation between Christian religion and English and American culture/literature. He wants to see how religion is involved in the formation of culture and view religion as an identity component for individuals and culture.

Cultural Anthropology

In the Cultural Anthropology Course, teaching staff specialized in various themes and regions provide a high-quality education and research curriculum. Today's various cultural issues are characterized by the dynamism of the conflict, division, integration, reconciliation, generation and extinction of various cultures and values under the influence of globalization. In the course, we jointly consider methods of allowing dialogues among various cultures based on deep intercultural understanding, by viewing the world from down-to-earth research investigation field work with broad and flexible perspectives. We welcome students who wish to be internationally successful specialists and researchers and foreign students who wish to conduct high-level anthropological studies.

Students' research themes

Master's program: cargo cult, Kazakh identity, tourism, multicultural orientalism, post-Soviet period, postcolonial, status of women in China, Boze in Akuseki Island, local Hawaiian, Peruvian living in Japan, primitive art, kula trade, fare trade in Bangladesh, Education of Nation-State, Over Sea Korean, International marriage, Vietnamese in Japan, Cultural Heritage, World Heritage, Murti-culturalism in Japan, Nikkei in Argentine, Korean American, Hispanic, bilingualism, Chinese American, Caribbean in America, Brooklyn Carnival, Native Canadian, sustainable tourism, ethnic media, multiracial in America, ethnic identity, South Americans in Japan, Nikkei Brazilian, Nikkei Hawaiian, life history, diaspora, transnationalism, Dominican baseball migrants, Pentecostalism in Jamaica, Rastafarian, Christianity and contextualization, development and women in Mexico, participation and development
Doctoral program: cultural authenticity, Aneityum of Vanuatu, historical anthropology, refugee, Karenni, homestay, the Experiment in International Living Care and Family of Korea, Social Change of Korean Village in China, Feminization of Migration, Over-Sea Chinese in Vietnam, Anthropology of Tourism on Vietnam, masculinity, gender in the Caribbean, popular music, reggae, soca, dancehall, identity politics, mixed race, 'Hafu', representation

Teaching staff

Kiyoshi UMEYA, Associate Professor

Subjects: Ethnology, etc.

Research fields: Social anthropology, East African ethnography, studies on witchcraft and sorcery, Japanese folk-religion, anthropology of development

Hiroki OKADA, Professor

Subjects: Ethnography, etc.

Research fields: Societies in East Asia okada and Vietnam, re-organization of families and religions in the process of colonization and modernization, minorities and multiculturalism, Space Anthropology.

Tsuyoshi SAITO, Associate Professor

Subjects: Cultural Anthropology, etc.

Research fields: Social anthropology, Middle Eastern ethnography, anthropological Islamic studies, Morocco

Yoshiko SHIBATA, Professor

Subjects: Modern Anthropology, etc.

Research fields: Cultural anthropology, Caribbean studies, diaspora, creole/ hybridity, race/ ethnicity, migration/ mobility, globalization, Christian studies, education

Masanori YOSHIOKA, Professor

Subjects: Social Anthropology, etc.

Research fields: Cultural anthropology, Oceania studies, cities and urban culture, anthropological studies on primitive arts.

Comparative Studies of Civilization and Culture

In this course, we deal with various aspects of civilization and culture that transcend the boundaries of various matters such as geography and language, and conduct comparative studies from a historical point of view concerning the dynamism of the transformation brought about by the transmission and propagation of such aspects with a focus on scientific and technical civilization and linguistic culture. With the asymmetric nature of advantages and disadvantages in civilization and culture in mind, we focus on such aspects as resistance, prejudice and creation underlying the phenomena considered to be unilateral acceptance, and aim to deepen our understanding of the interactions of such aspects and the bidirectionality of transformation based on the latest studies.

Students' research themes

Master's program: Foreigners in Meiji Japan, Text-Image Relations in the Classics, Gardens in Myths, View of Nature, Environmental Issues, Food and Toxic Chemicals, Whitehead's Philosophy of Organism, Xu Guang-qi's View on Mathematics

Teaching staff

Yuika KITAMURA, Associate Professor

Subjects: Translating Classical Literature, etc.

Research fields: The reception of classical Japanese literature in modern times with a focus on the "Tale of Genji."

Togo TSUKAHARA, Professor

Subjects: Science, Technology and Society, etc.

Research fields: Professor Tsukahara studies science history and technological societies.

Masaru TOHDA, Professor

Subjects: Japan-US Cultural Exchange, etc.

Research fields: Professor Tohda specializes in the studies on comparative literature and comparative culture with a focus on Japan-US cultural exchange in the Meiji era. He has written research papers concerning Lafcadio Hearn, Sosuke Natsume and Masuji Ibuse.

Nobuo MIURA, Professor

Subjects: Science, Technology and Civilization, etc.

Research fields: Although his specialty is science history, Professor Miura encourages students to select interesting themes concerning Islam, Judea, medieval times in the West and the Renaissance.

Takayuki YAMASAWA, Associate Professor

Subjects: Transcultural Studies in the Ancient World, etc.

Research fields: Ancient Greek and Roman Cultures. As it is not archeology, the class will not excavate ruins and receive a lot of media coverage. It is unspectacular philology, but Associate Professor Yamasawa believes there is still a lot we can learn from the documents left by ancient people.

International Relations and Comparative Politics

We welcome students who are looking for chances to study Japanese politics and foreign affairs. You would consult with one of five professors of this department who are specialists in international relations, international political economy, security studies, public policies and urban administration. The area of research fields of graduate students are varied covering such countries as Japan, China, India, Europe, America, Middle East, etc. The staff, along with graduate and undergraduate students will be actively engaged in research work in line with the international standard. Students can master a variety of methodologies and approaches through the team teaching method run by five academic staff. Please feel free to contact us if you have any questions. This department offers foreign students the opportunity to study the internal politics and diplomacy of their home country from a comparative perspective.

Students' research themes

Thematic approach: Regional integration, Preventive diplomacy, Conflict and Peace building, Security, Ethnopolitics, Party politics, Democratization, Welfare state, Educational policy, Transnational relations, Contemporary history of International relations

Regional approach: EU studies, French politics, British politics, German politics, Spanish politics, Italian politics, Politics in Northern Europe, American politics, Politics in the Middle East, Politics in ex-Yugoslavia, Indian politics, Sino-Japanese relations, Sino-American relations

Teaching staff

Kazunari SAKAI, Professor

Subjects: International Relations in Europe, EU-Japan Relations, etc.

Research fields: Development and issues of European integration, ethnic issues and conflict prevention, contemporary French politics and diplomacy

Tomokazu SAKANO, Professor

Subjects: Comparative Politics, etc.

Research fields: European integration and domestic politics and economy, transformation of the re-organization process of a welfare state, contemporary modern British English politics, party politics

Satoru NAKAMURA, Associate Professor

Subjects: Security Study in the Middle East, Middle Eastern Politics and History, etc.

Research fields: Preventive Diplomacy in the Middle East, Middle Eastern Political economy, Saudi Arabian History

Maraharu YASUOKA, Associate Professor

Subjects: Comparative Public Policy, American Politics, etc.

Research fields: Comparative Public Policy, American Politics and Government, Urban Politics Contemporary modern American politics (especially the federal system and urban issues)

Masaki KONDO, Associate Professor

Subjects: Comparative Welfare Studies, etc.

Research fields: Contemporary German politics, politics of the Japanese welfare state, immigration and welfare state



Modernity Studies

The basic framework of our contemporary society consists of three distinct realms, the techno-economic structure, the polity, and the culture. The ruling principles of these three realms, such as functionary rationality, the idea of equality, and expression & realization of "self," originated in Western Europe with the arrival of the modern period. Today, however, these principles are proved to be discordant and are being shaken to their roots along with the progress of globalization. This situation demands a re-examination of the meaning of "modernity" and an accurate reading of just where the world is (should be) heading in the ongoing upheaval. The Modernity Studies Group covers a wide range of disciplines from social thought, economic thought, and political thought to aesthetics, literature and visual arts. Through careful analysis of the prevailing principles of the three realms of the modern world, we aim to cultivate firmly grounded capabilities of cogitation that are required for tackling actual issues in our society.

Students' research themes

Master's program: M. Foucault, "multitude," "power," "events," Hannah Arendt, totalitarianism, fascism, "the political," reification, modern culture, religion, "lifeworld" etc.

Doctoral program: Ernst Junger, "technology," Niklas Luhmann, social system theory, Herbert Spencer, modernization of Japanese society, D. H. Lawrence, eco-criticism

Teaching staff

Keiko ISHIDA, Lecturer

Subjects: Cultural Discourse, etc.

Research fields: Aesthetics and history of art theory. Lecturer Ishida conducts her studies under such themes as the relations between art and politics in modern times and the artistic communication with others. Her research papers include "Gestalt and <Art - Political Community>" ("Theory of Criticism and Social Theory 1: Aisthesis," Ochanomizu Shobo), etc.

Yoshihiko ICHIDA, Professor

Subjects: Modern Economic Thought, etc.

Research fields: Social thought. Professor Ichida studies philosophical segments of politics, economy and culture, with a focus on the contemporary French thought of Althusser, Foucault and Deleuze. His books include "Althusser: Philosophy of a Connection."

Naritoshi UENO, Professor

Subjects: Modern Political Thought, etc.

Research fields: History of political and social thought. Professor Ueno analyses such key concepts as "violence," "liberty" and "public sphere" in the form of social philosophy, focusing on the history of thought concerning the philosophers of the Frankfurt School including Horkheimer and Adorno. His books include "Frontier of the Thought - Violence" (Iwanami Shoten).

Shigeru CHO, Professor

Subjects: Modern Social Thought, etc.

Research fields: History of sociology and social thought. Professor Cho analyzes the meanings of such complicated concepts as society, history, culture and life in modern thought, based on the studies on the history of social thought of the Frankfurt School philosophers including Simmel, Weber and Tönnies. His books include "Human Science of Simmel" (Bokutakusha).

Rie MATSUUYA, Professor

Subjects: Cultural Representation, etc.

Research fields: English literature and cultural and social history of Britain. Professor Matsuya explores the contemporary meanings of Romanticism with a focus on the changes in views of nature as well as the artists' relation to the society. Her books include "Keats and Apollo: Keats' Poems and Greco-Roman Mythology" (Eihosha).

Contemporary Social Issues

In modern society, the interaction of humans with nature has been seriously undermined and is becoming increasingly complex. The objective of the "Contemporary Social Issues"-course is verification through an interdisciplinary approach that crosses the humanities and social sciences in exploring leading issues in modern society. For example, we analyze the changes in thinking surrounding nation states, families and individuals from the perspective of gender theory to capture socially constructed human relations; explore the fluctuation of norms surrounding human life and death; envision an equitable solution to global challenges such as overpopulation, competing demands on medical resources, etc.; seek to understand human nature and society in a multicultural world faced with informatization of the consumer society facilitated by innovation in media technology. The "Contemporary Social Issues"-course theoretically disentangles these conflicting problems, and provides a means of tackling these problems realistically.

Students' research themes

- Gender division of labor in the home in urban China
- Euthanasia seen from the perspective of the right to self-determination
- Why is choosing the sex of a child unacceptable: "Medical treatments surpassed" concerning gender selection
- Racism in dance hall reggae
- The modern meanings of community and ecology
- "Foreign crime" and nationalism in becoming-multicultural Japanese society
- NPO/NGO network media: Is accessing the public sphere possible through the Internet?
- Occupation and sexuality: GHQ's policy-making on prostitution (Doctoral dissertation)
- A functional analysis of masochism and its potential: Towards the (re)-construction of women's sexual autonomy (Doctoral dissertation)
- Changes of heart and the development of moral individualism (Doctoral dissertation)

Teaching staff

Kaoru AOYAMA, Associate Professor

Subjects: Special Lectures on Gender and Social Culture Theory, etc.

Research fields: Studying sociology, gender and sexuality. Associate Professor Aoyama is also interested in issues such as globalization, multiculturalism, social exclusion and inclusion, the right to intimacy and representation. She is pursuing a combination of theoretical and empirical research methodologies to look into phenomena that cause changes across public and private life such as immigration, care / sex workers, same-sex marriage, and gender identity "disorder."

Hiroki OGASAWARA, Associate Professor

Subjects: Special Lectures on Media, Society and Culture, etc.

Research fields: Associate Professor Ogasawara is studying sociology and cultural studies. He discusses validating empirical, theoretical and historical thoughts regarding the relationship between multicultural capitalism and racism, especially in the fields of media and sport.

Tetsu SAKURAI, Professor

Subjects: Special Lectures on Contemporary Jurisprudence, etc.

Research fields: Professor Sakurai's speciality is legal philosophy, and he is particularly engaged in "global justice," i.e., how we should understand the meaning of national borders when we must address many global issues such as absolute deprivation, economic disparities, human rights violations and environmental pollution. He is now working on the problem of whether the establishment of national identity is a necessary prerequisite for the stability of democracy.

Satoshi MUNAKATA, Professor

Subjects: Special Lectures on Cultural Norm Formation Theory, etc.

Research fields: Within the problems related to the norms of contemporary culture, Professor Munakata is currently exploring the fluctuations observed along with the formation of new norms concerning gender. He is examining issues surrounding modern gender norms within major trends in modern thought.

Yasuji YAMAZAKI, Professor

Subjects: Special Lectures on Life Norm Formation Theory, etc.

Research fields: Professor Yamazaki has been studying the problems in the boundary region between laws and ethics/morals with a focus on the issues that occur when morality and ethics continue to be institutionalized in law in bioethics-related areas and questions over human embryos, surrogacy, brain death, etc.

Art, Culture and Society Studies

Art and Culture Theory Courses are configured from an arts and culture environment system and content-based arts and culture. Research is conducted on fine art (painting), literature, performing arts (music, opera, theater), and fashion art and how they are related to society.

In content-based arts and culture, social awareness and the worldview reflected through analysis of artwork are considered. In the arts and culture environment system, art management connecting the arts and society is examined and the grand design of cultural policies, considering factors such as the guarantee of the right of easy access to art and actual cultural facility management are compared internationally.

In this course, we welcome candidate students, regardless of their undergraduate major, who are interested in art and supporting its environment as well as those who are keen to undertake specialist learning.

Students' research themes

Master's program: Local community, Public theater organizational management, Network formation between non-profit organizations, Community art, Social and Cultural Center in Berlin, Civic activities and cultural policy in Sweden, City space improvement in Paris, Church building during the Russian Imperial Period, Japonism, Tadamaso Hayashi, French Impressionist painter Gustave Caillebotte, French Women Writer, Japanese avant-garde calligraphy and abstract expressionism painting, Women and modes in France, Japanese Street Fashion, etc.

Doctoral program: Cultural Policy and social inclusion, Modern advertising in Japan, Daumier and the modern city of Paris, Acceptance of modern French music in prewar Japan, Formation of Japanese ceramics collections in France and the trade between Japan and France, Kenji Miyazawa and the optics.

Teaching staff

Mie ASAKURA, Associate Professor

Subjects: Special Lectures on Contemporary Art Social Theory, etc.

Research fields: She specializes in the history of western clothing and is conducting research on the art and culture of modern Europe with a focus on cuts of fashion from France. She is promoting discussion about the relation of art and fashion especially from the second half of the 19th century to the early 20th century. She also has interests in body theory, brand culture theory and the history of Franco-Japanese exchanges.

Hiroko IKEGAMI, Associate Professor

Subjects: Special Lectures on Modern and Contemporary Art

Research fields: She specializes in post-1945 American art and its global impact, but she also conducts research and writes about postwar Japanese art. She is currently working on post-WWII cultural exchange between the United States and Japan and its relationship to cultural diplomacy in the Cold War period.

Kazuko IWAMOTO, Professor

Subjects: Special Lectures on Intercultural Art Theory, etc.

Research fields: Her research interests are French-speaking culture, particularly 19th century French literature and the problems of cultural identity and cultural policy in neighboring multilingual Belgium.

Kumi TATEOKA, Associate Professor

Subjects: Special Lectures on Art and Cultural Representation Theory, etc.

Research fields: She has been researching the relationship between society and artistic expression in Russia and the Soviet Union as the experimental space of utopian thought in 20th century. Her speciality is Russian theater and cultural history. She is also interested in the simulative function of art in modern society.

Kazuo FUJINO, Professor

Subjects: Special Lectures on Cultural Environment Formation Theory, etc.

Research fields: He is working on both theory and practice in music culture, cultural policy and art management. In recent years art has been noted as a tool for community revitalization and the realization of creative cities, but he wants to make clear that the public value of the arts is more diverse.

Noriko YOSHIDA, Professor

Subjects: Special Lectures on Cultural Representation Correlation Theory, etc.

Research fields: Her speciality is modern French literature and art, but she is also interested in visual culture and sociocultural history of the West and Japan. She is also interested in comparative culture, the history of Franco-Japanese exchanges and gender studies.

Linguistics and Communication Studies

Rather than a mere means of communication to convey concepts and messages to another party, "language" is also closely related to culture and human cognition, thinking and customs. This course seeks for an effective method of teaching Japanese to foreigners based on comparative and contrastive analysis related to language structure and language usage. Language and cultural analysis and methodologies are developed for second language acquisition and translation/interpretation, and we are working on solving the problems of cross-cultural communication, which is becoming essential with the progress of globalization. This course aims to train human resources who have education and research abilities through various lectures and exercises related to verbal communication leading from basic to advanced levels.

Students' research themes

Master's program: Modality in Thai, Fillers in Japanese and French, Rhetoric, Persuasion, Words written in Katakana, Translation of onomatopoeia in comics, Bilingualism, Social aspect of Japanese language education, etc.

Doctoral program: Compound verbs, Rhetoric of fiction, Translation of Japanese literature in Vietnam, Contrastive study of verbs in Japanese and Chinese, Acquisition of L2 morphosyntax, Historical study of Japanese language education, etc.

Teaching staff

Naoe KAWAKAMI, Lecturer

Subjects: Special lecture on applied teaching Japanese, etc.

Research fields: My research field is the historical study of Japanese language education. In particular, I am interested in the historical progress of Japanese language education in China. I currently analyze educational materials and curriculum, etc., based on the history and social systems in China from the 1930s to 60s. I am also concerned with the practice research on Japanese language education.

Miho SAITO, Associate Professor

Subjects: Special lecture on means of teaching Japanese, etc.

Research fields: I am currently researching modern Japanese grammar, including regional dialects. In addition, I have a strong interest in the field of teaching/learning Japanese as a foreign/second language. I am planning to carry out researches on teaching methods and coursework of Japanese based on the result of the research on Japanese grammar and my own practice of teaching Japanese.

Junko TANAKA, Professor

Subjects: Special lecture on second language acquisition (SLA) theory, etc.

Research fields: Her research interests include the role of feedback and output in SLA processes and the role of individual differences in SLA such as age, language aptitude, and motivation. Her current research project deals with how a concept in a second language (L2) that does not exist in the learners' first language (L1) can be correctly or incorrectly segmented and mapped onto L2 morphology. She is also interested in classroom SLA as well as SLA in naturalistic or multilingual contexts.

Hiroshi HAYASHI, Professor

Subjects: Special lecture on comparative linguistics, etc.

Research fields: Japanese and Romanic languages (particularly French and Romanian), as well as researching the universality and individuality of languages through comparing and contrasting them. My fields are classifying systems, modalities and meanings, as well as expressions meant to show emotion.

Fumiko FUJINAMI, Professor

Subjects: Special lecture on translation studies, etc.

Research fields: The main themes are general practical theories on using translation for intercultural communication, and how to adapt it in detail to actual translation (especially between Japanese, German and English). I also have a keen interest in how to realize translations across cultural differences, and what effect the audience, media and goal have on translation work.

Hideo YUASA, Professor

Subjects: Special lecture on forms of commonly used words, etc.

Research fields: I am interested in what sort of syntax is preferred in Japanese and English, German etc. What effect it has on a native speaker's thought process, and what purpose it serves in communication. Another goal is a typology-based look at the similarities and shared points between languages.

Koichi YONEMOTO, Professor

Subjects: Special lecture on Rhetorical Communication Theory, etc.

Research fields: I am interested in the uses of figures of speech (rhetoric) to convey thoughts and emotions effectively. I deal with anything that uses words to express something, such as daily conversation, newspapers, magazines, advertisements and so forth. I particularly have an interest in the rhetoric used in literature, especially fictional works.

Human Communication

Human Communication Program presents a wide range of opportunities for research about communication based on human sciences and cognitive sciences. Students can learn advanced knowledge of communication by studying phonetics, semantics, interface studies, psycholinguistics, psychology, and neurology.

A PhD candidate must learn basic skills of statistics and will be advised to master an advanced level of statistics. Research should be performed through evidence-based studies. You have to gather enough data in both quality and quantity before you come to a conclusion.

Our M.A. program is divided into two tracks; the career enhancement track and the researcher track.

Carrier enhancement track is aimed at students who want to develop skills for a career outside of academic societies. Students will acquire up-to-date knowledge and research skills. Students, with guidance from professors and senior students will submit an MA report.

The researcher track is more aimed at students who want to go on to do a Ph.D. with more focus on research skills than the Career enhancement track. The other main difference is that students submit a M.A. thesis to complete the course.

Students' research themes

- The influence of working memory contents on visual search.
- Cueing effects of target location probability and repetition.
- A Japanese-Chinese comparison on syntax and sentence delivery
- The traits of tandem learning, seen from scenes of language output difficulties
- Changes in prosody caused by shadowing training of Japanese
- Recognition and acoustic features of attitudes realized in Chinese

Teaching staff

Toshiyuki SADANOBU, Professor

Subjects: Special lecture on Communicative Grammar Theory, etc.

Research fields: My main interest is through examination of the views on languages, communication and speech by considering human communicative grammar collectively, from the standpoints of both processing information, and social interpersonal interaction.

Ryoko HAYASHI, Associate Professor

Subjects: Special lecture on linguistic behavioral science, etc.

Research fields: Speech science, psycholinguistics. I am researching phonetics in Japanese and other languages as well as experimental solutions to the difficulties in pronunciation for foreign languages. Also, I am interested in speech disabilities, linguistic development and the difference in teaching speech communication between countries.

Kiyoshi MAIYA, Professor

Subjects: Special lecture on interpersonal behavioral science, etc.

Research fields: Interpersonal communication, experimental psychology. Interpersonal interaction is a treasure trove of dilemmas and paradoxes. Misunderstandings, misinformation, mistrust and confusion are the key words. Interpersonal communication is important, but difficult to handle. I research it further through behavioral science. I currently research training for interpersonal skills and cultural differences in facial expression and emotion.

Eriko MATSUMOTO, Associate Professor

Subjects: Special lecture on Neuropsychology and Communication, etc.

Research fields: Cognitive psychology, neuropsychology, and cognitive neuroscience. I am interested in how human brain represents the higher-cognitive functions such as the visual perception, attention, and social interactions. I would like to make it clearer through brain imaging techniques and experimental psychological methods. I am also interested in the effects of emotional stimuli on cognitive process.

Shinobu MIZUGUCHI, Professor

Subjects: Special lecture on Linguistic Interface Theory, etc.

Research fields: Semantics, and semantics/prosody interface. Semantics, especially, the numeral systems of classifier languages in Asia, is my field. Semantics/prosody interface and L2 prosody learning are also of my interest. Interface study is one of the most effective methods to investigate the complex system of human cognition.

Computers and Communication

The Computer Communication course is a course on using information technology, such as computers and the Internet, for teaching and research. This course teaches the latest online information skills, collection, analysis and sorting of communicative information on computers, and other such immediately useful high-level information processing skills, which will also allow more effective communication in future.

Students' research themes

Analysis of the forms of study in branches of information, Automated classification of literature XML searching method Learning system for IT specialists Error-checker in foreign language learning systems, Utilization of memory mechanism in learning systems, Bottom-up question support system, Communication-based city rating, Reverse onomatopoeia dictionary, User interface, Communication assistance

Teaching staff

Kazuhiro OHTSUKI, Professor

Subjects: Special lecture on Computer Communication System Theory, etc.

Research fields: Research relating to info-communication systems. The Great Hanshin-Awaji Earthquake made it painfully clear that there is a gap between the viewpoint of those using the information, and those building information distribution systems. As such, I've come to place a heavy emphasis on the position of those on the scene.

Min KANG, Professor

Subjects: Special lecture on Computer Simulation Theory, etc.

Research fields: The adaptation of information communication technology to computer education and foreign language education. In particular, I am focusing on using statistics-based approaches to extract the user's preferences and give them the information that suits their needs.

Hidehiko KIYOMITSU, Associate Professor

Subjects: Special lecture on information base theory, etc.

Research fields: I aim to use data at a higher level, through web information systems and databases. The theme is being able to personalize output for each user based on time, place, user profile, access history and so forth.

Takeshi NISHIDA, Lecturer

Subjects: Special lecture on computational science adaptation theory, etc.

Research fields: I am researching human-human interaction using info-communication technology, as well as human-computer interaction. In particular, I put focus on (1) developing systems based on reflection of common communication problems such as the difficulty of reaching consensus, giving criticism, or talking in foreign languages, and (2) learning from testing systems developed in actual situations.

MURAO, Professor

Subjects: Special lecture on Cognitive Information System theory, etc.

Research fields: Using "soft information processing" technology and multi-agent systems to research the intelligent actions of humans and other groups of living things, analyzing and adapting the results. The targets include small groups of individuals, society, the economy, and the Internet.

Junya MORISHITA, Professor

Subjects: Special lecture on Overall Media Theory, etc.

Research fields: I focus on database systems that store and make use of information. However, I am looking into a "soft" database system. In other words, instead of the typical database dealing with correct, rigid, complete and simple data, I aim for one that works with vague, complex, soft, incomplete data, with room for growth.

Systems of Second Language Education

In Foreign Language Education Systems, we research the fields of linguistics, psychology, expression and media analysis as they relate to foreign language education, developing students' ability to link them together and employ them in teaching foreign languages. In particular, in the field of educational research, we focus on:

- (1) researching linguistic education by applying knowledge of linguistics, psychology and related fields
- (2) researching broad methods of teaching literary culture and the works that reflect them, as well as adapting this to teaching languages
- (3) demonstrating research relating to preparing an environment for linguistic education, such as IT education systems
- (4) researching the environmental, cultural and societal bases of linguistic education
- (5) assisting research on support in the teaching scene, such as demonstrations of educational guidance

Students' research themes

Master's program: Japanese EFL learners' use of morphosyntactic information during sentence processing: An eye-tracking study on grammatical encoding during L2 sentence production

Doctoral program: Modeling Morphological Representations of the Mental Lexicons of Japanese EFL Learners

Teaching staff

Masayuki KATO, Professor

Subjects: Special lecture on linguistic teaching environments, etc.

Research themes: English education. I am researching methods of effective class arrangements using the web and computers, and the state of foreign language professors and World Englishes on a cultural and societal level.

Atsuhisa SHIMAZU, Professor

Subjects: Special lecture on cultural-linguistic expression, etc.

Research fields: Modern American literature. I am particularly interested in Jewish American literature, and am attempting to decipher Bernard Malamud's novels and short stories from the perspective of expression.

Daichi HIROTA, Full-time Lecturer

Subjects: Special lecture on lingua-cultural environment I, etc.

Research fields: French literature. My object of study is modern French poetry represented by Baudelaire, and I am trying to describe his poetics from a linguistic viewpoint. Besides, I am interested in literary criticism and language teaching through the use of web and computer.

Gabor PINTER, Associate Professor

Subjects: Special lecture on scientific linguistic theory, etc.

Research fields: Phonetic theory, speech science, theoretical linguistics, information processing and speech education. The goal of this research is to list and explain the traits of auditory speech and the composition of speech through an academic model.

Asako FUKUOKA, Full-time Lecturer

Subjects: Special lecture on lingua-cultural environment II, etc.

Research fields: My object of study is modern Austrian literature and drama, especially a novelist Elfriede Jelineck. I deal with the themes of memory and evocation of calamity in literature, the relationship of visionary art to written art, and the physicality of text. I welcome students who want to speculate, in a long-term perspective on the possible (dynamic) relationship between language art and society, and on the significance and necessity of studying foreign literature.

Hirokazu YOKOKAWA, Professor

Subjects: Special lecture on linguistic educational science theory, etc.

Research fields: English education studies and psycholinguistics. My main research themes are L2 reading, writing, speaking and listening as well as the cognitive mechanisms for vocabulary, and how all of this might be adapted for practical applications in classes.

Contents in Second Language Education

The Contents in Second Language Education course is aimed at training people who can take an active role in innovating language education by conducting research into the content and method of Applied Linguistics. In this course, we work with an academic base of linguistics (corpus linguistics, cognitive linguistics, pragmatics, conversation analysis, speech science, grammar, education, educational science and class theory) and emphasize research with a focus on practical use in the field of education. Through a multifaceted approach to the challenges of teaching other languages, students in this course will be sought after by education agencies all over the world. Even if you haven't specialized in linguistics in your undergraduate studies, this course welcomes any student with a desire to contribute to the globalization of society through second language education.

Students' research themes

Master's program: English intensifiers, English collocation, English causative verbs, English activating expressions, First and third person German verbs, Japanese katakana, shadowing, phonics rules, Focus-on-form pronunciation aids, English/Japanese code-switching

Doctoral program: Identity and second language use, Developing tests for elementary school English teacher suitability, Formulation in interaction, Japanese compound verbs, Similar forms in Chinese and Japanese

Teaching staff

Shin'ichiro ISHIKAWA, Professor

Subjects: Special Lecture 2 on Contents in Second Language Education, etc.

Research fields: My research fields cover applied linguistics, corpus linguistics, psycho-linguistics, and TESOL (especially vocabulary learning, development and analysis of teaching materials, and language teaching methodologies). I welcome any students who want to consider languages and language educations from a scientific perspective.

Harumi KASHIWAGI, Professor

Subjects: Special lecture on second language educational technology, etc.

Research fields: Recently, I have been interested in developing a learning system by using the position information of learners and objects in real space. I am also interested in developing a listening-based learning system and a system with an interactive whiteboard. I welcome any students who are interested in developing a learning system with new technology. If you have any questions, e-mail me.

Emiko KIHARA, Associate Professor

Subjects: Special lecture on second language teaching theory, etc.

Research fields: My research relates to Cognitive Linguistics, especially to constructions in English. I have focused on the correlation between form and meaning in English (written by the native speaker), and currently I am studying constructions written by L2 learners (Japanese college students).

Tim GREER, Professor

Subjects: Special lecture on second language operations, etc.

Research fields: I am interested in the relation between linguistic expressions and the people that use them. I specialize in L2 pragmatics, using qualitative investigation methods and detailed, empirical analysis of conversations. I research social activities involving words that come up in ordinary and bilingual conversation, as well as conversation in oral English ability tests. Additionally, I also research coursework analysis, identity construction and bilingualism.

Shunyaku SHU, Professor

Subjects: Special lecture on adaptive linguistic comparisons, etc.

Research fields: My research interests are situated at the intersection between speech science and second language education. I research speech from psychological, biological and physical standpoints, and consider ways to more effectively teach second language pronunciation. I would be like to supervise students with an interest in second language pronunciation and its pedagogy.

Yoshikazu MASUDA, Professor

Subjects: Special lecture on adaptive linguistic comparisons, etc.

Research fields: My current research subjects are the Common European Framework of Reference for Languages as a guiding principle of language education in the EU, and introducing its curriculum into Japan. If you have an interest in plurilingual policies in the EU or a "1+2 approach (first + two second languages)" and portfolio, by all means, join our research.

Kazuhiro YAMATO, Associate Professor

Subjects: Special lecture on second language teaching content, etc.

Research fields: I am interested in teaching English pronunciation, particularly English prosody (i.e. rhythm and intonation) and currently working on analyzing and describing the use of intonation by Japanese EFL learners. Additionally, I am also interested in the methods and theoretical backgrounds involved in developing pragmatic competence.

Advanced Communication (Joint Research Course in Doctoral Program)

The increasing problem of cultural friction as well as the matter of coexistence with robots, which is a concern we will face in the near future, is nothing if not a communication issue. What is human communication and what cultural differences does it reflect? What roles do languages, nonlinguistic actions, body language and paralanguage play in communication? How can we make use of these in studying foreign languages? The Advanced Communication course is dedicated to using the latest technology to examine these issues, opening new possibilities for communication.

Joint Research with: Advanced Telecommunications Research Institute International (ATR)

Students' research themes

Doctoral program:

- Use of e-portfolios in English education
- The role of presenting image information from articulators in English speech education

Teaching staff

Kazuhiko SHINOZAWA, Invited Professor

Subjects: Special lecture on Advanced Communication

Research fields: Communication between humans and robots.

Reiko YAMADA, Invited Professor

Subjects: Special lecture on Advanced Communication learning

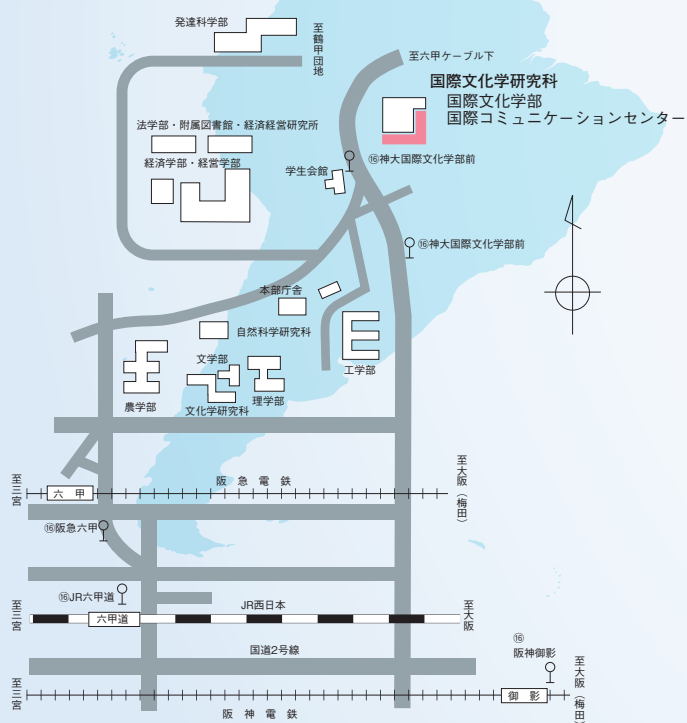
Research fields: Phonetic perception of second languages, speech-language learning, e-learning etc.

Yukiko NODA, Invited Professor

Subjects: Special lecture on Advanced Communication composition

Research fields: Vocalization, sound creation, measurement of brain activity





■交通機関

阪神「御影」・JR「六甲道」・阪急「六甲」から
 神戸市営バス16系統「六甲ケーブル下」行き
 「神大国際文化学部前」下車



神戸大学大学院国際文化化学研究科

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1-2-1
 TEL(078)803-7530 FAX(078)803-7509
<http://web.cla.kobe-u.ac.jp>